

高崎市文化財調査報告書第 482 集

萩原沖中遺跡 10

－協和キリン高崎工場 HB 7 建設に伴う埋蔵文化財発掘調査－

2 0 2 3

高 崎 市 教 育 委 員 会
協 和 キ リ ン 株 式 会 社
技 研 コ ン サ ル 株 式 会 社

高崎市文化財調査報告書第 482 集

萩原沖中遺跡 10

－協和キリン高崎工場 HB 7 建設に伴う埋蔵文化財発掘調査－

2 0 2 3

高 崎 市 教 育 委 員 会
協 和 キ リ ン 株 式 会 社
技 研 コ ン サ ル 株 式 会 社



遺跡の位置（上が北）
国土画像情報（ckt-80-1 c8 11、1980年撮影）に一部加筆



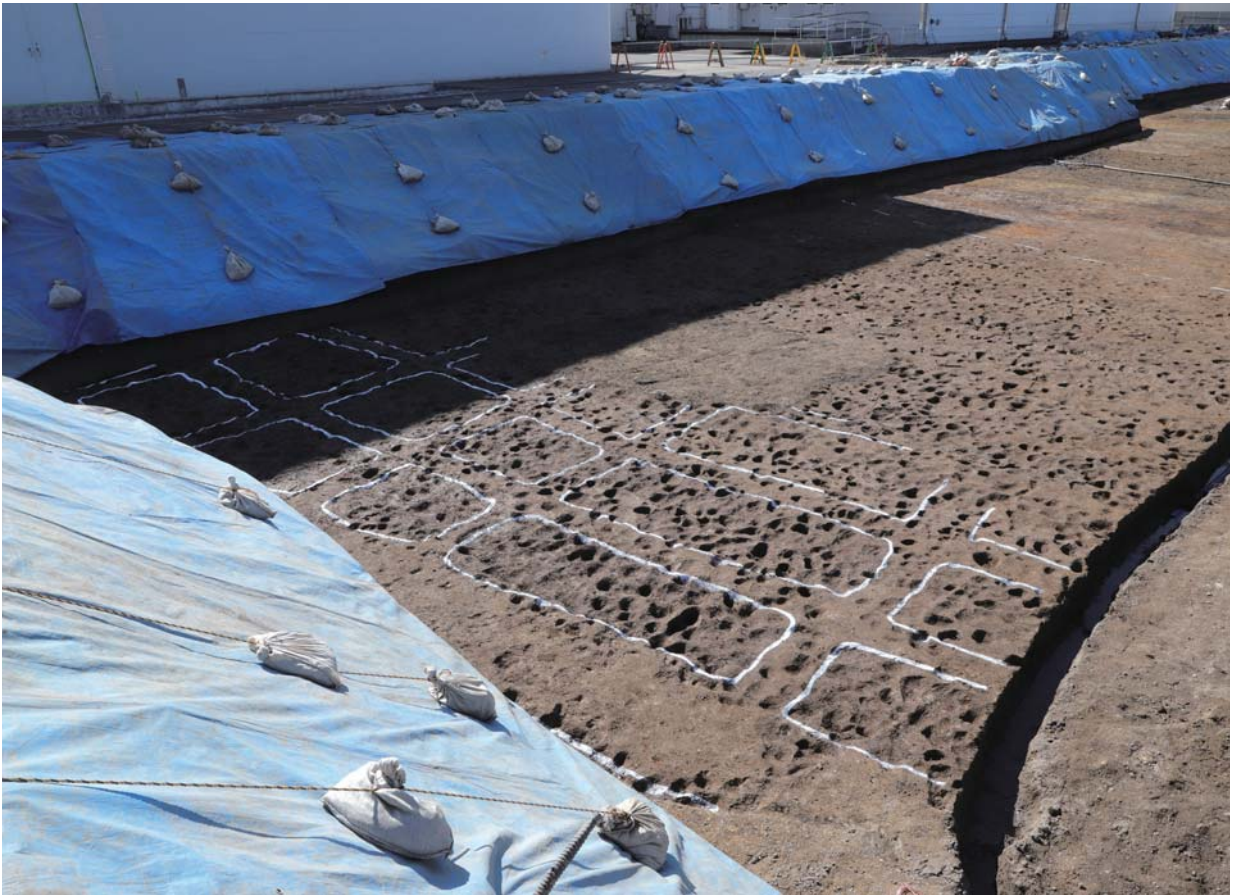
萩原沖中遺跡10全景（前方奥に榛名山 南東から）



Hr-FA洪水層下水田南側全景（南東から）



Hr-FA洪水層下水田北側全景（南東から）



Hr-FP洪水層下水田南側全景（北東から）



As-B軽石下水田北側全景（南東から）



As-B軽石下水田南側全景（北から）



基本土層（調査区北西壁 南から）



基本土層（調査区東壁 西から）



水田面断面（手前側はHr-FA洪水層下水田面、北から）

例 言

- 1 本報告書は協和キリン株式会社生産本部高崎工場 HB 7 建設に伴う「萩原沖中遺跡」第 10 次調査の埋蔵文化財発掘調査報告書である。本書での遺跡呼称は、萩原沖中遺跡 10 と略す。
- 2 発掘調査から報告書刊行に至るまでの一連の作業は、協和キリン株式会社の費用負担によって実施された。記して感謝の意を申し上げます。
- 3 遺跡の発掘調査および整理作業は、協和キリン株式会社からの委託を受けた技研コンサル株式会社が、高崎市教育委員会文化財保護課の監理指導のもと実施した。
- 4 発掘調査および整理作業の体制は下記のとおりである。

遺跡名	萩原沖中遺跡 第 10 次調査（萩原沖中遺跡 10）
市遺跡コード	848
遺跡所在地	群馬県高崎市萩原町 100 番地 1
監理指導	高崎市教育委員会文化財保護課
発掘・整理担当	佐野良平（技研コンサル株式会社）
調査員	丸山和浩（技研コンサル株式会社）
発掘調査期間	令和 4 年 7 月 15 日～令和 4 年 11 月 30 日
整理・報告書作成期間	令和 4 年 2 月 15 日～令和 5 年 3 月 31 日
調査面積	2770 m ²

- 5 本書の編集は佐野が行い、原稿執筆については第 1 章を高崎市教育委員会文化財保護課、第 2 章から第 6 章までを佐野が担当した。
- 6 発掘調査・整理作業参加者は次のとおりである。
大川明子（技研コンサル株式会社）
青木美好 新井 實 安藤三枝子 上沢公一 宇賀神光 岡田秀夫 小内武明 金子沢生 鎌田 昇
鴨田榮作 小鮎淳一 諏訪典子 高津邦道 高橋 徹 立川千栄子 田所順子 土屋和美 角田拓弥
富岡信行 中沢孝夫 中嶋千恵子 羽鳥真臣 細野竹美 村田稔男 矢島正志 山口拓郎 山田 進
- 7 発掘調査で出土した遺物および図面等の資料は、一括して高崎市教育委員会にて保管されている。
- 8 下記の諸氏・諸機関にご指導・ご協力を賜りました。記して謝意を表します。

キリンエンジニアリング株式会社 大成建設 山下工業株式会社

凡 例

- 1 全体図および遺構平面図に示した方位は北に座標北を表し、座標については世界測地系に基づく平面直角座標第Ⅸ系を使用した。
- 2 挿図に国土地理院発行 1/200,000『宇都宮』『長野』、1/25,000『高崎』『前橋』、高崎市発行 1/2,500 都市計画図を使用した。
- 3 巻頭図版 1 は国土画像情報（カラー空中写真）ckt-80-1 c8 11 を使用した。
- 4 土層および遺物の色調は『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修）に拠る。
- 5 遺構・遺物実測図の縮尺は原則的に次のとおりである。その他各図スケールを参照されたい。

遺構 水田・・・1/60、1/100 全体図・・・1/300

遺物 土器・・・1/3、 石器・・・1/1

6 本文および表中の計測値については（ ）は現存値を、〔 〕は復元値を表す。

7 断面図上の記号（←→）は水田畦畔の範囲を示す。

8 主な火山灰降下物等の略称と年代は次の通りである。

浅間 A 軽石 (As-A)・・・天明三年(1783)浅間山噴火による降下テフラ

浅間 B 軽石 (As-B)・・・嘉承三年、天仁元年(1108)浅間山噴火による降下テフラ

榛名ニッ岳伊香保テフラ (Hr-FP)・・・6世紀中葉の榛名山ニッ岳噴火による降下テフラ

榛名ニッ岳伊香保テフラ (Hr-FA)・・・5世紀末～6世紀初頭の榛名山ニッ岳噴火による降下テフラ

浅間 C 軽石 (As-C)・・・3世紀後葉～4世紀初頭の浅間山ニッ岳噴火による降下テフラ

目 次

巻頭図版

例言・凡例

第1章 調査に至る経緯	1
第2章 遺跡の位置と環境	1
1 地理的環境	1
2 歴史的環境	2
第3章 調査方針と経過	11
1 調査範囲と基本方針	11
2 調査経過	11
第4章 基本土層	12
第5章 遺構と遺物	13
1 第4面(As-C軽石下混土層)	13
2 第3面(Hr-FA洪水層下水田)	15
3 第2面(Hr-FP洪水層下水田)	34
4 第1面(As-B軽石下水田)	42
5 3工区立会い調査	59
6 その他	60
第6章 まとめ	62

挿図目次

第1図 遺跡の位置	第17図 Hr-FA洪水層下水田(8)	24
第2図 高崎の地質	第18図 Hr-FA洪水層下水田(9)	25
第3図 周辺遺跡図	第19図 Hr-FA洪水層下水田(10)	26
第4図 調査区設定図(1/3,000)	第20図 Hr-FA洪水層下水田(11)	27
第5図 工区設定図(1/600)	第21図 Hr-FA洪水層下水田(12)	28
第6図 基本土層	第22図 Hr-FA洪水層下水田断面図(1)	29
第7図 第4面断面図	第23図 Hr-FA洪水層下水田断面図(2)	30
第8図 第4面全体図	第24図 第3面出土遺物	30
第9図 第3面全体図	第25図 第2面全体図	35
第10図 Hr-FA洪水層下水田(1)	第26図 Hr-FP洪水層下水田(1)	36
第11図 Hr-FA洪水層下水田(2)	第27図 Hr-FP洪水層下水田(2)	37
第12図 Hr-FA洪水層下水田(3)	第28図 Hr-FP洪水層下水田(3)	38
第13図 Hr-FA洪水層下水田(4)	第29図 Hr-FP洪水層下水田(4)	39
第14図 Hr-FA洪水層下水田(5)	第30図 Hr-FP洪水層下水田断面図	40
第15図 Hr-FA洪水層下水田(6)	第31図 第1面全体図	43
第16図 Hr-FA洪水層下水田(7)	第32図 As-B軽石下水田(1)	44

第33図	As-B軽石下水田（2）	45	第44図	耕作具痕	56
第34図	As-B軽石下水田（3）	46	第45図	As-B軽石下水田断面図（1）	57
第35図	As-B軽石下水田（4）	47	第46図	As-B軽石下水田断面図（2）	58
第36図	As-B軽石下水田（5）	48	第47図	第1面出土遺物	58
第37図	As-B軽石下水田（6）	49	第48図	第3工区Hr-FA洪水層下水田推定図	59
第38図	As-B軽石下水田（7）	50	第49図	第3工区土層断面図	60
第39図	As-B軽石下水田（8）	51	第50図	遺構外出土遺物	60
第40図	As-B軽石下水田（9）	52	第51図	本遺跡周辺のHr-FA洪水層下水田	63
第41図	As-B軽石下水田（10）	53	第52図	本遺跡周辺のHr-FP洪水層下水田	64
第42図	As-B軽石下水田（11）	54	第53図	本遺跡周辺のAs-B軽石下水田と坪内区画	66
第43図	As-B軽石下水田（12）	55	第54図	萩原沖中遺跡10周辺の畦畔想定図	67

表目次

第1表	周辺遺跡一覧表	5
第2表	調査経過	12
第3表	Hr-FA洪水層下水田計測表	30
第4表	Hr-FP洪水層下水田計測表	41
第5表	As-B軽石下水田計測表	58
第6表	出土遺物観察表	61

写真図版

PL.1	萩原沖中遺跡10全景 基本土層	PL.16	Hr-FP洪水層下水田南側全景
PL.2	第4面全景	PL.17	Hr-FP洪水層下水田全景 Hr-FP洪水層下水田大畦畔全景 Hr-FP・Hr-FA洪水層下水田大畦畔断面写真
PL.3	第4面全景	PL.18	As-B軽石下水田全景 As-B軽石下水田北側全景
PL.4	Hr-FA洪水層下水田全景 Hr-FA洪水層下水田北側全景	PL.19	As-B軽石下水田北側全景
PL.5	Hr-FA洪水層下水田北側全景	PL.20	As-B軽石下水田北側全景 As-B軽石下水田南側全景
PL.6	Hr-FA洪水層下水田北側全景	PL.21	As-B軽石下水田南側全景
PL.7	Hr-FA洪水層下水田北側全景	PL.22	As-B軽石下水田南側東部全景 As-B軽石下水田北側西部全景
PL.8	Hr-FA洪水層下水田北側近景	PL.23	As-B軽石下水田北側東部全景 As-B軽石下水田南側西部全景
PL.9	Hr-FA洪水層下水田とAs-B軽石水田面 Hr-FA洪水層下水田畦畔土層状況	PL.24	As-B軽石下水田耕作具痕全景 As-B軽石下水田北側足跡全景
PL.10	Hr-FA洪水層下水田南側全景	PL.25	As-B軽石下水田畦畔1全景
PL.11	Hr-FA洪水層下水田南側全景	PL.26	As-B軽石下水田畦畔2全景 As-B軽石下水田畦畔1全景 As-B軽石下水田畦畔1断面 As-B軽石下水田畦畔2断面
PL.12	Hr-FA洪水層下水田南側全景	PL.27	3工区トレンチ 3工区トレンチ土層断面
PL.13	Hr-FA洪水層下水田南側全景	PL.28	遺構確認作業風景 Hr-FA洪水層下水田調査風景 出土遺物
PL.14	Hr-FA洪水層下水田大畦畔全景 Hr-FA洪水層下水田検出状況 Hr-FA洪水層下水田大畦畔検出状況		
PL.15	Hr-FP洪水層検出状況 Hr-FP洪水層下水田北側全景		

第1章 調査に至る経緯

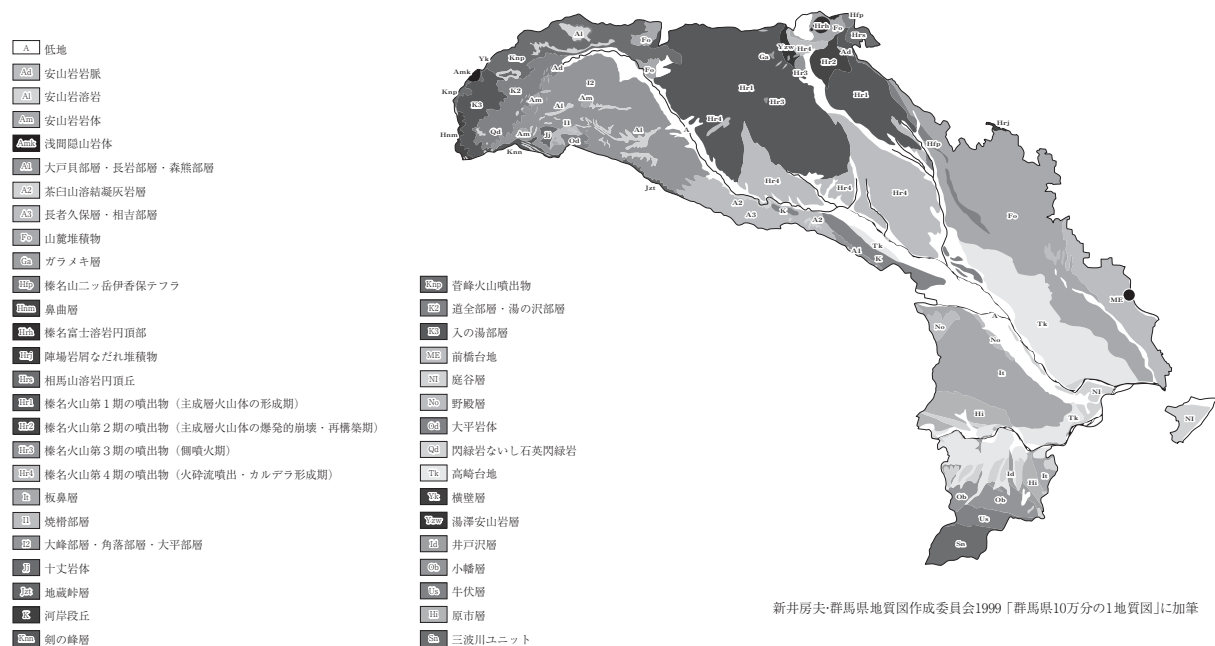
令和4年1月、協和キリン株式会社生産本部高崎工場から高崎市萩原町において計画している工場建設に先立ち、埋蔵文化財の照会が高崎市教育委員会文化財保護課（以下、「市教委」と略）にあった。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地に該当するため、工事に際し協議が必要の旨、回答した。同年1月28日、市教委に試掘確認調査依頼書が提出され、同年4月20日に試掘確認調査を実施した。その結果、古代の水田遺構を確認した。この結果を踏まえ、開発者と市教委とで遺跡の保存に係る協議を行ったが、現状保存は困難との結果となり、記録保存を目的とした発掘調査を実施することで合意した。遺跡名は「萩原沖中遺跡第10次」とし、発掘調査は、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」に順じ、令和4年7月15日、協和キリン株式会社生産本部高崎工場・技研コンサル株式会社との間で契約締結を行い、調査指導・監督は市教委が実施することとなった。

第2章 遺跡の位置と環境

1 地理的環境（第2図）

「萩原沖中遺跡10」は高崎市萩原町に所在し、高崎市中心街から東へ約6kmの市域東端部に位置する。東側には利根川が高崎市と前橋市の市境を南流し、南西側には滝川が北西から南西へ向かって流れている。この滝川は江戸時代初期に開削された用水路（天狗岩用水）であり、現在でも周辺や下流域の水田を潤している。

本遺跡は約24,000年前（洪積世後期）の浅間山を構成する黒斑山の大規模噴火に伴う山体崩落による火山泥流堆積物（前橋泥流）と、それを被覆する水成ローム層から成る前橋台地に立地する。遺跡の東側を南流する利根川は、中世以前には現在の広瀬川が流れる広瀬川低地帯に流路があったが、中世の複数回にわたる洪水により旧河川の流路を奪取する形で現在の位置に変流したとされている。遺跡は台地の微高地と後背湿地が複雑に入り組



第2図 高崎の地質

んだ地形の後背湿地の部分に位置する。現在では相馬ヶ原扇状地を水源とする中小河川沿いの自然堤防上の微高地は宅地、その後背湿地は水田として利用されている（巻頭図版2）。また近年では、道路整備や商業施設の出店等により田畑の宅地化が進んでいる地域である。

2 歴史的環境（第3図、第1表）

縄文時代 縄文時代の遺跡は当該地域では少なく、公田池尻遺跡（30）の土坑、西田Ⅲ遺跡（45）で草創期の有舌尖頭器、横手湯田遺跡（38）で溝底部より中～後期にかけての土器片が出土しているだけである。本遺跡の南西方向に位置する元島名遺跡（56）では長方形土坑から後期の深鉢が出土しており、土器周囲からは炭化物が検出されている。上記以外の遺構やまとまった遺物の出土例は現在のところ知られていないが土器片や石器が広範囲に分布していることから小規模な集落が点在していた可能性が考えられる。

弥生時代 利根川流域周辺では縄文時代と同様に遺構は少ない。櫛島川端遺跡（23）では中期の再葬墓と後期の住居跡、公田池尻遺跡では弥生期の水田の存在を窺わせる用水路跡が確認されている。本遺跡南西の井野川周辺に目を移すと元島名遺跡や鈴ノ宮遺跡では集落跡や方形周溝墓が確認されている。また関越自動車道沿線を北西に進むと集落や水田跡が確認された国指定史跡の日高遺跡が存在する。

古墳時代 古墳時代の遺跡は前時代に比べ飛躍的に増加する。いままで過疎地ともいえる地域（低地部）に新たな大開発を目的に人々が進出し、微高地に集落を造り低地には水田を営み、井野川や烏川流域に有力者の墳墓が造営されるようになる。本遺跡に近い井野川左岸には県内最古の古墳として位置付けられている全長90mの前方後方墳である元島名将軍塚古墳（C）や1966年の調査で複室構造の両袖型横穴式石室が確認された前方後円墳である前山古墳（D）、横穴式石室をもつ全長30mの前方後円墳である御伊勢山古墳（E）があり、井野川下流域には数多くの副葬品や埴輪が出土した国指定史跡の綿貫観音山古墳や舟形石棺をもつ不動山古墳等が存在する。西横手遺跡群Ⅰ・Ⅱ（11）、櫛島川端遺跡、公田東遺跡（29）、綿貫遺跡（74）では周溝墓が確認されている。また井野川左岸にあたる下滝天水遺跡（61）では5世紀に推定される居館の堀跡の一部が確認されており、周辺域を治めていた豪族の居館跡と推定されている。

集落遺跡として前期では公田池尻遺跡、横手湯田遺跡、横手早稲田遺跡（34）、上滝遺跡（64）、綿貫遺跡、後期では下佐鳥遺跡（25）、川曲遺跡（26）、公田東遺跡、上滝榎町北遺跡（59）、上滝遺跡、中大類金井遺跡（68）、中大類金井分遺跡（69）、下大類遺跡（72）、綿貫遺跡等が挙げられる。本遺跡の直近では萩原・沖中遺跡8（8）・萩原・沖中遺跡9（9）で前期の周溝状遺構が確認されている。集落の分布域を見てみると主に井野川兩岸の河岸段丘上の低台地に集中していることがわかる。井野川左岸の段丘より北西の低地部では集落遺跡が皆無に等しく生産域として活用された地域であったようである。

生産遺跡としての水田跡は近年の発掘調査事例の増加に伴い本遺跡の立地する低地部において広範囲に亘って確認されている。本遺跡周辺では6世紀初頭と中葉の2回の榛名山噴火時の泥流や火山灰で埋没した水田（Hr-FA下水田、Hr-FP下水田）が確認され、そのほとんどが小畦畔で区画されている「小区画水田」である。

奈良・平安時代 律令制に伴い、現在で言う「都市計画」的な開発が行われた時期である。前橋市元総社町付近には国府が造営され、台地上は条里地割に基づく大規模な耕地開発が行われた。施工時期については不明な点も多いが、前橋台地の北東側、広瀬川低地帯にある中原遺跡（前橋市）の調査では、弘仁九年（818）に起きた地震に起因する泥流堆積物直下から、条里地割を伴う水田跡が確認されている。台地上においても砂町遺跡（玉村町）では大畦畔成立時期は8世紀後半と考えられており、西田遺跡では9世紀後半代の竪穴住居跡を切って条里地割を伴う水田跡が検出していることから、遅くとも9世紀代には水田開発が行われたと考えられる。嘉承三年、天仁元年（1108）の浅間山の噴火に起因するAs-B軽石層に覆われた水田跡は、本遺跡周辺ではほぼすべての調査地点で検出している。この時期に耕地が爆発的に増大したことがわかる。しかしながら、承平・天慶の乱や度

重なる利根川の氾濫・洪水等の自然災害、承和年間（834～848）の飢饉・疫病の流行等により荒廃と再開発が繰り返される。その過程で耕地開発の主が土着有力氏族の支配下へと移っていったと考えられる。

当期の集落遺跡は前時代同様自然堤防上等の微高地に分布しており公田東遺跡、公田池尻遺跡、西田遺跡（43）、西田Ⅱ遺跡（44）、西田Ⅵ遺跡（47）、下滝天水遺跡、上滝遺跡、中大類金井分遺跡、下大類蟹沢遺跡（70）、下大類遺跡、綿貫小林前遺跡（73）、綿貫遺跡が挙げられる。

中世 享徳三年（1454）、鎌倉公方足利成氏による関東管領上杉憲忠の誅殺に端を発し、関東全域を二分して文明十四年（1482）までの約30年間戦乱が続くこととなる（享徳の乱）。両陣営の境目となる利根川の流域付近では軍事的緊張感が高まり、それに伴い攻撃・防御拠点となる城館が多く造られるようになる。文明八年（1476）、上杉家中の分裂争いから長尾景春が鉢形城（埼玉県寄居町）で挙兵し、上杉方の重要拠点である五十子陣（埼玉県本庄市）を急襲する（長尾景春の乱）。この陣にいた上杉顕定は陣所の維持が困難となったため阿内城（阿内古城、f）へ撤退することとなる（『松陰私語』）。文明九年（1477）、足利成氏はこれを好機とみて、滝（市内上滝町・下滝町周辺）、島名（市内元島名町）に進出し陣所を構える（『松陰私語』）。このことから本遺跡周辺地域もこの戦乱の渦中にあったことが窺える。

戦国時代になると上野国内は甲斐の武田氏、越後の上杉氏、相模の北条氏等、外来勢力の侵攻により草刈り場の様相を呈する。地元の支配層はその勢力に対抗、または服従し自領の保全に努めた。そういった状況下から高崎市東南部～伊勢崎市西部にかけての微高地上に地元の有力氏族や外来支配者によって城館が数多く造られる。本遺跡に近い萩原城（v）は地侍である萩原地衆の16世紀代の城館とされている。萩原は永禄三年（1560）長尾景虎（上杉謙信）が関東侵攻の際に、上野国内の「衆」と呼ばれる地域連合集団（箕輪衆・沼田衆など）に対して服属の意思として名を記載した名簿「関東幕注文」の惣社衆の一人として名がみられる。惣社衆は蒼海城（前橋市元総社町）を本拠とする長尾氏（関東管領上杉氏の家宰）が統率し、萩原の他に安中氏、小幡氏、多比良氏、大類氏、多胡氏、瀬下氏等の名がみられ、やや広範囲に亘って連合集団を形成していたことがわかる。その中で萩原城は蒼海城を中心とした連合支城群の一つとして機能していたと考えられる。本遺跡南西に位置する元島名城（島名城、q）は昭和53年に発掘調査が行われている。調査では本丸と推定される郭の堀跡や掘立柱建物跡・井戸等が確認され、遺物は内耳鍋・鉢等の軟質陶器や瀬戸・美濃等の陶磁器を中心に出土している。石製品の中には石臼・五輪塔の他に延慶二年（1309）の銘がある板碑が出土している。こういった城館は近年の圃場整備や開発等により削平され、そのほとんどが堀跡をわずかに残すのみである。

近世 天明三年（1783）浅間山が噴火し県内全域に火山灰（As-A）が降灰し吾妻川へと流れ込んだ泥流は利根川を伝って下流域へ被害をもたらした。降り積もった火山灰を地中に埋めて処理した所謂「復旧痕（灰掻き穴）」は横田湯田遺跡、横手井戸南遺跡（35）、西横手南川端遺跡（36）、下阿内壺町畑遺跡（48）、宿横手三波川遺跡（58）で確認されている。本遺跡から南東へ約5kmの位置にある上福島中町遺跡では利根川を流下した泥流下から被害の受けた集落跡が確認された。1.5mの厚さで堆積した泥流は建物跡・便所・井戸・畠を呑み込んでおり、建物跡から出土した数多くの生活用具が建物外へ移動していない点から泥流はゆっくりと押し寄せていったと考えられている。

第1表 周辺遺跡一覧表

遺跡

No	遺跡名	水田				時代：主な遺構・出土遺物	報告書・参考文献
		C	FA	FP	B		
1	萩原沖中遺跡 10		○	○	○	-	本報告書
2	萩原沖中遺跡		○	○	○	近世：溝	『萩原沖中遺跡』2005 高崎市教育委員会
3	萩原沖中Ⅱ遺跡		○	○	○	近世：溝	『萩原沖中遺跡Ⅱ』2007 高崎市教育委員会
4	萩原沖中遺跡 第3次調査		○	○	○	古墳：土坑・ピット・溝	『萩原沖中遺跡第3次調査』2009 高崎市教育委員会
5	萩原沖中遺跡5		○	○	○	-	『萩原沖中遺跡5』2009 高崎市教育委員会
6	萩原・沖中遺跡6		○	○	○	-	『萩原・沖中遺跡6』2009 高崎市教育委員会
7	萩原・沖中遺跡7		○	○	○	中近世：土坑	『萩原・沖中遺跡7 西横手・西免遺跡4 西横手・西免遺跡5』2013 高崎市教育委員会
8	萩原・沖中遺跡8		○		○	古墳：周溝状遺構・埋甕、中近世：溝	『萩原・沖中遺跡8』2015 高崎市教育委員会
9	萩原・沖中遺跡9		○	○	○	古墳：周溝状遺構、中近世：溝	『萩原・沖中遺跡9』2022 高崎市教育委員会
10	西横手遺跡群	○	○	○		古代：住居跡・掘立柱建物跡、 中近世：屋敷跡・墓壇群	『西横手遺跡群』2001 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
11	西横手遺跡群Ⅰ・Ⅱ		○		○	古墳：周溝墓・水路跡、中世：畝状遺構、 近世：備前堀	『西横手遺跡群Ⅰ』1989 高崎市教育委員会 『西横手遺跡群Ⅱ』1990 高崎市教育委員会
12	西横手・西免遺跡4、 西横手・西免遺跡5		○		○	近世：備前堀	『萩原・沖中遺跡7 西横手・西免遺跡4 西横手・西免遺跡5』2013 高崎市教育委員会
13	萩原八幡坤遺跡		○			-	『高崎市内遺跡埋蔵文化財緊急発掘調査報告17』2003 高崎市教育委員会
14	萩原上五丁田Ⅰ遺跡		○	○	○	-	『群馬県高崎市 萩原上・下五丁田Ⅰ遺跡』1999 県央処理区萩原遺跡調査会
15	萩原上五丁田Ⅱ遺跡		○	○	○	古墳：溝	『群馬県高崎市 萩原上五丁田Ⅱ遺跡』2001 県央処理区萩原遺跡調査会
16	萩原八幡西・ 萩原上五丁田Ⅲ・ 下五丁田Ⅱ遺跡		○	○		古代：溝、中世：道路跡	『萩原八幡西・萩原上五丁田Ⅲ・下五丁田Ⅱ遺跡』2003 高崎市教育委員会
17	京日杉ノ内・ 大沢大沢西遺跡				○	近世：溝	『京日杉ノ内・大沢大沢西遺跡』1999 高崎市教育委員会
18	京日久保・天神前・ 柳ノ内・上小路遺跡		○		○	中世：堀・溝	『京日久保・天神前・柳ノ内・上小路遺跡』2000 高崎市教育委員会
19	萩原団地遺跡	○	○	○	○	近世：畝状遺構・溝	『萩原団地遺跡』1993 高崎市遺跡調査会発掘調査団
20	下新田遺跡					古墳：住居跡、近世：備前堀	『下新田遺跡』1979 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
21	下新田沖中遺跡				○	-	『下新田沖中遺跡』1998 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
22	下新田沖中Ⅱ遺跡				○	-	『下新田沖中Ⅱ遺跡』1998 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
23	勝島川端遺跡	○	○	○		弥生：住居跡・再葬墓、古墳：住居跡・ 掘立柱建物跡・方形周溝墓・祭祀跡・ 遺物集中	『勝島川端遺跡』1996 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
24	上佐島中原前・ 上佐島中原前Ⅱ遺跡				○	-	『上佐島中原前遺跡』1998 『上佐島中原前Ⅱ遺跡』2004 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
25	下佐島遺跡					古墳：後期の住居跡	『須摩野遺跡・下佐島遺跡・宿阿内城跡』1983 群馬県教育委員会
26	川曲遺跡					古墳：後期の住居跡	『川曲遺跡・東公田古墳』1982 群馬県教育委員会
27	東田遺跡					古墳：前期の遺物出土	『東田遺跡』1998 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
28	宮地中田遺跡				○	-	『宮地中田遺跡』1997 前橋市埋蔵文化財発掘調査団

No	遺跡名	水田				時代：主な遺構・出土遺物	報告書・参考文献
		C	FA	FP	B		
29	公田東遺跡		○		○	古墳：方形周溝墓、古代：住居跡・掘立柱建物跡、中世：居館周濠・畠・井戸、近世：畠・溝	『勝島川端遺跡・公田東遺跡・公田池尻遺跡』1997 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
30	公田池尻遺跡		○	○	○	縄文：土坑、弥生：用水路跡、古墳：住居跡、古代：住居跡、中世：居館跡	『勝島川端遺跡・公田東遺跡・公田池尻遺跡』1997 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
31	亀里平塚遺跡		○		○	中世：水田跡	『亀里平塚遺跡・横手宮田遺跡・横手早稲田遺跡・横手南川端遺跡』2001 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
32	横手宮田遺跡	○	○		○	中世：水田跡	『亀里平塚遺跡・横手宮田遺跡・横手早稲田遺跡・横手南川端遺跡』2001 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
33	横手宮田Ⅱ遺跡				○	-	『横手宮田Ⅱ遺跡』2004 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
34	横手早稲田遺跡		○	○		古墳：前期の住居跡、中世：水田跡	『亀里平塚遺跡・横手宮田遺跡・横手早稲田遺跡・横手南川端遺跡』2001 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
35	横手井戸南遺跡				○	中世：水田跡、近世：As-A 泥流埋設土坑	『亀里平塚遺跡・横手宮田遺跡・横手早稲田遺跡・横手南川端遺跡』2001 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
36	西横手南川端遺跡		○			古墳：住居跡・祭祀跡・井戸、平安：溝、中近世：泥流下水田跡、屋敷跡、灰掻き穴	『亀里平塚遺跡・横手宮田遺跡・横手早稲田遺跡・横手南川端遺跡』2001 『横手南川端遺跡・横手湯田遺跡』2002 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
37	亀里銭面遺跡・ 亀里銭面Ⅱ遺跡				○	中近世：掘立柱建物跡、井戸、土坑、溝	『亀里銭面遺跡』2001 『亀里銭面Ⅱ遺跡』2001 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
38	横手湯田・ 横手湯田Ⅱ～Ⅵ遺跡		○	○	○	古墳：前期周溝墓、住居跡、中世：居館、近世：環濠屋敷、As-A 復旧痕	『横手南川端遺跡・横手湯田遺跡』2002 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 『横手湯田Ⅱ遺跡・西田Ⅱ遺跡』1998 『横手湯田Ⅲ遺跡・徳丸仲田Ⅱ遺跡・西善尺司Ⅱ遺跡・下増田越渡Ⅲ遺跡』1998 『横手湯田Ⅳ遺跡』1998 『横手湯田Ⅴ遺跡・徳丸仲田Ⅳ遺跡』2001 『横手湯田Ⅵ遺跡』2000 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
39	亀里油免Ⅱ遺跡				○	中世：溝	『亀里油免Ⅱ遺跡』2005 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
40	鶴光路練引遺跡				○	-	『鶴光路練引遺跡』1997 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
41	村中遺跡	○			○	中世：居館、近世：屋敷・墓壇	『西田遺跡・村中遺跡』2002 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
42	村中Ⅱ遺跡					平安：溝・土坑	『村中Ⅱ遺跡・西田Ⅴ遺跡』2001 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
43	西田遺跡	○	○		○	平安：住居跡、近世：墓壇	『西田遺跡・村中遺跡』2002 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
44	西田Ⅱ遺跡				○	平安：住居跡	『横手湯田Ⅱ遺跡・西田Ⅱ遺跡』1998 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
45	西田Ⅲ遺跡					縄文：草創期の有舌尖頭器、古墳：土坑・溝、平安：掘立柱建物跡、中近世：溝	『西田Ⅲ遺跡』1999 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
46	西田Ⅴ遺跡					平安：溝・土坑	『村中Ⅱ遺跡・西田Ⅴ遺跡』2001 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
47	西田Ⅵ遺跡				○	平安：住居跡・溝、中近世：溝	『西田Ⅵ遺跡』2001 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
48	下阿内壱町畑遺跡		○		○	古墳：円形建物跡・土器集積遺構・溝、近世：As-A 灰掻き穴	『下阿内壱町畑遺跡・下阿内前田遺跡』2001 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
49	南部拠点地区遺跡群 No. 1		○		○	平安：溝・土坑・ピット、中近世：溝・土坑・ピット	『南部拠点地区遺跡群 No. 1』2009 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
	南部拠点地区遺跡群 No. 2				○	古墳：溝・ピット、中近世：溝・土坑・ピット	『南部拠点地区遺跡群 No. 2』2009 前橋市埋蔵文化財発掘調査団

No	遺跡名	水田				時代：主な遺構・出土遺物	報告書・参考文献
		C	FA	FP	B		
49	南部拠点地区遺跡群 No. 3				○	古墳～中近世：溝・土坑、近代：焼夷弾跡	『南部拠点地区遺跡群 No. 3』2009 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
	南部拠点地区遺跡群 No. 4		○		○	平安：溝・土坑、中近世：溝・土坑	『南部拠点地区遺跡群 No. 4』2010 前橋市教育委員会
	南部拠点地区遺跡群 No. 5		○		○	古墳：溝、中世：溝・土坑	『南部拠点地区遺跡群 No. 5』2010 前橋市教育委員会
	南部拠点地区遺跡群 No. 6				○	-	『南部拠点地区遺跡群 No. 6』2011 前橋市教育委員会
	南部拠点地区遺跡群 No. 7				○	中世～現代：溝・土坑・ピット	『南部拠点地区遺跡群 No. 7』2014 前橋市教育委員会
	南部拠点地区遺跡群 No. 8				○	中世以降：溝・土坑	『南部拠点地区遺跡群 No. 8』2014 前橋市教育委員会
	南部拠点地区遺跡群 No. 9				○	中近世：溝・土坑・ピット	『南部拠点地区遺跡群 No. 9』2014 前橋市教育委員会
	南部拠点地区遺跡群 No.10				○	古墳：住居跡・土坑	『南部拠点地区遺跡群 No.10』2014 前橋市教育委員会
	南部拠点地区遺跡群 No.11		○		○	古墳：前期外周溝建物・井戸、古代：溜井状遺構・道路跡、中近世：掘立柱建物跡・柵列・溝	『南部拠点地区遺跡群 No.11』2014 前橋市教育委員会
	南部拠点地区遺跡群 No.12		○		○	古墳前期：周溝状遺構、古墳後期～近世：溝・土坑	『南部拠点地区遺跡群 No.12』2022 前橋市教育委員会
50	鳥野神明遺跡					古代：As-B 下畠	『高崎市内六遺跡埋蔵文化財発掘調査概報』1992 高崎市教育委員会
51	鳥野四辻遺跡				○	-	『飯塚新田西Ⅲ遺跡・鳥野四辻遺跡・第17回埋蔵文化財展事業報告』2000 高崎市教育委員会
52	鳥野村西遺跡		○		○	-	『高崎市内六遺跡埋蔵文化財発掘調査概報14』2000 高崎市教育委員会
53	鳥野村東遺跡				○	-	『鳥野村東遺跡』1988 高崎市教育委員会
54	鳥野中町遺跡		○		○	-	『高崎市内六遺跡埋蔵文化財発掘調査概報』1992 高崎市教育委員会
55	元鳥名中子遺跡				○	-	『高崎市内遺跡埋蔵文化財緊急発掘調査報告13』1999 高崎市教育委員会
56	元鳥名遺跡					縄文：土坑、弥生：住居跡、古墳：前期の住居跡、中世：掘立柱建物跡	『元鳥名遺跡』1979 高崎市教育委員会
57	元鳥名諏訪北遺跡				○	-	『高崎市内六遺跡埋蔵文化財発掘調査概報』1992 高崎市教育委員会
58	宿横手三波川遺跡		○	○	○	中世：掘立柱建物跡・土坑・畠、近世：畠・溝・灰掻き穴	『宿横手三波川遺跡』1999 『宿横手三波川遺跡』2001 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
59	上滝榎町北遺跡		○	○	○	古墳：後期の住居跡、中世：居館跡、近世：水田跡	『上滝榎町北遺跡』2002 『上滝榎町北遺跡・上滝Ⅱ遺跡』2002 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
60	上滝榎町北Ⅱ遺跡		○	○	○	中世：堅穴状遺構・掘立柱建物跡	『上滝榎町北Ⅱ遺跡』1997 高崎市遺跡調査会
61	下滝天水遺跡		○	○	○	古墳：住居跡・溝・剣形石製品、古代：住居、中世：掘立柱建物跡・溝、近世：水田・畠	『下滝天水遺跡』2004 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
62	元鳥名 A 遺跡					-	『八幡原 A・B、上滝、元鳥名 A 遺跡』1981 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

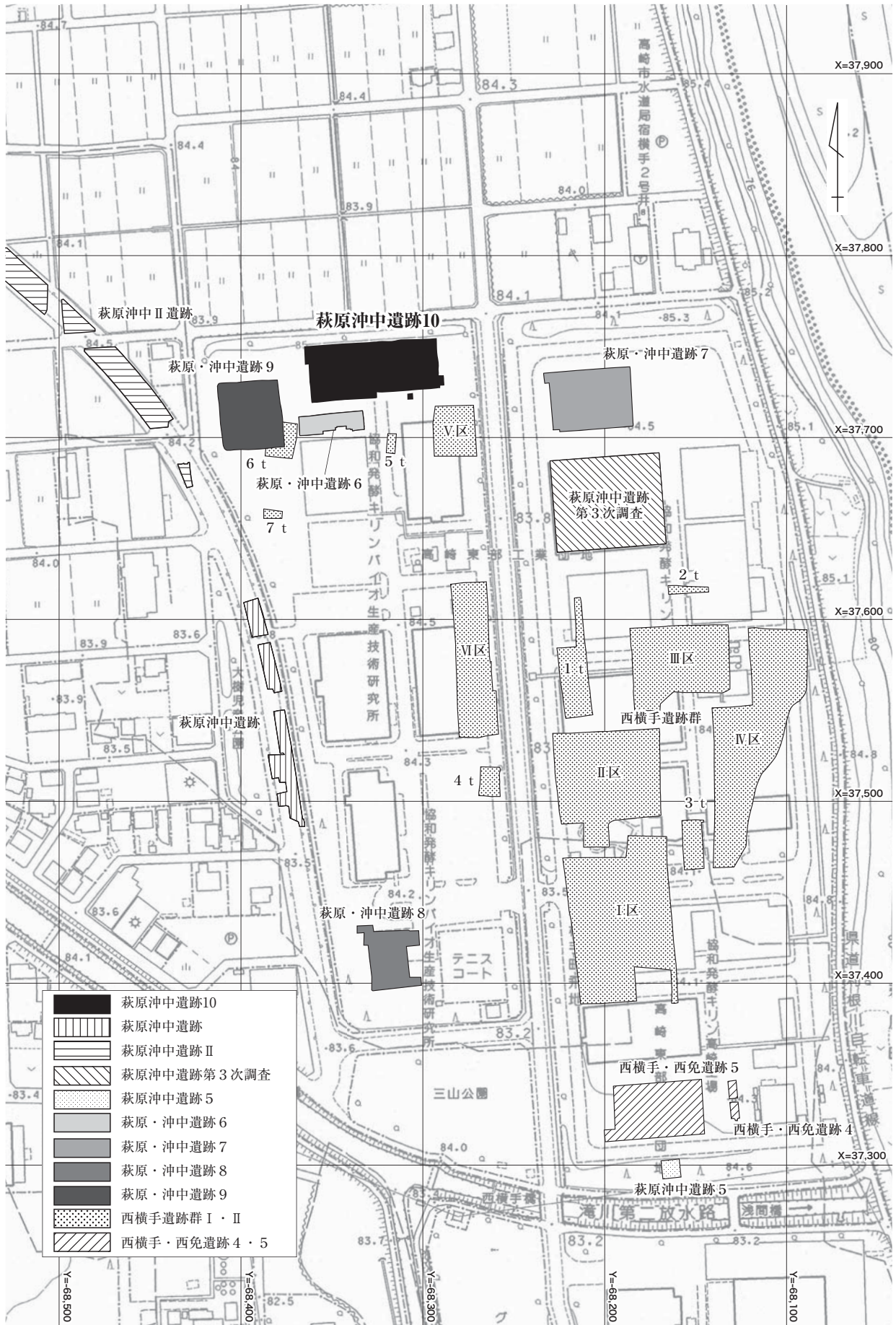
No	遺跡名	水田				時代：主な遺構・出土遺物	報告書・参考文献
		C	FA	FP	B		
63	元鳥名B遺跡					中世：元鳥名城の堀・溝	『元鳥名B・吹屋遺跡』1982 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
64	上滝遺跡					古墳：前期・後期の住居跡、古代：奈良期の住居跡、中世：居館周濠	『下斎田・滝川A遺跡、滝川B・C遺跡』1987 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
65	上滝II遺跡		○	○		中世：堀切	『上滝榎町北遺跡・上滝II遺跡』2002 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
66	滝川C遺跡					古墳：前期の土坑	『下斎田・滝川A遺跡、滝川B・C遺跡』1987 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
67	上滝五反畑遺跡		○		○	近世：As-A 下水田	『上滝五反畑遺跡』1999 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
68	中大類金井遺跡					古墳：後期の住居跡、平安：土坑	『中大類金井遺跡』1989 高崎市遺跡調査会
69	中大類金井分遺跡					古墳：後期の住居跡、奈良：住居跡	『中大類金井分遺跡』1992 高崎市遺跡調査会
70	下大類蟹沢遺跡					古墳：古墳・集落、古代：集落	『下大類蟹沢遺跡』1993 高崎市遺跡調査会
71	下大類・中道下遺跡					古墳：溝・土坑、古代：溝	『下大類・中道下遺跡』2010 高崎市教育委員会
72	下大類遺跡					古墳：後期の住居跡、古代：住居跡	1978 調査 高崎市教育委員会
73	綿貫小林前遺跡					古墳前期・後期：集落、平安：集落、中世：居館周濠	『綿貫小林前遺跡』2006 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
74	綿貫遺跡					古墳：観音山古墳周濠・方形周溝墓・前後期の集落、古代：瓦葺建物跡・集落	『綿貫遺跡』1985 高崎市教育委員会
75	元鳥名旭遺跡 元鳥名旭遺跡2					古墳：後期溝、近世：溝・土坑 古墳：前期溝、近世：溝・土坑 不明：コノ字状区画	『平成22年度市内遺跡発掘調査報告書』2011 高崎市教育委員会 『元鳥名旭遺跡2』2017 高崎市教育委員会
76	元鳥名下河原遺跡					縄文：包含層、弥生：散布地、古墳：前期包含層・中～後期集落、古代：集落	『元鳥名下河原遺跡』1994 高崎市遺跡調査会
77	中大類・天田遺跡					古墳：散布地、古代：集落、中世：屋敷跡・区画溝	『中大類・天田遺跡』2011 高崎市遺跡調査会

古墳

No	古墳名	築造年代	古墳概要
A	下川淵3号墳	—	前方後円墳・後円部のみ残存
B	浅間神社古墳	—	前方後円墳・後円部一部残存
C	元鳥名将軍塚古墳	4 c	前方後方墳・粘土槨・四獣鏡・碧玉製石剣・大刀・鉈・二重口縁壺
D	前山古墳	6 c 末～7 c 初	前方後円墳・両袖型横穴式石室・馬具類
E	御伊勢山古墳	—	前方後円墳・横穴式両袖型石室（複室）

城館

No	名称	存続年代	築・在城者名	遺構・遺物	備考
a	福島屋敷	－	福島氏	堀、土居、戸口	元屋敷から西原へ移る。
b	中沢屋敷	－	－	堀、土居、戸口	条里制に深い関わりがある。
c	下佐鳥環濠集落	－	－	堀	数々の宅地が共有の堀で囲まれている。
d	宿阿内城	16世紀	三輪右丹	堀、土居、戸口、櫓台、根小屋	近年破壊。
e	亀里環濠遺跡群	－	－	堀、4ヶ所の環濠遺構	天神屋敷は2重の堀で囲まれ良好に遺存。
f	阿内古城	文明九年(1477)	上杉顕定	－	－
g	三公田環濠遺跡群	－	－	堀	－
h	前田屋敷	－	－	2重の堀	－
i	鶴光路亀里環濠遺構群	－	－	堀、14ヶ所の環濠遺構	－
j	横手環濠遺構群	－	－	－	防水の小型遺構。近世のものか。
k	新堀城	16世紀	和田正盛	－	利根川氾濫により消滅。
l	田口屋敷	16世紀	田口業祐	堀、土居、板碑	－
m	下滝館	文明九年(1477)	足利成氏・大井田氏	堀、土居、戸口、井、別郭	文明九年、成氏7ヵ月間仮御所。近世天田氏居住。
n	大類寄居	－	柴崎地衆	堀、土居、戸口	近年破壊。根岸氏居住。
o	降照屋敷	16世紀	高井氏	堀、土橋	－
p	元鳥名内出	16世紀	阿久沢氏	堀、土居、戸口	付近に小環濠遺構がある。
q	元鳥名城	15世紀	鳥名伊豆守	堀、土居、戸口、根小屋、板碑	昭和51・53年一部発掘調査。
		16世紀	長井豊前守政実		
r	元鳥名環濠遺構群	－	鳥名氏	桜屋敷等	昭和53年一部発掘調査。
s	江原源左衛門屋敷	16世紀末	江原源左衛門	堀	－
t	上滝中屋敷	南北朝時代	－	－	－
u	新居屋敷	－	新居喜左右衛門	－	－
v	萩原城	16世紀	萩原地衆	堀、土居、戸口	複郭城。
w	深沢屋敷	－	深沢氏	堀、土居、戸口	長楽寺がある。
x	中島屋敷	16世紀	中島氏	堀	－



第4図 調査区設定図 (1/3,000)

第3章 調査方針と経過

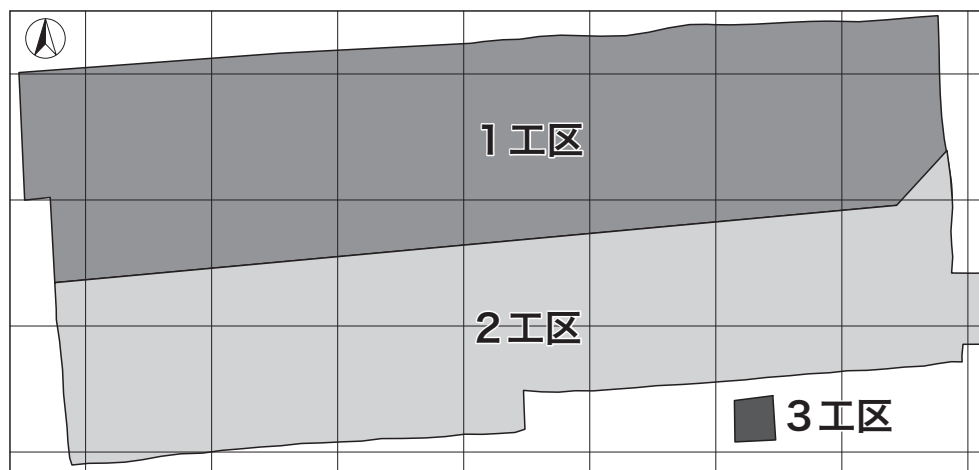
1 調査範囲と基本方針

今回の発掘調査は、高崎市教育委員会による試掘調査（令和4年4月21日実施）の結果に基づき、工場建設予定地内のうち現状保存の不可能な部分（2,770 m²）を対象とし実施した。周辺工事との兼ね合いで調査区を3分割（1～3工区）し、1工区→2工区→3工区の順で各遺構面の調査を行った（第5図）。3工区については既存建物に隣接している事や埋設物がある事、また工場建設工事の進捗に影響を与えないようにするため、安全に配慮をした上で工場建設工事の際に立会い調査として遺構確認調査を実施することとなった。

試掘調査から3面の遺構面が想定されており、一部掘削深度が2 m以上と壁面崩落の可能性が高いこと、調査区直近に既存建物が近いことから調査区壁は法面処理とし安全対策を講じた。また湧水の激しい時期であったため調査区周囲の壁際と中央部（1工区南壁と2工区北壁のラインにあたる場所）に溝を掘り釜場を設けた。調査中は常にポンプを稼働し排水作業を行いながらの調査となった。

遺構確認面までの掘削には重機（0.7 m³バックホー）を使用し、10 tダンプにて排土を行った。表土掘削のうち作業員の人力による遺構確認調査、遺構掘り下げ、遺構精査、測量・写真撮影の手順で実施した。遺構の記録には、図面作成はトータルステーション・電子平板を用いての測量・編集を行なった。記録写真は35mm判モノクロフィルムとデジタルカメラを用いて撮影を実施した。各遺構面の調査区全景撮影についてはドローンを用いての空中写真撮影を実施した。

現地での調査終了後、整理作業および報告書作成の作業を開始した。報告書掲載の遺物写真に関してはデジタルカメラを用いて撮影を行った。遺構図はデジタルによる修正・編集作業を行い、報告書の編集に関してはDTPの手法を用いて作業を行った。



第5図 工区設定図 (1/600)

2 調査経過

7月15日～9月9日までの期間は事前準備として調査区設定（8月1日）、バリケード設置（8月2・3日）、アスファルト舗装盤切断作業（8月10日）、調査区周囲の植栽帯の樹木伐採・伐根作業（9月3日～8日）、機材搬入、仮設プレハブ・トイレ設置、ノッチタンク設置を行った。9月10日から11月30日までの期間で1・2工区の発掘調査を実施した。詳細については「第2表 調査経過」を参照のこと。3工区については2023年1月12日に工場建設工事施工時に立会い調査として実施、調査区壁面の土層観察および遺構確認調査を行った。

整理作業および報告書作成については12月1日より作業を開始し、2023年3月31日に報告書を刊行し、すべての作業が完了した。

第5章 遺構と遺物

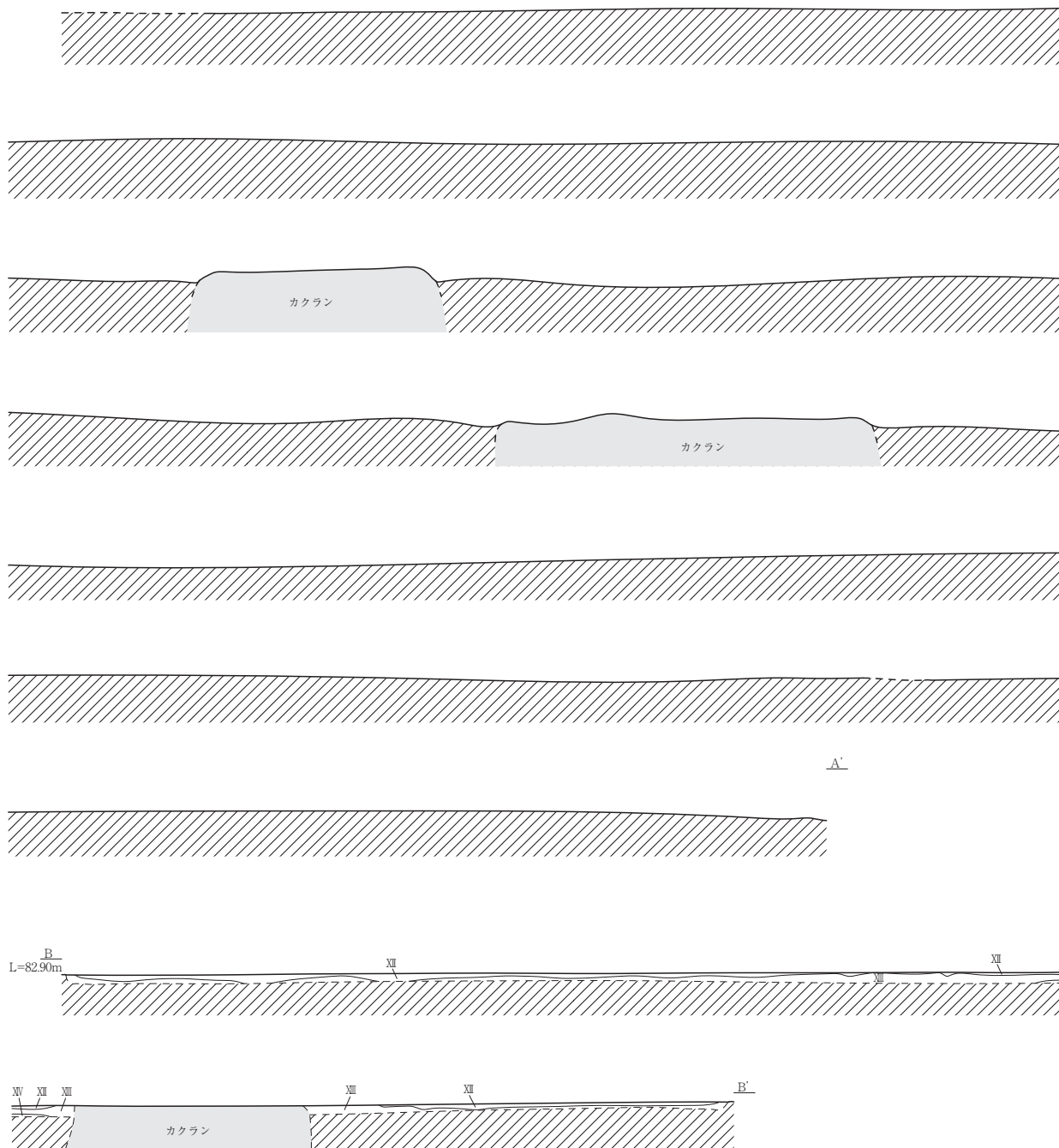
1 第4面（As-C 軽石混土層下）

(1) 調査の概要（第7・8図、PL. 2・3）

第3面のHr-FA洪水層下水田面の調査後、最終的な遺構の有無を確認するために調査区内にトレンチを設定し調査を行った。As-C 軽石混土層（Ⅻ層）下面まで掘削を行い遺構の確認調査を実施。調査の結果、遺構の検出には至らず、遺物の出土も無かった。

第4面

$\frac{A}{L=83.20m}$



第7図 第4面断面図

2 第3面（Hr-FA 洪水層下水田）

（1）水田（第9～24図、第3・6表、PL. 4～14・17・28）

被覆層と水田の残存状況 第3面で検出した水田面は、5世紀末から6世紀初頭の榛名山噴火を起因とするHr-FA洪水層に直接覆われている。Hr-FA洪水層の堆積は全体的に薄いほぼ調査区全域で確認できる。層厚は調査区北西で3cm、北東で5cm、南西で2cm、南東で7cmと東側から西側へ向かって薄くなっている。水田面の標高が北西から南東へ向かって傾斜していることが影響して層厚に差が生じていると考えられる。調査区南側中央やや東よりの場所ではHr-FA洪水層の上位にあたる洪水層による削平の影響を受け窪んだ状況が確認された。ここではHr-FA洪水層の堆積は確認できず、周辺の水田面よりやや低い標高となっていることから、削平が水田面にまで達していたことがわかる。本調査区で畦畔が確認されていない場所も同様に洪水層の影響を受け畦畔が削平された可能性が高いと考えられる。

畦畔がはっきりと確認できるのは調査区東側に限られる。調査区南端部でも部分的に確認できるが残存状況は良好ではない。他の場所では凹凸が見られるものの畦畔は確認できない。残存の良好な調査区南東側でも畦畔高1～3cmを測り、他の場所ではさらに低い状況がみられる。調査区南東隅では南北方向に延びる大畦畔を検出している。

水田域の地形 若干の起伏が見られるが、概ね北から南へ、西から東に向かって緩やかに低くなっている。調査区四隅の比高差は北側東西で0.25m、南側東西で0.17m、西側南北で0.15m、東側南北で0.07m、北西隅から南東隅で0.32m、北東隅から南西隅で0.10mとなっている。水田区画の標高は82.64～82.81m、調査区南東隅の大畦畔から東側の水田区画では標高82.59mとなっている。

畦畔の走向と区画 畦畔は南北方向については北北西の走行軸をとる。南北方向畦畔は凡そ直線的に走向する。東西方向畦畔も基本的には直線的に走向するが、大畦畔に近い調査区東端部ではクランク状に屈曲する箇所も見られる。大畦畔と地形に影響されての事と考えられる。なお本遺跡の大畦畔は西横手遺跡群VI区で確認された南北に走向する「畦畔に挟まれた中規模水路」の北側延長部の西側畦畔にあたると考えられる（第6章参照）。

水田は所謂「小区画水田」に分類されるものである。138の田面を確認。田面の形状は方形に近いものが主体的で北方向に長軸を持つ長方形のものがいくつか混在する。1.8m×3.5mの大型長方形の水田もみられる。田面の平均面積は3.49㎡である。調査区南東隅で南北方向に走向する大畦畔が確認された。大畦畔の確認長2.62m、最大幅1.90m、高さ3cmを測り、断面形状は低い弧状を呈する。大畦畔を境に東側の水田面は西側の水田面と比較して一段下がる。大畦畔の両脇の水田面で比高差6cm。

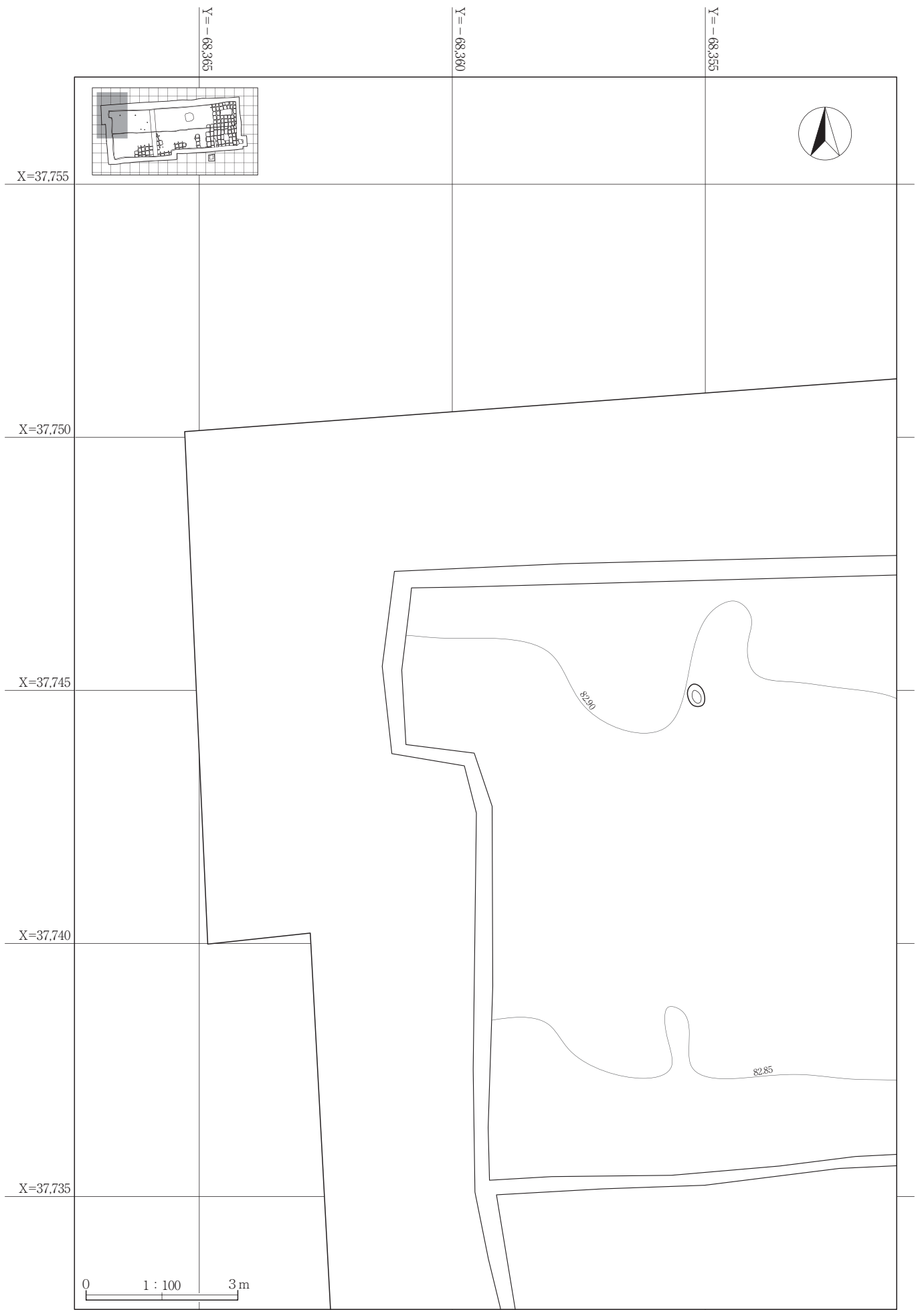
耕作土 As-C軽石を少量含む黒褐色粘質土（Ⅻ層）を耕作土とする。層厚は調査区全域で3～6cmを測る。

取配水の方向 今回の調査では取配水に関連する溝や水口は検出されていない。全体的に畦畔が低いため水口の検出は困難であった。水田面の傾斜から想像するに北西側から取水し南東方向へ配水していたと想定される。本遺跡の東側には周辺遺跡の調査結果から南北方向に走向する中規模水路が想定されている（第51図）。本遺跡の水田に流入した水は最終的にはその水路へ配水されていたと考えられる。

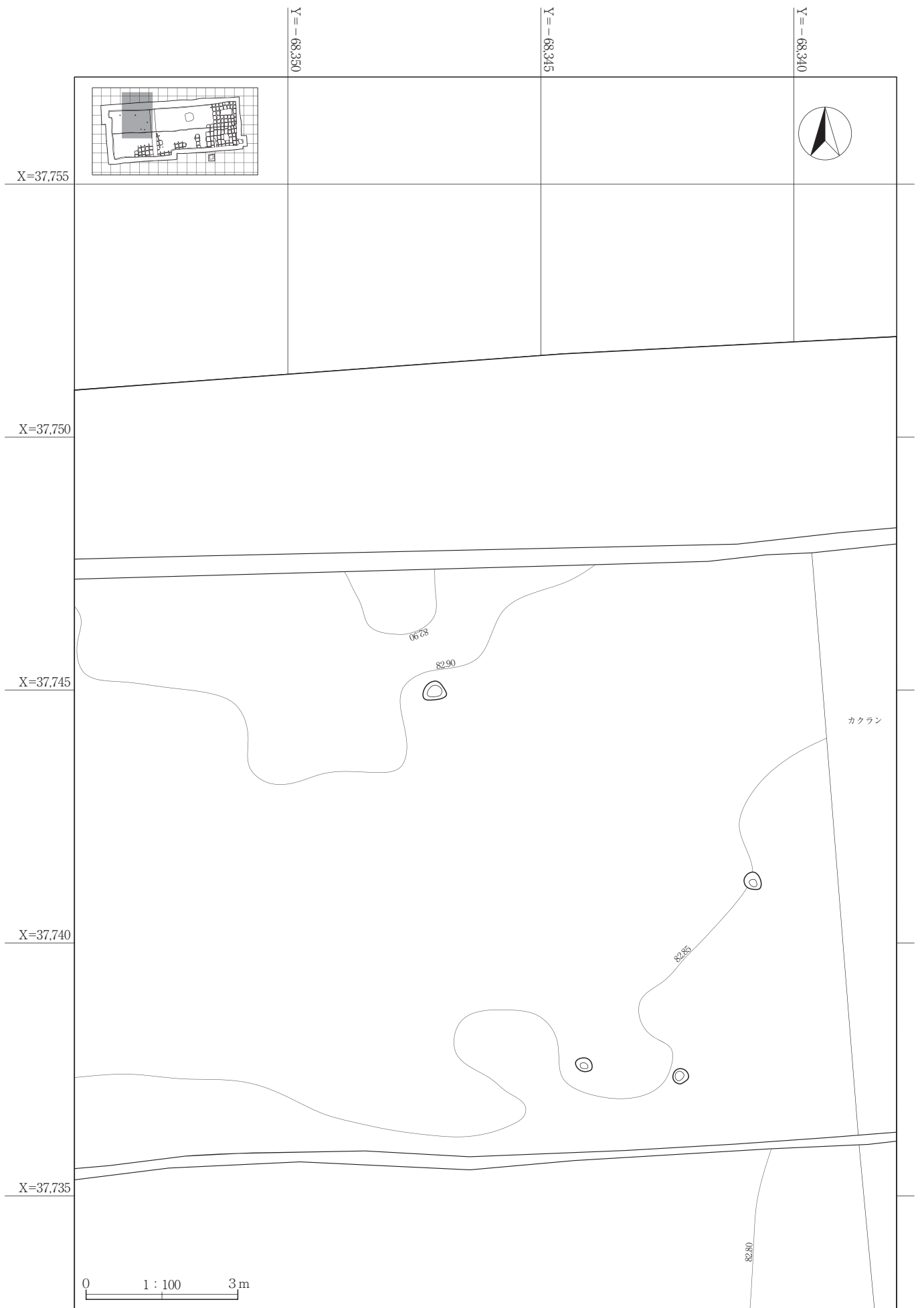
足跡 水田面や畦畔に凹凸は多く見られたが、明確な歩行列と考えられるものは検出されなかった。

出土遺物 少量ではあるが土師器が出土している。土師器坏（1）を図示した。

備考 畦畔の残存が不良であったのは上層からの削平の影響もあると考えられるが、そもそもHr-FA洪水層埋没時にすでに畦畔が低かったのではないだろうか。その場合、本遺跡の水田域は耕作放棄地であった可能性が考えられる。



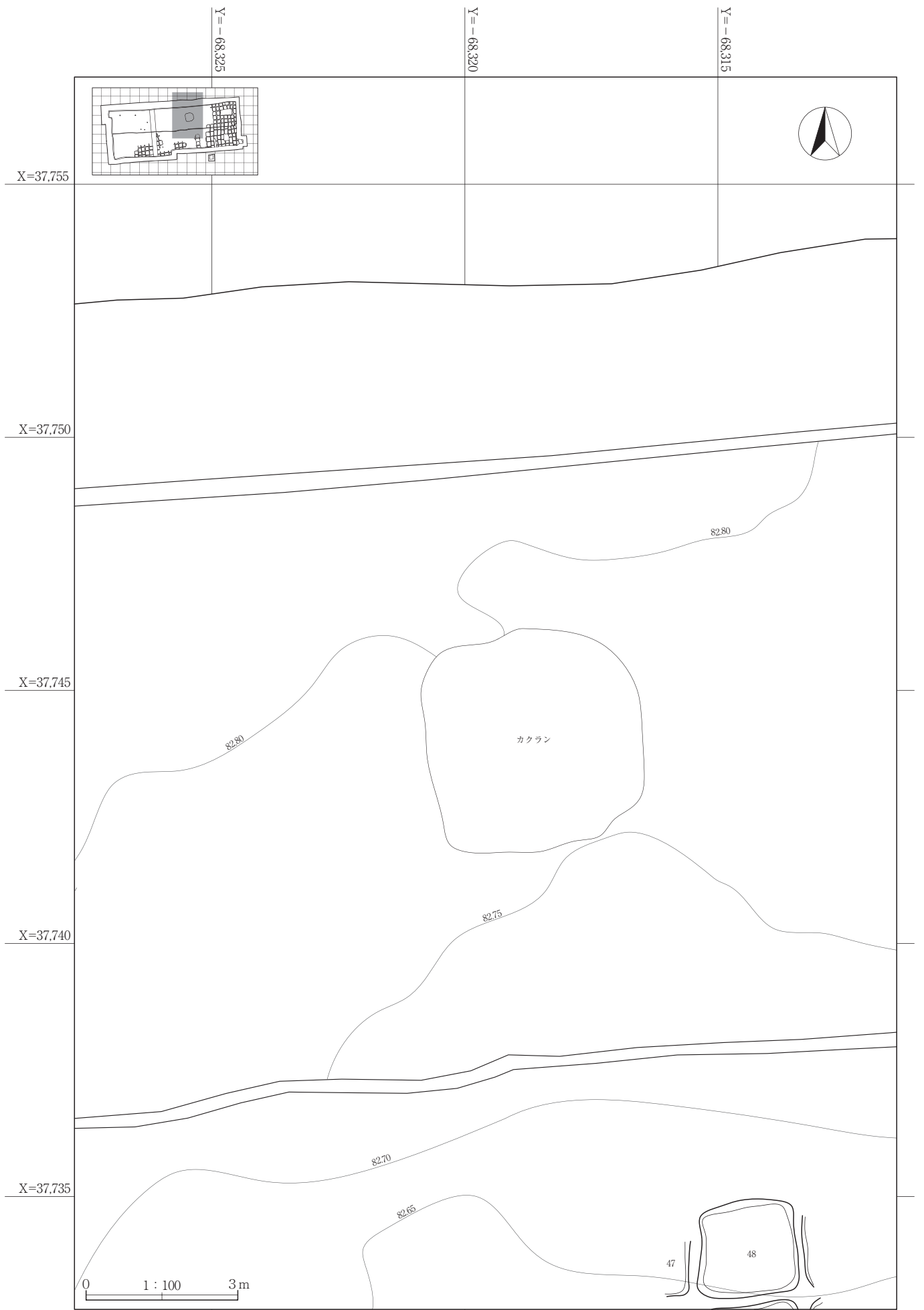
第10図 Hr-FA 洪水層下水田 (1)



第11図 Hr-FA 洪水層下水田(2)



第12図 Hr-FA 洪水層下水田 (3)



第13図 Hr-FA 洪水層下水田 (4)



第14図 Hr-FA 洪水層下水田 (5)



第15図 Hr-FA 洪水層下水田 (6)



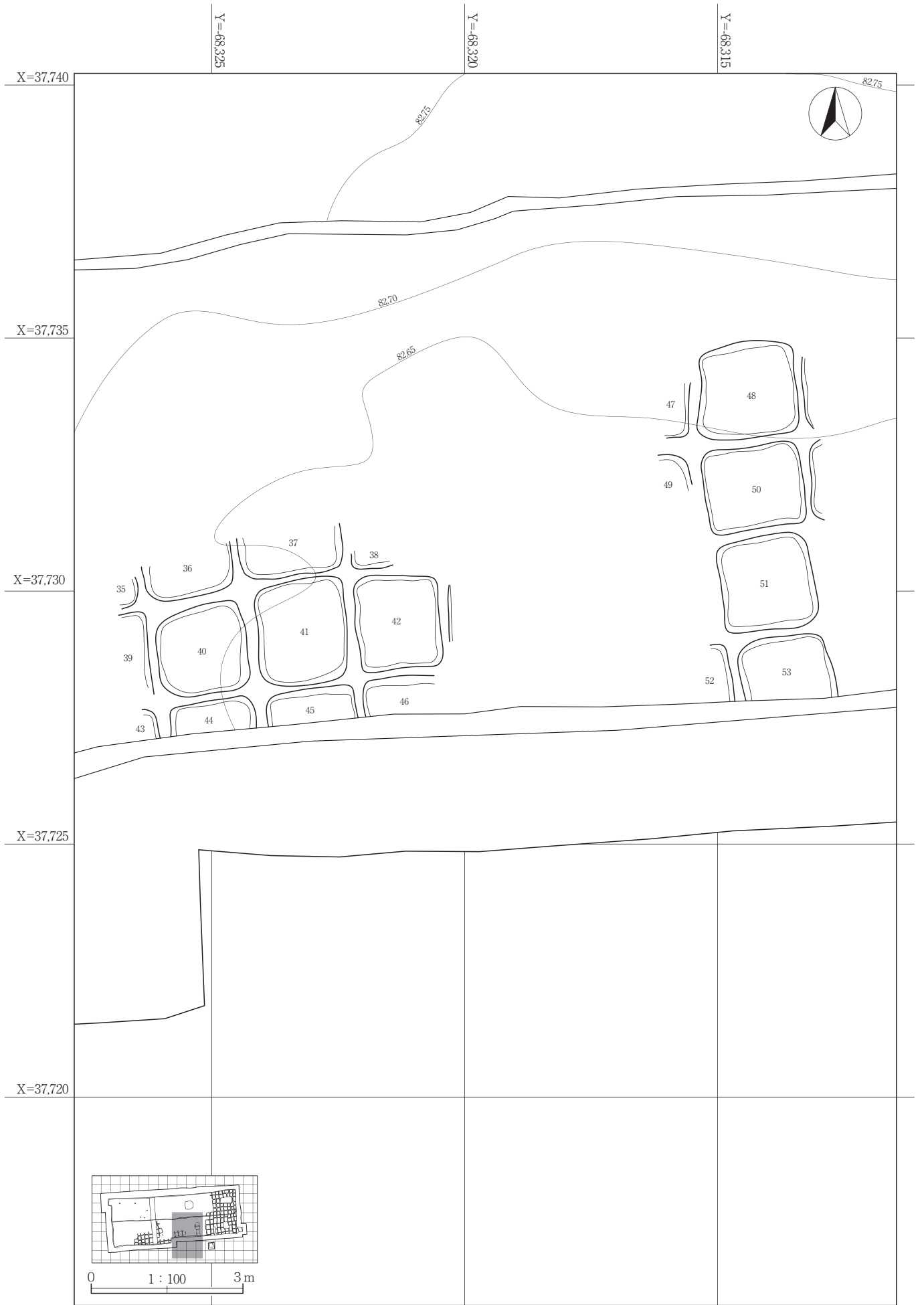
第16図 Hr-FA 洪水層下水田 (7)



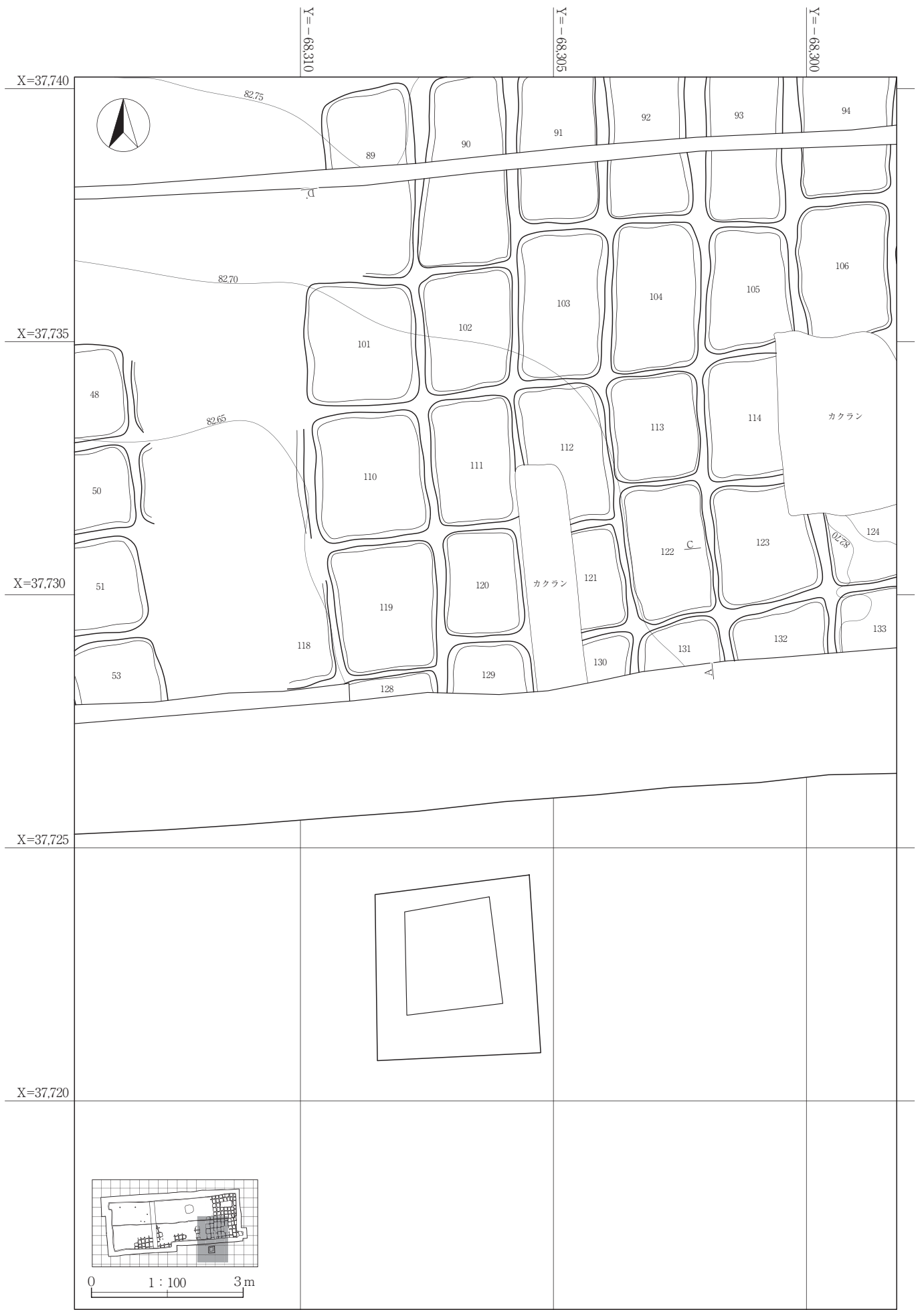
第 17 図 Hr-FA 洪水層下水田 (8)



第18図 Hr-FA 洪水層下水田(9)



第 19 図 Hr-FA 洪水層下水田 (10)

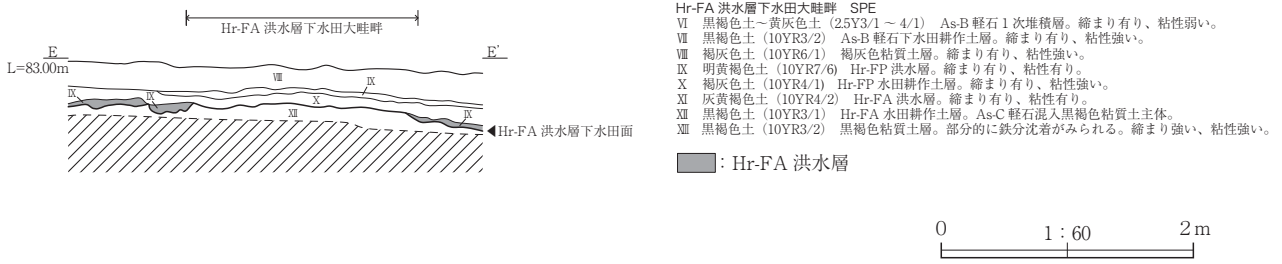


第 20 図 Hr-FA 洪水層下水田 (11)



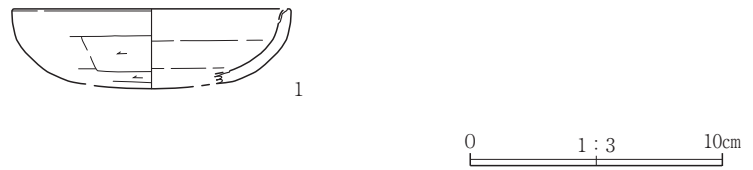
第 21 図 Hr-FA 洪水層下水田 (12)

Hr-FA 洪水層下水田大畦畔



第 23 図 Hr-FA 洪水層下水田断面図 (2)

第 3 面



第 24 図 第 3 面出土遺物

第 3 表 Hr-FA 洪水層下水田計測表

田面	グリッド	面積 (㎡)	東西 (㎡)	南北 (㎡)	標高 (m)					備考
					NW	NE	中央	SW	SE	
1	X=37.733 ~ 37.735 Y= - 68.335 ~ - 68.336	(0.53)	(0.50)	(1.41)	-	-	-	-	82.78	
2	X=37.734 ~ 37.735 Y= - 68.334 ~ - 68.335	(1.38)	(0.87)	(1.17)	-	-	-	82.77	-	
3	X=37.731 ~ 37.733 Y= - 68.334 ~ - 68.335	(1.85)	(0.96)	2.34	-	82.77	82.77	-	82.76	
4	X=37.731 ~ 37.734 Y= - 68.333 ~ - 68.335	(2.50)	(0.94)	2.24	82.77	-	82.76	82.76	-	
5	X=37.727 ~ 37.729 Y= - 68.344 ~ - 68.345	(1.90)	1.47	(1.31)	-	-	82.81	82.81	82.80	
6	X=37.728 ~ 37.729 Y= - 68.342 ~ - 68.344	(1.72)	1.70	(0.92)	-	-	82.80	82.79	82.79	
7	X=37.728 ~ 37.730 Y= - 68.339 ~ - 68.342	(2.75)	2.19	(1.42)	-	-	82.80	82.79	82.78	
8	X=37.728 ~ 37.730 Y= - 68.338 ~ - 68.339	(2.37)	(1.79)	(1.41)	-	-	82.78	82.78	-	
9	X=37.729 ~ 37.731 Y= - 68.334 ~ - 68.335	(2.09)	(1.05)	2.04	-	82.74	82.74	-	82.74	
10	X=37.729 ~ 37.731 Y= - 68.332 ~ - 68.334	3.73	1.67	2.23	82.79	82.79	82.79	82.77	82.77	
11	X=37.726 ~ 37.727 Y= - 68.345 ~ - 68.346	(1.09)	(0.90)	(0.99)	-	-	-	-	82.80	
12	X=37.725 ~ 37.727 Y= - 68.342 ~ - 68.343	3.01	1.52	2.00	82.79	82.79	82.79	82.79	82.79	
13	X=37.726 ~ 37.728 Y= - 68.342 ~ - 68.343	3.32	1.74	2.03	82.79	82.79	82.78	82.78	82.78	
14	X=37.726 ~ 37.728 Y= - 68.339 ~ - 68.341	3.47	1.94	1.86	82.78	82.79	82.79	82.78	82.79	
15	X=37.726 ~ 37.728 Y= - 68.337 ~ - 68.339	(2.91)	(1.87)	1.64	82.78	82.77	82.76	-	-	
16	X=37.726 ~ 37.729 Y= - 68.334 ~ - 68.335	(2.40)	(1.19)	2.04	-	82.74	-	82.73	82.73	
17	X=37.727 ~ 37.729 Y= - 68.332 ~ - 68.334	(2.41)	1.47	(1.49)	82.73	-	82.73	-	-	
18	X=37.724 ~ 37.726 Y= - 68.345 ~ - 68.347	3.09	1.97	1.64	82.78	82.78	82.77	82.78	82.78	
19	X=37.723 ~ 37.725 Y= - 68.343 ~ - 68.345	2.09	1.64	1.36	82.78	82.78	82.78	82.77	82.77	
20	X=37.724 ~ 37.725 Y= - 68.341 ~ - 68.343	2.61	1.63	1.58	82.77	82.77	82.76	82.76	82.76	
21	X=37.724 ~ 37.726 Y= - 68.339 ~ - 68.341	4.17	2.05	2.20	82.76	82.76	82.76	82.75	82.75	

田面	グリッド	面積 (㎡)	東西 (m)	南北 (m)	標高 (m)					備考
					NW	NE	中央	SW	SE	
22	X=37,724 ~ 37,726 Y= - 68,337 ~ - 68,339	4.37	(1.83)	2.58	82.74	82.74	82.73	-	-	
23	X=37,724 ~ 37,726 Y= - 68,334 ~ - 68,335	(2.72)	(1.28)	2.18	-	-	82.73	82.72	82.73	
24	X=37,724 ~ 37,725 Y= - 68,331 ~ - 68,333	(1.89)	1.88	(0.90)	-	-	-	82.77	82.76	
25	X=37,725 ~ 37,726 Y= - 68,329 ~ - 68,331	(1.64)	2.09	(0.76)	-	-	-	82.70	82.70	
26	X=37,725 ~ 37,726 Y= - 68,328 ~ - 68,329	(0.91)	(1.30)	(0.59)	-	-	-	82.69	-	
27	X=37,723 ~ 37,724 Y= - 68,345 ~ - 68,347	(1.92)	1.79	(1.11)	82.77	82.76	82.76	-	-	
28	X=37,723 Y= - 68,343 ~ - 68,345	(1.06)	1.72	(0.63)	82.75	82.75	-	-	-	
29	X=37,723 ~ 37,724 Y= - 68,341 ~ - 68,343	(1.48)	1.69	(0.92)	82.75	82.75	-	-	-	
30	X=37,723 Y= - 68,339 ~ - 68,341	(1.21)	2.11	(0.65)	82.74	82.73	-	-	-	
31	X=37,723 ~ 37,724 Y= - 68,333 ~ - 68,335	(0.60)	(1.44)	(0.93)	-	82.77	-	-	-	
32	X=37,723 ~ 37,724 Y= - 68,331 ~ - 68,333	(1.8)	1.93	(1.12)	82.72	82.72	-	-	-	
33	X=37,723 ~ 37,725 Y= - 68,329 ~ - 68,331	(2.8)	2.41	(1.28)	82.69	862.69	-	-	-	
34	X=37,724 ~ 37,725 Y= - 68,328 ~ - 68,329	(0.54)	(1.00)	(1.09)	82.67	-	-	-	-	
35	X=37,729 ~ 37,730 Y= - 68,326	(0.26)	(0.33)	(0.51)	-	-	-	82.68	-	
36	X=37,729 ~ 37,731 Y= - 68,324 ~ - 68,326	(1.71)	1.69	(0.98)	-	-	-	82.65	82.65	
37	X=37,730 ~ 37,731 Y= - 68,322 ~ - 68,324	(2.04)	2.05	(0.91)	-	-	-	82.65	82.64	
38	X=37,730 Y= - 68,321 ~ - 68,322	(0.37)	(0.82)	(0.34)	-	-	-	82.64	-	
39	X=37,727 ~ 37,729 Y= - 68,326	(1.06)	(0.47)	(1.70)	-	82.66	-	-	-	
40	X=37,727 ~ 37,729 Y= - 68,324 ~ - 68,326	2.89	1.79	1.74	82.66	82.65	82.65	82.66	82.65	
41	X=37,728 ~ 37,730 Y= - 68,322 ~ - 68,326	3.49	1.75	2.12	82.65	82.65	82.65	82.65	82.65	
42	X=37,728 ~ 37,730 Y= - 68,320 ~ - 68,322	2.99	1.66	1.83	82.65	82.65	82.64	82.64	82.64	
43	X=37,727 Y= - 68,325 ~ - 68,326	(0.32)	(0.36)	(0.46)	-	82.69	-	-	-	
44	X=37,727 Y= - 68,324 ~ - 68,325	(1.02)	1.70	(0.58)	82.68	82.67	-	-	-	
45	X=37,727 ~ 37,728 Y= - 68,322 ~ - 68,323	(1.13)	1.76	(0.67)	82.66	82.63	-	-	-	
46	X=37,727 ~ 37,728 Y= - 68,320 ~ - 68,321	(1.21)	(1.39)	(0.76)	82.63	82.63	-	-	-	
47	X=37,733 ~ 37,734 Y= - 68,315 ~ - 68,316	(1.17)	(0.81)	(1.14)	-	-	-	-	82.66	
48	X=37,733 ~ 37,734 Y= - 68,313 ~ - 68,315	3.46	1.98	1.93	82.68	82.68	82.67	82.67	82.67	
49	X=37,732 Y= - 68,315 ~ - 68,316	(0.14)	(0.51)	(0.67)	-	82.63	-	-	-	
50	X=37,731 ~ 37,732 Y= - 68,313 ~ - 68,315	3.13	1.93	1.63	82.63	82.63	82.63	82.63	82.62	
51	X=37,729 ~ 37,731 Y= - 68,313 ~ - 68,315	3.28	1.86	1.89	82.63	82.63	82.63	82.62	82.62	
52	X=37,727 ~ 37,728 Y= - 68,314 ~ - 68,315	(0.69)	(0.49)	(1.04)	-	82.62	-	-	-	
53	X=37,727 ~ 37,729 Y= - 68,312 ~ - 68,314	(2.17)	1.82	(1.36)	82.63	82.62	-	-	-	
54	X=37,749 ~ 37,750 Y= - 68,306 ~ - 68,307	(0.68)	(0.93)	(1.31)	-	-	-	-	82.79	
55	X=37,749 ~ 37,750 Y= - 68,304 ~ - 68,306	(2.15)	1.71	(1.34)	-	-	82.77	82.79	82.79	
56	X=37,749 ~ 37,751 Y= - 68,303 ~ - 68,304	(2.10)	1.48	(1.44)	-	-	82.78	82.77	82.77	
57	X=37,749 ~ 37,751 Y= - 68,301 ~ - 68,302	(2.60)	1.71	(1.56)	-	-	82.75	82.78	82.78	
58	X=37,750 ~ 37,751 Y= - 68,299 ~ - 68,301	(0.80)	(1.17)	(1.35)	-	-	-	82.76	-	
59	X=37,750 ~ 37,752 Y= - 68,297	(0.25)	(0.40)	(1.34)	-	-	-	-	82.73	
60	X=37,750 ~ 37,752 Y= - 68,295 ~ - 68,297	(2.18)	1.56	(1.48)	-	-	82.72	82.74	82.73	

田面	グリッド	面積 (㎡)	東西 (㎡)	南北 (㎡)	標高 (m)					備考
					NW	NE	中央	SW	SE	
61	X=37,750 ~ 37,752 Y= - 68,294 ~ - 68,295	(0.90)	(1.09)	(1.64)	-	-	-	82.68	-	
62	X=37,747 ~ 37,749 Y= - 68,306 ~ - 68,307	(1.69)	(0.78)	(1.80)	-	82.77	-	-	-	
63	X=37,747 ~ 37,749 Y= - 68,304 ~ - 68,306	3.30	1.63	2.13	82.80	82.79	82.80	82.78	82.77	
64	X=37,747 ~ 37,749 Y= - 68,302 ~ - 68,304	2.77	1.54	1.91	82.78	82.79	82.78	82.76	82.77	
65	X=37,747 ~ 37,749 Y= - 68,300 ~ - 68,302	(2.15)	2.00	(1.88)	82.76	82.75	82.74	82.75	82.74	
66	X=37,748 ~ 37,750 Y= - 68,298 ~ - 68,300	(3.25)	1.77	(1.92)	82.75	82.75	82.75	-	-	
67	X=37,748 ~ 37,750 Y= - 68,297 ~ - 68,298	(2.42)	1.31	(1.87)	82.75	82.76	82.76	-	-	
68	X=37,748 ~ 37,750 Y= - 68,295 ~ - 68,297	(2.36)	1.32	1.93	82.71	82.69	82.72	82.72	82.71	
69	X=37,748 ~ 37,750 Y= - 68,294 ~ - 68,295	(2.02)	(1.32)	1.61	82.63	-	82.64	82.63	-	
70	X=37,744 ~ 37,746 Y= - 68,304 ~ - 68,306	3.38	1.81	1.99	82.78	82.78	82.78	82.78	82.78	
71	X=37,744 ~ 37,747 Y= - 68,302 ~ - 68,304	3.46	1.67	2.14	82.77	82.74	82.75	82.75	82.75	
72	X=37,746 ~ 37,747 Y= - 68,302	(0.24)	(0.34)	(1.44)	82.73	-	-	-	-	
73	X=37,745 ~ 37,748 Y= - 68,295 ~ - 68,296	(2.12)	(0.83)	2.99	-	82.70	-	-	82.71	
74	X=37,745 ~ 37,748 Y= - 68,294 ~ - 68,295	(3.22)	1.38	2.44	82.65	-	82.63	82.66	-	
75	X=37,742 ~ 37,744 Y= - 68,304 ~ - 68,306	3.45	1.62	2.15	82.74	82.74	82.75	82.77	82.76	
76	X=37,742 ~ 37,744 Y= - 68,302 ~ - 68,304	3.17	1.67	2.03	82.76	82.77	82.77	82.77	82.80	
77	X=37,743 ~ 37,744 Y= - 68,300 ~ - 68,302	2.60	1.65	1.62	82.74	82.74	82.74	82.74	82.74	
78	X=37,743 ~ 37,744 Y= - 68,298 ~ - 68,300	3.07	1.80	1.79	82.73	82.74	82.74	82.75	82.74	
79	X=37,743 ~ 37,745 Y= - 68,297 ~ - 68,298	2.37	1.41	1.75	82.73	82.73	82.74	82.73	82.74	
80	X=37,743 ~ 37,745 Y= - 68,295 ~ - 68,296	2.53	1.65	1.61	82.71	82.71	82.71	82.71	82.72	
81	X=37,744 ~ 37,745 Y= - 68,294 ~ - 68,295	(1.52)	(1.06)	1.64	82.67	-	82.66	82.66	-	
82	X=37,741 ~ 37,742 Y= - 68,304 ~ - 68,305	2.67	1.65	1.70	82.75	82.75	82.75	82.75	82.75	
83	X=37,740 ~ 37,742 Y= - 68,302 ~ - 68,303	2.96	1.78	1.71	82.73	82.77	82.74	82.73	82.73	
84	X=37,740 ~ 37,742 Y= - 68,300 ~ - 68,301	2.79	1.50	1.97	82.75	82.75	82.76	82.74	82.74	
85	X=37,741 ~ 37,742 Y= - 68,298 ~ - 68,300	3.10	1.91	1.67	82.74	82.74	82.73	82.73	82.73	
86	X=37,741 ~ 37,743 Y= - 68,296 ~ - 68,298	2.42	1.49	1.61	82.73	82.73	82.73	82.72	82.72	
87	X=37,741 ~ 37,743 Y= - 68,295 ~ - 68,296	1.85	1.35	1.39	82.71	82.71	82.72	82.72	82.72	
88	X=37,741 ~ 37,743 Y= - 68,293 ~ - 68,294	(1.79)	(0.96)	2.06	82.68	-	82.67	82.67	-	
89	X=37,736 ~ 37,740 Y= - 68,307 ~ - 68,309	[4.61]	1.81	3.76	82.74	82.75	82.72	-	82.70	
90	X=37,736 ~ 37,740 Y= - 68,305 ~ - 68,307	[5.65]	1.61	3.84	82.72	82.72	82.74	82.72	82.72	
91	X=37,737 ~ 37,740 Y= - 68,303 ~ - 68,305	[4.25]	1.77	3.18	82.74	82.74	82.73	82.74	82.73	
92	X=37,737 ~ 37,740 Y= - 68,301 ~ - 68,303	[4.63]	1.51	3.25	82.72	82.74	82.73	82.74	82.73	
93	X=37,737 ~ 37,740 Y= - 68,300 ~ - 68,301	[4.74]	1.50	3.50	82.74	82.74	82.73	82.72	82.72	
94	X=37,737 ~ 37,741 Y= - 68,298 ~ - 68,300	[5.17]	2.09	3.21	82.73	82.73	82.74	82.75	82.72	
95	X=37,739 ~ 37,741 Y= - 68,296 ~ - 68,298	(2.94)	1.61	(1.86)	82.71	82.69	82.70	82.71	82.69	
96	X=37,739 ~ 37,741 Y= - 68,295 ~ - 68,296	(2.00)	1.14	(1.85)	82.70	82.70	82.69	82.69	82.69	
97	X=37,739 ~ 37,741 Y= - 68,294	(0.80)	(0.89)	1.94	82.64	-	82.64	82.64	-	
98	X=37,737 ~ 37,739 Y= - 68,296 ~ - 68,298	(2.23)	1.38	(1.65)	82.71	82.72	82.70	82.73	82.73	
99	X=37,737 ~ 37,739 Y= - 68,295 ~ - 68,296	(1.98)	1.31	(1.60)	82.70	82.71	82.71	82.70	82.71	

田面	グリッド	面積 (㎡)	東西 (m)	南北 (m)	標高 (m)					備考
					NW	NE	中央	SW	SE	
100	X=37.738 ~ 37.739 Y= - 68.293 ~ - 68.295	(0.90)	(1.46)	1.51	82.66	-	82.66	82.68	-	
101	X=37.733 ~ 37.736 Y= - 68.307 ~ - 68.309	5.14	2.23	2.46	82.70	82.71	82.70	82.67	82.68	
102	X=37.734 ~ 37.736 Y= - 68.305 ~ - 68.307	4.05	1.75	2.36	82.72	82.71	82.73	82.72	82.72	
103	X=37.734 ~ 37.737 Y= - 68.304 ~ - 68.305	4.93	1.70	2.92	82.72	82.72	82.72	82.73	82.73	
104	X=37.734 ~ 37.737 Y= - 68.302 ~ - 68.303	4.92	1.74	2.92	82.73	82.72	82.73	82.72	82.71	
105	X=37.734 ~ 37.737 Y= - 68.300 ~ - 68.301	(3.80)	1.63	2.48	82.72	82.72	82.72	82.71	82.71	
106	X=37.735 ~ 37.737 Y= - 68.298 ~ - 68.300	(4.43)	1.76	2.68	82.71	82.72	82.72	82.70	82.71	
107	X=37.735 ~ 37.737 Y= - 68.296 ~ - 68.298	3.00	1.71	1.85	82.71	82.70	82.69	82.71	82.70	
108	X=37.735 ~ 37.737 Y= - 68.294 ~ - 68.296	2.78	1.39	2.13	82.69	82.69	82.67	82.68	82.69	
109	X=37.735 ~ 37.737 Y= - 68.293 ~ - 68.294	(2.36)	1.14	2.10	82.65	82.69	82.65	-	-	
110	X=37.731 ~ 37.733 Y= - 68.307 ~ - 68.309	(5.30)	2.17	2.50	82.67	82.67	82.67	82.63	82.67	
111	X=37.731 ~ 37.733 Y= - 68.305 ~ - 68.307	3.99	1.63	2.50	82.68	82.69	82.68	82.68	82.69	
112	X=37.731 ~ 37.734 Y= - 68.303 ~ - 68.305	(4.13)	1.72	2.72	82.69	82.69	82.70	82.69	82.70	
113	X=37.732 ~ 37.734 Y= - 68.302 ~ - 68.303	3.57	1.71	2.09	82.72	82.71	82.70	82.72	82.70	
114	X=37.732 ~ 37.734 Y= - 68.300 ~ - 68.302	(3.51)	1.46	2.47	82.71	-	82.70	82.71	-	
115	X=37.733 ~ 37.735 Y= - 68.295 ~ - 68.298	(2.93)	1.92	1.62	82.72	82.68	82.67	82.73	82.71	
116	X=37.733 ~ 37.735 Y= - 68.294 ~ - 68.295	2.57	1.57	1.77	82.68	82.66	82.66	82.69	82.68	
117	X=37.733 ~ 37.735 Y= - 68.293 ~ - 68.294	(0.87)	(0.55)	1.96	82.64	82.63	-	-	-	
118	X=37.728 ~ 37.730 Y= - 68.309 ~ - 68.310	(1.20)	(0.93)	(2.01)	-	-	-	-	82.66	
119	X=37.729 ~ 37.731 Y= - 68.307 ~ - 68.309	4.95	2.09	2.54	82.68	82.67	82.67	82.67	82.67	
120	X=37.729 ~ 37.731 Y= - 68.305 ~ - 68.307	3.08	1.53	2.11	82.68	82.68	82.68	82.67	82.67	
121	X=37.729 ~ 37.731 Y= - 68.303 ~ - 68.304	(1.84)	(0.94)	2.00	-	82.70	-	-	82.69	
122	X=37.729 ~ 37.732 Y= - 68.301 ~ - 68.303	4.22	1.56	2.60	82.70	82.70	82.70	82.70	82.70	
123	X=37.729 ~ 37.732 Y= - 68.299 ~ - 68.301	(4.34)	2.04	2.32	82.70	82.69	82.68	82.68	82.67	
124	X=37.730 ~ 37.731 Y= - 68.297 ~ - 68.299	(2.70)	1.84	(1.44)	-	-	82.74	82.70	82.69	
125	X=37.730 ~ 37.733 Y= - 68.295 ~ - 68.297	(4.82)	1.60	3.01	82.69	82.67	82.68	82.68	82.68	
126	X=37.731 ~ 37.733 Y= - 68.294 ~ - 68.295	3.21	1.81	1.86	82.66	82.69	82.68	82.65	82.64	
127	X=37.731 ~ 37.733 Y= - 68.292 ~ - 68.293	(1.32)	1.00	1.89	82.64	-	-	82.64	82.63	
128	X=37.727 ~ 37.728 Y= - 68.307 ~ - 68.309	(0.44)	(1.77)	(0.42)	-	82.67	-	-	-	
129	X=37.728 ~ 37.729 Y= - 68.305 ~ - 68.307	(1.59)	1.69	(1.00)	82.68	82.67	-	-	-	
130	X=37.728 ~ 37.729 Y= - 68.303 ~ - 68.304	(0.45)	(1.01)	(0.86)	-	82.70	-	-	-	
131	X=37.728 ~ 37.729 Y= - 68.301 ~ - 68.303	(1.40)	1.73	(0.92)	82.71	82.69	-	-	-	
132	X=37.728 ~ 37.729 Y= - 68.299 ~ - 68.301	(1.86)	2.00	(1.05)	82.69	82.70	-	-	-	
133	X=37.728 ~ 37.730 Y= - 68.297 ~ - 68.299	(2.06)	1.82	(1.20)	82.71	82.68	-	-	-	
134	X=37.729 ~ 37.730 Y= - 68.295 ~ - 68.297	(2.31)	1.94	(1.22)	82.72	82.69	-	-	-	
135	X=37.729 ~ 37.731 Y= - 68.293 ~ - 68.295	3.30	1.82	1.98	82.65	82.62	82.64	82.65	82.65	
136	X=37.729 ~ 37.731 Y= - 68.292 ~ - 68.293	(2.35)	1.25	(2.53)	82.64	82.66	82.63	-	-	
137	X=37.729 Y= - 68.293 ~ - 68.295	(0.61)	1.45	(0.48)	82.66	82.66	-	-	-	
138	X=37.730 ~ 37.732 Y= - 68.290 ~ - 68.291	(0.09)	(0.66)	(1.46)	82.59	-	-	-	-	

3 第2面 (Hr-FP 洪水層下水田)

(1) 水田 (第25～30図、第4表、PL.15～17)

被覆層と水田の残存状況 第2面で検出した水田面は、6世紀中葉の榛名山噴火を起因とする Hr-FP 洪水層に直接覆われている。Hr-FP 洪水層の堆積は主に調査区の東端部 (第25図の破線より東側) で確認された。他の場所でも部分的に確認はできるが堆積厚は極めて薄い。層厚は水田の畦畔が確認できる調査区東端部で4～6 cm を測る。

畦畔が確認できるのは調査区南東隅部だけである。他の場所については上層の洪水層 (Ⅷ層) による削平の影響を受けて水田面が消失していると考えられる。畦畔の高さは低く、遺構確認調査時には水田区画が確認できるものの、掘り上げると畦畔と水田面との比高差がほとんどない状態であった。全体的に平坦ではあるが、畦畔の残存が良好な場所では凹凸が多く見られる。調査区南東隅部では南北方向に延びる大畦畔が確認されている。

水田域の地形 水田が確認された場所は概ね北から南へ、西から東に向かって緩やかに低くなる地形である。水田が確認できた調査区東端部は地形的に低い場所であり、その影響で Hr-FP 洪水層が他の場所と比較してやや厚く堆積している。洪水層の堆積があったため水田が残存したと考えられる。水田面の比高差は、調査区東壁際南北方向で0.06 m、調査区南壁際東西方向で0.04 m を測る。水田区画の標高は調査区南東隅の大畦畔から西側では82.71～82.79 m、東側では標高82.62～82.68 mとなっている。

畦畔の走向と区画 畦畔の方向軸は南北の長軸方向で $N - 3^{\circ} - W$ を測る。南北・東西方向とも畦畔は直線的に走向する。大畦畔を境に東西方向の軸がズレる。

21の田面を確認。水田は所謂「小区画水田」に分類されるものである。田面の形状は北方向に長軸を持つ長方形が主体的であるが、方形に近い水田もいくつか見られる。田面の平均面積は2.94 m²である。

調査区南東隅部で南北方向に走向する大畦畔が確認された。畦畔の確認長10.65 m、最大幅0.88 m、高さ0.04 mを測り、断面形状は低い弧状を呈する。大畦畔を境に東側の水田面は西側の水田面と比較してやや下がる。大畦畔の両脇の水田面で比高差は3 cm。下位の Hr-FA 洪水層下水田の大畦畔に並行するように走向する。下位に存在する水田の地割を踏襲していたと考えられる。

取配水の方向 取配水に関連する溝や水口は検出されていない。全体的に畦畔が低いいため水口の検出は困難であった。水田面の傾斜から想定すると北西側から取水し南東方向へ配水していたと思われる。大畦畔より東の水田へは現状水口が確認されていないことからオーバーフローさせ配水していたと考えられる。

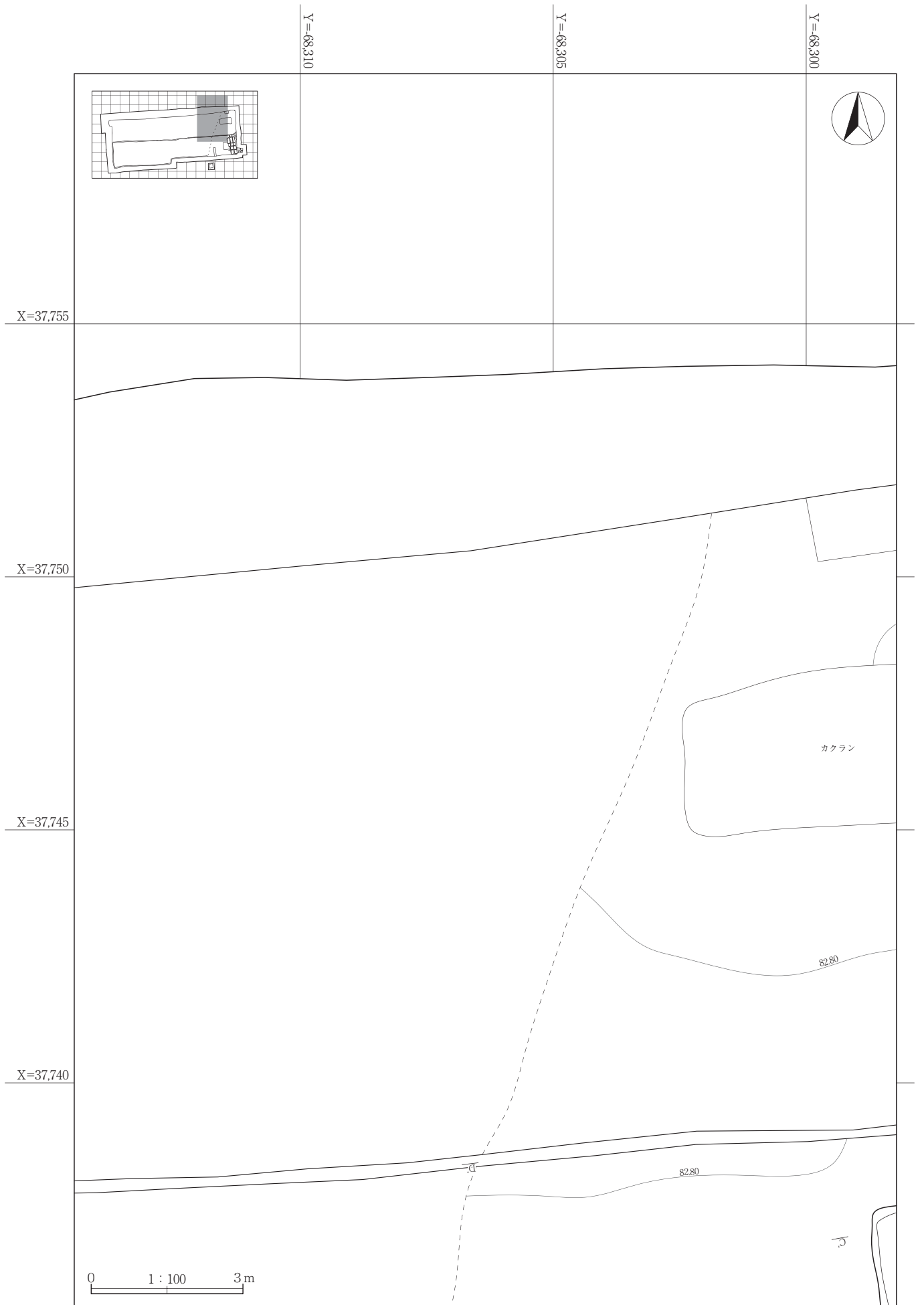
耕作土 褐灰色土 (X層) を耕作基盤層とし層厚は5～13cm を測る。直下は Hr-FA 洪水層 (Ⅺ層) となる。

足跡 水田面や畦畔に凸凹は多く見られたが、明確な歩行列と考えられるものは検出されなかった。

出土遺物 なし



第25图 第2面全体图



第 26 図 Hr-FP 洪水層下水田 (1)



第 27 図 Hr-FP 洪水層下水田 (2)

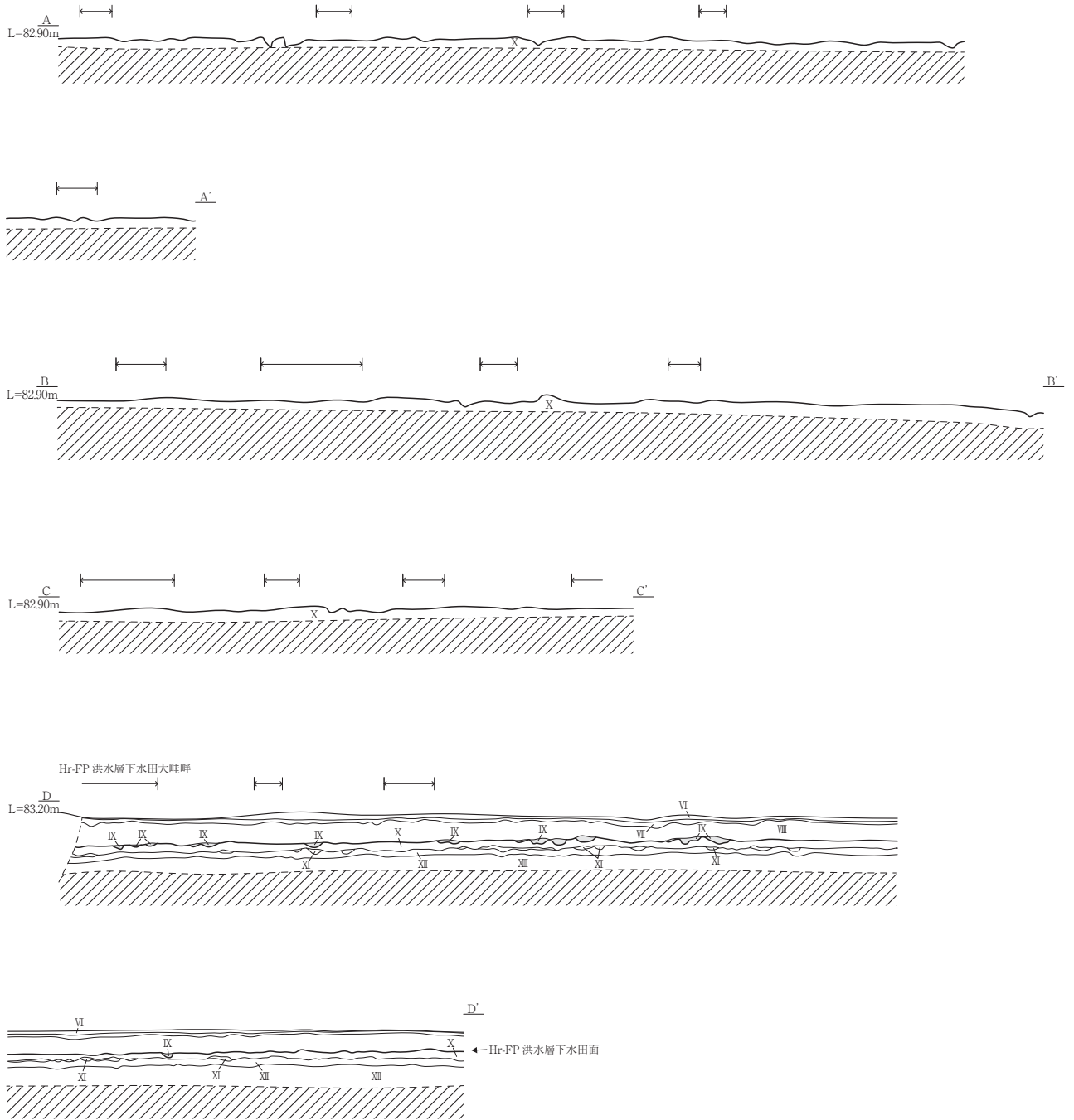


第28図 Hr-FP 洪水層下水田(3)

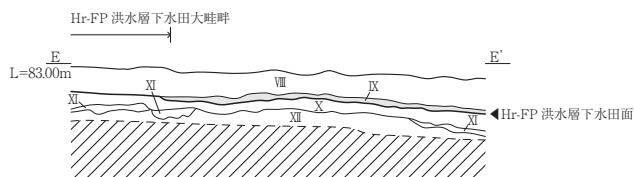


第 29 図 Hr-FP 洪水層下水田 (4)

Hr-FP 洪水層下水田



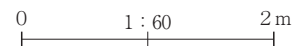
Hr-FP 洪水層下水田大畦畔



Hr-FP 洪水層下水田大畦畔 SPE

- VI 黒褐色土～黄灰色土 (25Y3/1～4/1) As-B 軽石1次堆積層。締まり有り、粘性弱い。
- VII 黒褐色土 (10YR3/2) As-B 軽石下水田耕作土層。締まり有り、粘性強い。
- VIII 褐灰色土 (10YR6/1) 褐灰色粘質土層。締まり有り、粘性強い。
- IX 明黄褐色土 (10YR7/6) Hr-FP 洪水層。締まり有り、粘性有り。
- X 褐灰色土 (10YR4/1) Hr-FP 水田耕作土層。締まり有り、粘性強い。
- XI 灰黄褐色土 (10YR4/2) Hr-FA 洪水層。締まり有り、粘性有り。
- XII 黒褐色土 (10YR3/1) Hr-FA 水田耕作土層。As-C 軽石混入黒褐色粘質土主体。
- XIII 黒褐色土 (10YR3/2) 黒褐色粘質土層。部分的に鉄分沈着がみられる。締まり強い、粘性強い。

▨: Hr-FP 洪水層



第 30 図 Hr-FP 洪水層下水田断面図

第4表 Hr-FP 洪水層下水田計測表

田面	グリッド	面積 (㎡)	東西 (m)	南北 (m)	標高 (m)					備考
					NW	NE	中央	SW	SE	
1	X=37.737 ~ 37.739 Y= - 68,297 ~ - 68,298	(0.99)	(0.34)	(0.48)	-	-	-	82.78	82.77	
2	X=37.738 ~ 37.739 Y= - 68,296 ~ - 68,297	(1.15)	(0.49)	(0.47)	82.77	82.77	82.76	82.76	82.76	
3	X=37.738 ~ 37.739 Y= - 68,294 ~ - 68,296	(1.29)	(0.49)	(0.56)	82.76	82.76	82.76	82.76	82.76	
4	X=37.734 ~ 37.737 Y= - 68,296 ~ - 68,298	4.05	0.60	1.33	82.78	82.77	82.77	82.77	82.78	
5	X=37.734 ~ 37.738 Y= - 68,295 ~ - 68,297	3.58	0.51	1.42	82.76	82.76	82.76	82.78	82.77	
6	X=37.735 ~ 37.738 Y= - 68,294 ~ - 68,295	3.00	0.45	1.38	82.76	82.76	82.76	82.78	82.76	
7	X=37.733 ~ 37.734 Y= - 68,296 ~ - 68,298	(1.64)	(0.45)	0.68	82.77	82.77	82.77	82.76	82.76	
8	X=37.733 ~ 37.734 Y= - 68,295 ~ - 68,296	1.80	0.49	0.68	82.76	82.76	82.76	82.76	82.76	
9	X=37.733 ~ 37.735 Y= - 68,294 ~ - 68,295	1.66	0.48	0.65	82.76	82.76	82.76	82.76	82.76	
10	X=37.731 ~ 37.732 Y= - 68,296 ~ - 68,297	(1.01)	(0.29)	0.79	82.76	82.75	82.75	-	82.74	
11	X=37.731 ~ 37.733 Y= - 68,295 ~ - 68,296	(2.77)	0.70	0.82	82.74	82.74	82.73	82.73	82.73	
12	X=37.731 ~ 37.733 Y= - 68,293 ~ - 68,295	2.40	0.57	0.84	82.76	82.73	82.72	82.73	82.71	
13	X=37.728 ~ 37.731 Y= - 68,296 ~ - 68,297	(2.85)	(0.50)	(1.09)	-	-	82.73	82.72	82.75	
14	X=37.728 ~ 37.731 Y= - 68,294 ~ - 68,296	(3.5)	0.71	1.03	82.74	82.74	82.74	82.74	82.74	
15	X=37.729 ~ 37.731 Y= - 68,293 ~ - 68,294	2.83	0.56	0.97	82.73	82.74	82.74	82.73	82.73	
16	X=37.728 ~ 37.729 Y= - 68,293 ~ - 68,294	(0.08)	(0.44)	(0.10)	-	82.73	-	-	-	
17	X=37.736 ~ 37.738 Y= - 68,293 ~ - 68,294	(0.28)	(0.17)	(0.91)	-	-	-	82.75	-	
18	X=37.730 ~ 37.732 Y= - 68,291 ~ - 68,292	(1.79)	0.47	(0.81)	-	-	82.70	82.69	82.68	
19	X=37.731 ~ 37.732 Y= - 68,290 ~ - 68,291	(0.57)	(0.53)	(0.50)	-	-	82.62	82.69	-	
20	X=37.729 ~ 37.730 Y= - 68,291 ~ - 68,292	(0.73)	(0.41)	(0.35)	82.73	82.72	82.71	-	-	
21	X=37.729 ~ 37.731 Y= - 68,290 ~ - 68,291	(0.39)	(0.40)	(0.42)	82.73	-	82.70	-	-	

4 第1面 (As-B 軽石下水田)

(1) 水田 (第31～47図、第5・6表、PL.18～26・28)

被覆層と水田の残存状況 嘉承三年、天仁元年(1108)の浅間山噴火を起因とするAs-B軽石堆積層により被覆された水田面が確認された。As-B軽石積層は調査区全域で確認され層厚は10～16cmを測る。部分的にはあるが田面直上に1mm前後の厚さで青灰色火山灰が確認されている。畦畔は南北方向に走向する2条を確認。畦畔としての高さがやや低いことから耕作放棄地の可能性も考えられる。

水田域の地形 確認された水田面は西から東、北から南へ緩やかに低くなる。調査区四隅の比高差は北側東西で0.19m、南側東西で0.22m、西側南北で0.02m、東側南北で0.01m、南西から北東の比高差は0.17mとなっている。

畦畔の走向と区画 南北方向に延びる畦畔が2条確認された。畦畔1は水田面からの比高差もあり遺存状態は良好であるが、畦畔2は比高差が低く良好ではない。水田区画は畦畔2条によって区画されている3面以上の水田面が想定される。畦畔1から畦畔2までの距離(畦畔芯々)は24.33m。

畦畔1は調査区西端に位置し、調査区に沿って南北に走向する。走向軸はN-1°-W。規模は確認長13.66m、上幅0.30～0.49m、下幅0.55～(0.72)m、水田面との比高差0.03～0.06m、断面形状は浅い弧状を呈する。

畦畔2は調査区中央よりやや西側に位置し南北に走向する。走向軸N-0°-W。規模は確認長23.90m、上幅0.47～0.60m、下幅0.69～0.95m、水田面との比高差0.01～0.03m、断面形状は浅い弧状を呈する。南側ではある程度盛り上がり確認できるが、北側では低く不明確である。

耕作土 締まりの強い黒褐色土として確認。層厚は3～5cmを測る。水田耕作土表層に耕作が行われていなかったことを示す黒色帯は確認されなかった。

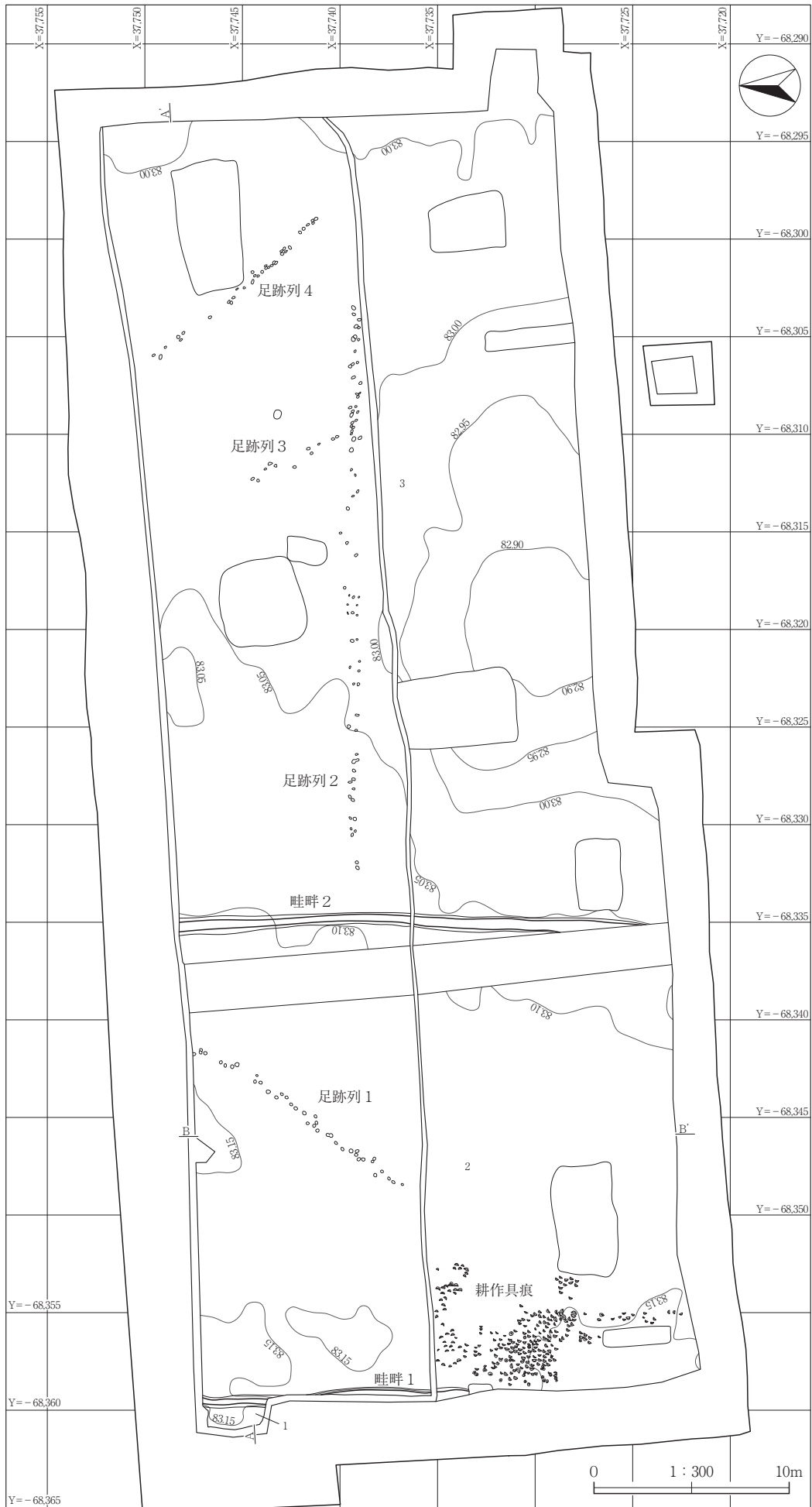
取配水の方向 今回確認された畦畔では水口は確認されていない。水田面の傾斜方向から北から南へ、西から東へ配水されたと考えられる。

足跡 牛馬と考えられる直線的な足跡列を4条(足跡列1～4)検出した。As-B軽石除去後、楕円～円形状の凹凸が列状に並ぶことから足跡列と判断した。走向軸は足跡列1:N-34°-E、足跡列2:N-89°-W、足跡列3:N-28°-W、足跡列4:N-40°-W。確認長は足跡列1:12.85m、足跡列2:29.13m、足跡列3:52.16m、足跡列4:11.18m。そのほとんどが馬の足跡であり、人と考えられる足跡は確認できなかった。その他にも列状にはならない足跡と思われる多数の凹凸が散見される。

耕作具痕 調査区南西隅部において耕作具痕を確認した。覆土中にAs-B軽石を含むことからAs-B軽石降下後に耕作された痕跡と考えられる。耕作具痕はほぼ全て半円形の形状を呈し、東西方向に数条の列を成している。その形状から鋤鍬先の差し込み跡と想定される。耕作具痕同士が切り合うものが少ない事から、反復されたものではなく1回の耕作耕作行動の所産と考えられる。形状の方向から判断すると南側に分布するものは南東側から地面に突き刺し、北西側へ向かって掘り起こされている。北側に分布するものは西方向から東方向へ掘り起こされている。

出土遺物 全体的に遺物は少なく、須恵器・土師器の小破片が出土している。このうち灰釉陶器皿(1)、須恵器碗・坏(2～5)を図示した。

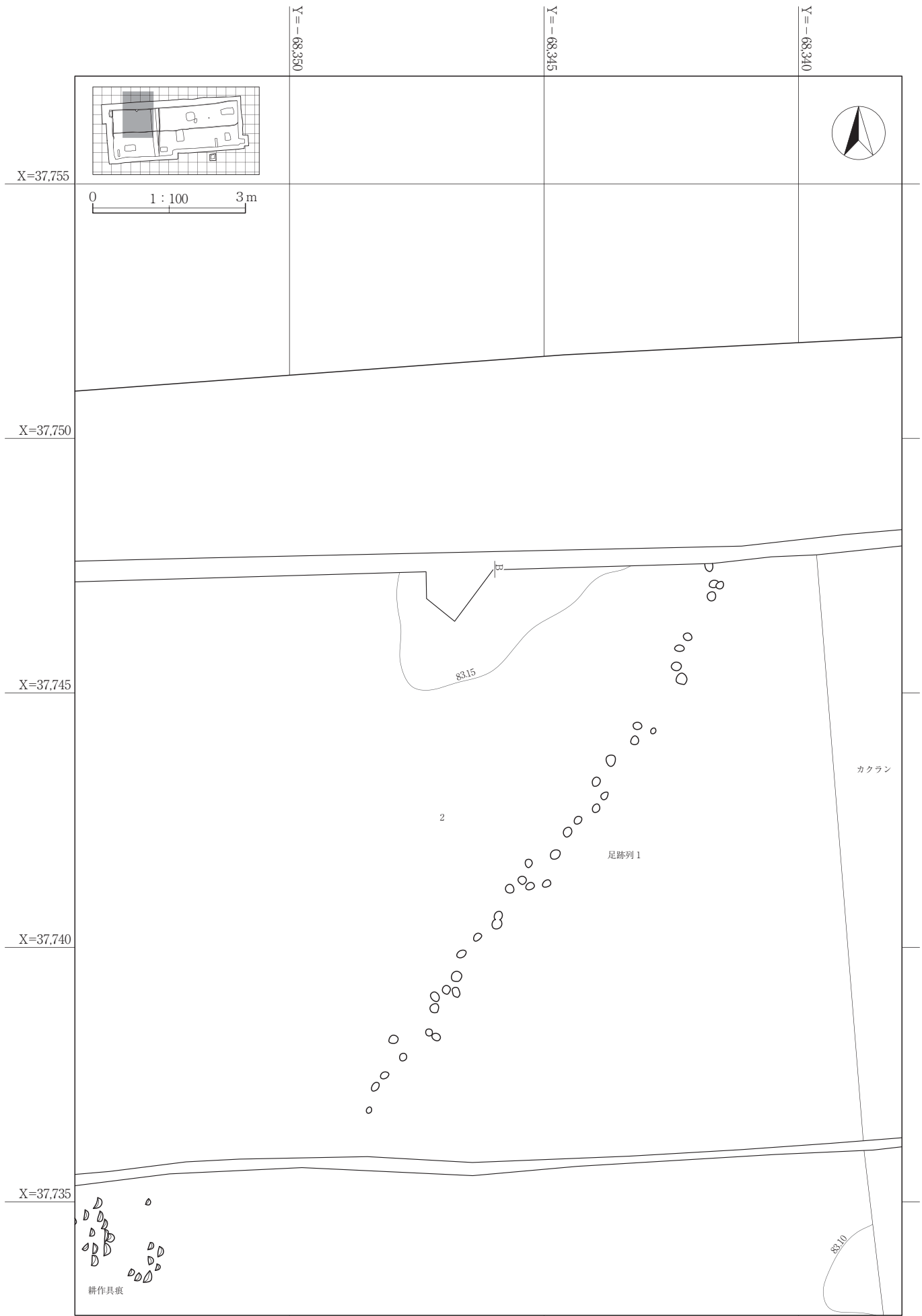
備考 調査区南側中央部が浅く窪んでいるのは、下層の洪水層の影響(下位の水田面を削平)によるものと考えられる。



第31图 第1面全体图



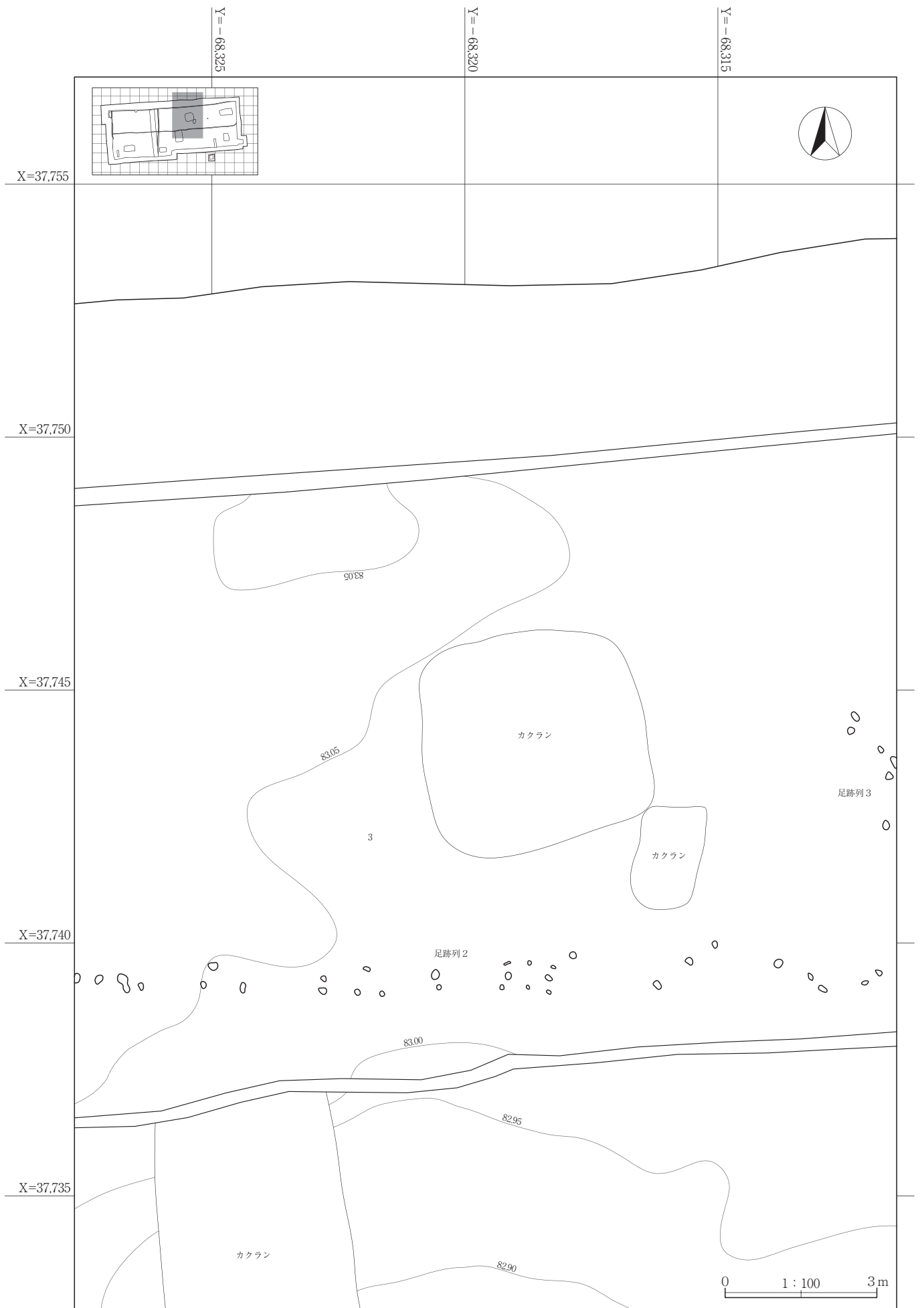
第 32 図 As-B 軽石下水田 (1)



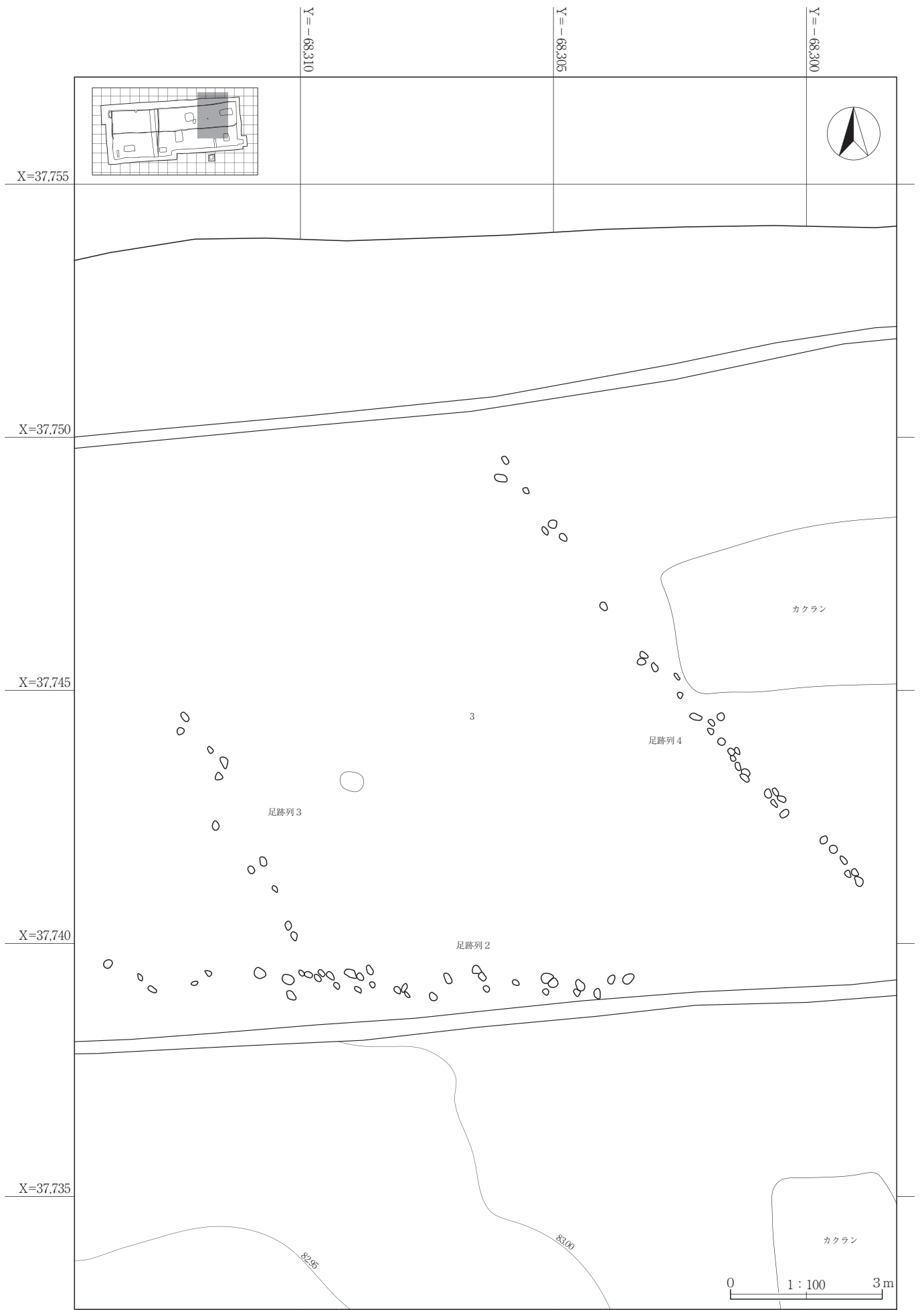
第 33 図 As-B 軽石下水田 (2)



第 34 図 As-B 軽石下水田 (3)



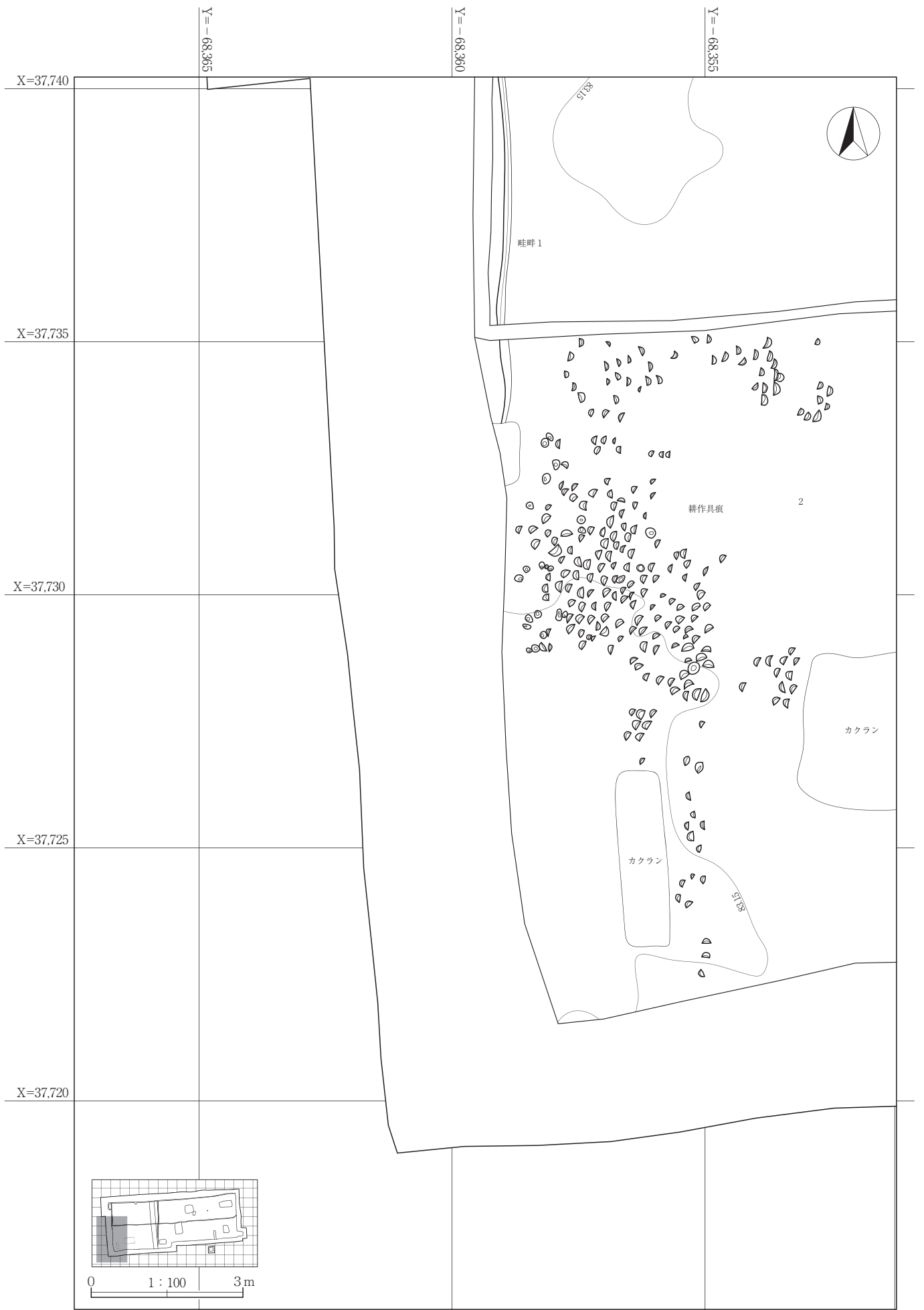
第35図 As-B 軽石下水田(4)



第 36 図 As-B 軽石下水田 (5)



第 37 図 As-B 軽石下水田 (6)



第 38 図 As-B 軽石下水田 (7)



第 39 図 As-B 軽石下水田 (8)



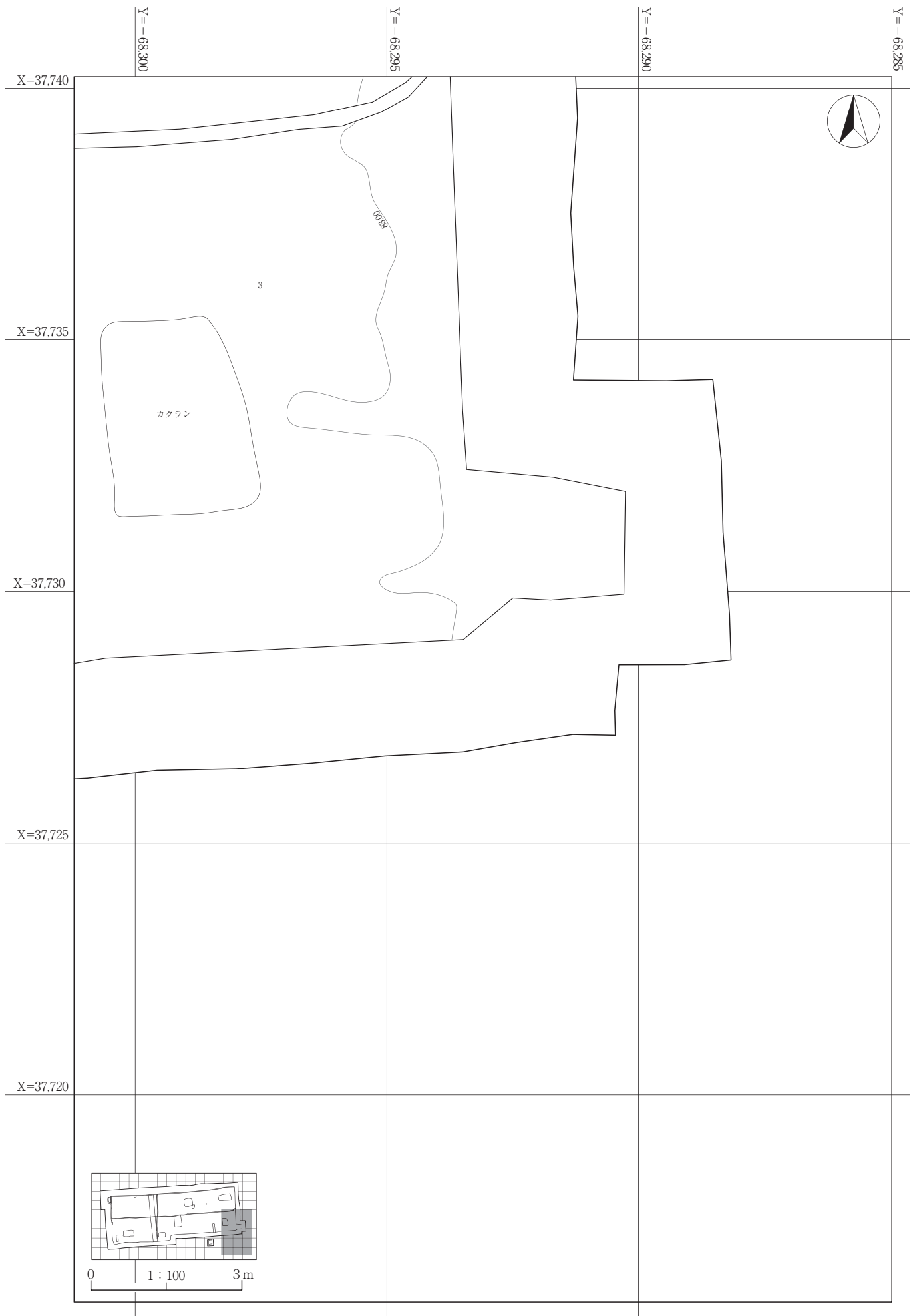
第40図 As-B 軽石下水田 (9)



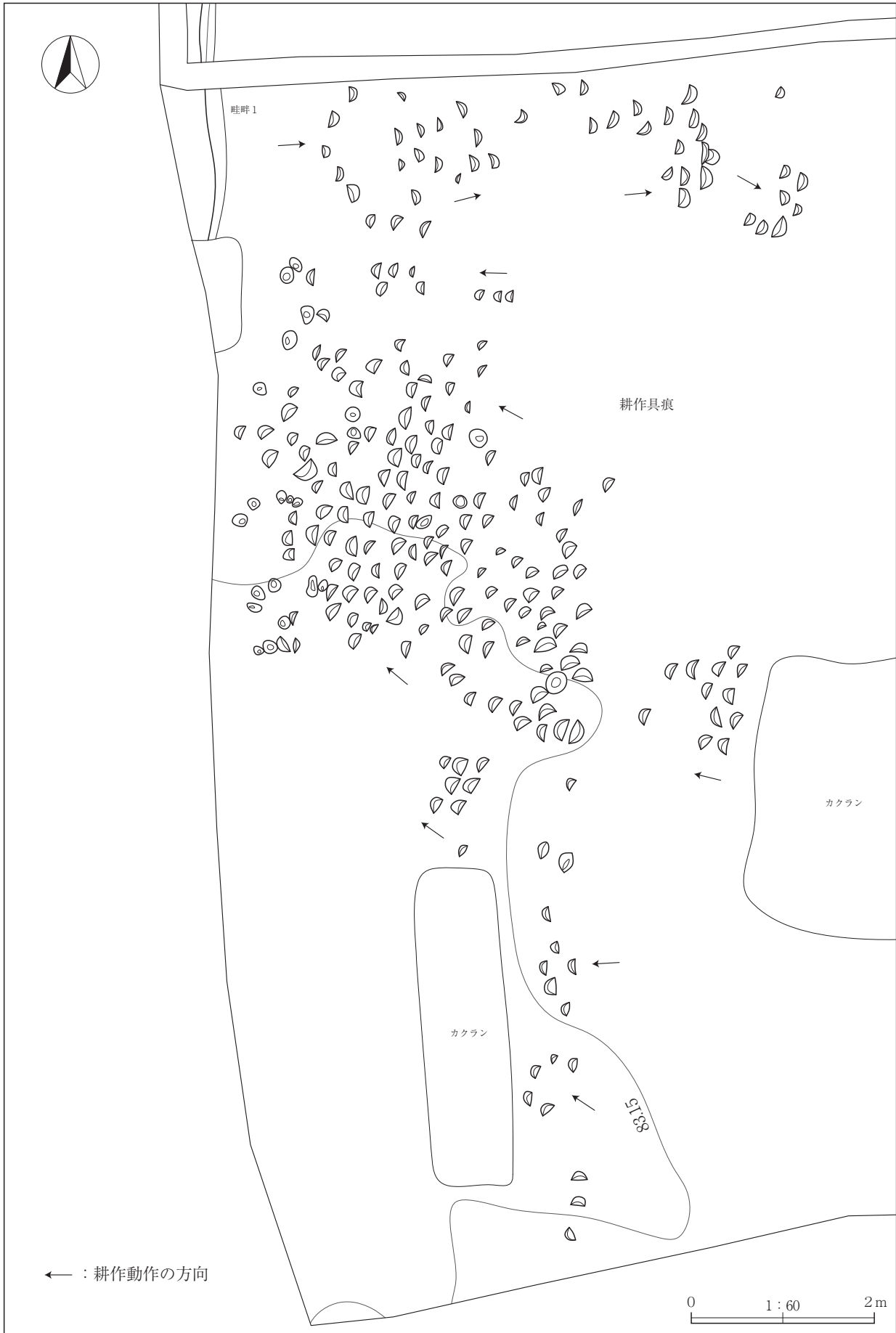
第41図 As-B 軽石下水田 (10)



第 42 図 As-B 軽石下水田 (11)

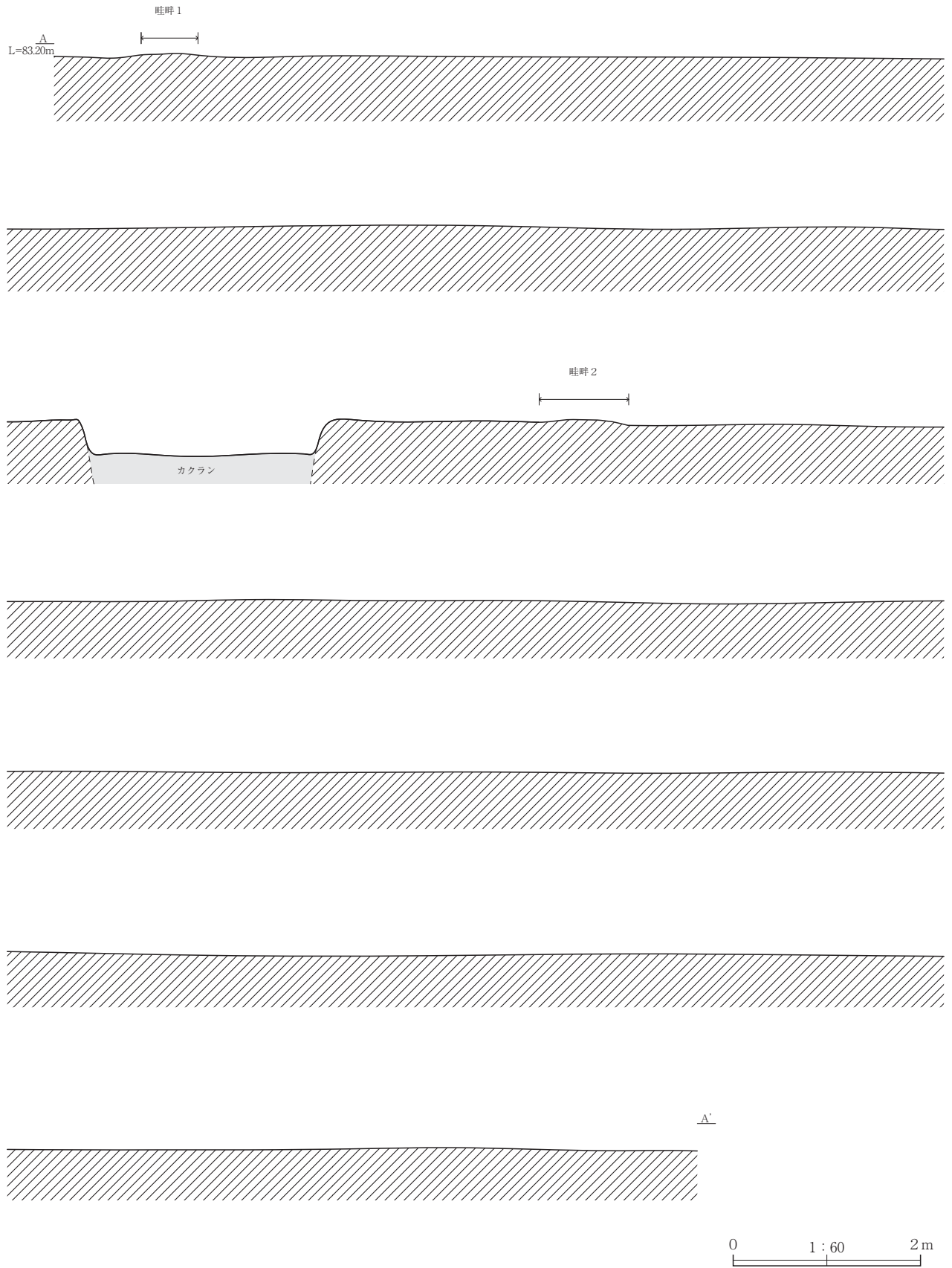


第43図 As-B 軽石下水田 (12)

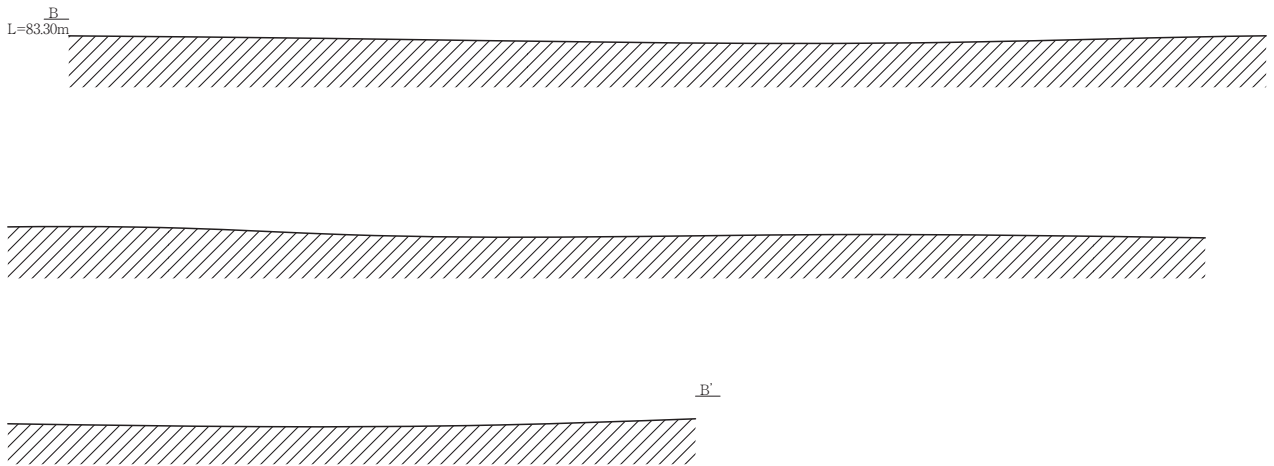


第44図 耕作具痕

As-B 軽石下水田

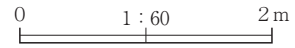
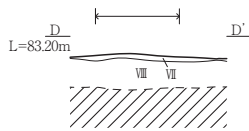
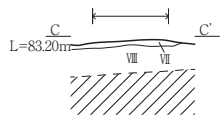


第 45 図 As-B 軽石下水田断面図 (1)



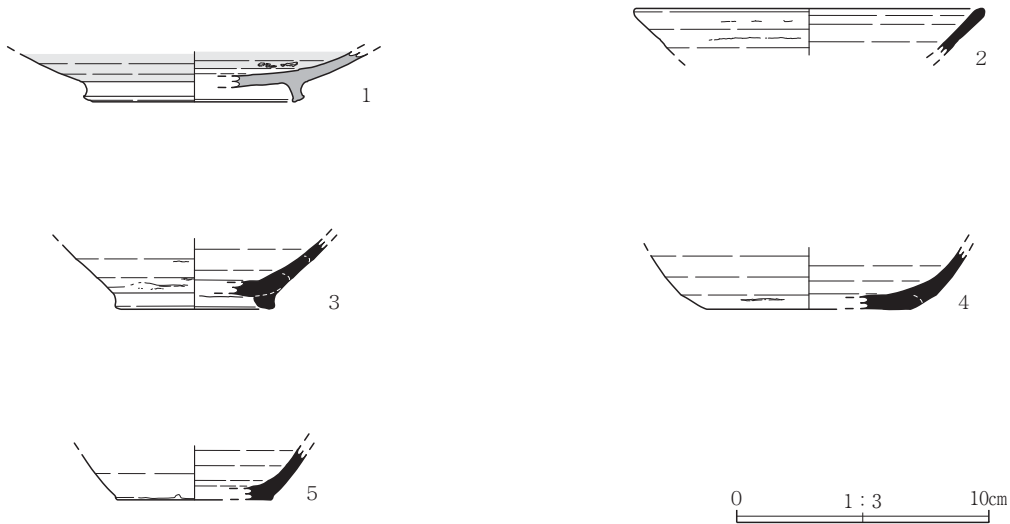
As-B 軽石下水田畦畔 1

As-B 軽石下水田畦畔 2



第 46 図 As-B 軽石下水田断面 (2)

第 1 面



第 47 図 第 1 面出土遺物

第 5 表 As-B 軽石下水田計測表

田面	グリッド	面積 (㎡)	東西 (㎡)	南北 (㎡)	標高 (m)					備考
					NW	NE	中央	SW	SE	
1	X=37.743 ~ 37.747 Y= - 68.359 ~ - 68.360	(2.93)	(0.60)	(1.59)	83.14	83.15	83.16	83.13	83.14	
2	X=37.721 ~ 37.748 Y= - 68.335 ~ - 68.359	(510.29)	12.16	(13.36)	83.15	83.12	83.13	83.15	83.10	
3	X=37.723 ~ 37.752 Y= - 68.290 ~ - 68.335	(981.29)	(22.42)	(14.48)	83.07	83.02	8.02	83.02	83.01	

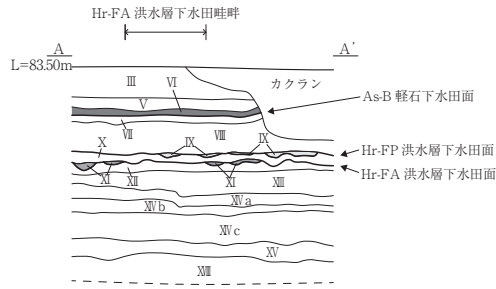
5 3工区立会い調査 (第48・49図、PL.27)

11月30日の1・2工区の調査終了後、12月1日から工場建設工事が開始された。3工区については南側に隣接する既存建物に近接すること、それに付随する埋設物や建物基礎等の構造物に損傷を与えることなく安全に配慮して調査できるように、建設工事中に立会い調査として実施することとなった。立会い調査は3工区の中で建設工事に影響がない場所であること、1・2工区の調査結果から3面の水田面が確認できる場所を選定し、2m×2mのトレンチ調査として南側壁面の土層観察を行った。調査の結果、As-B 軽石下水田、Hr-FP 洪水層下水田、Hr-FA 洪水層下水田の3面の水田面が確認された。Hr-FA 洪水層下水田以下の層では遺構は検出されず、遺物の出土も無かった。各水田面の被覆層はAs-B 軽石：6cm、Hr-FP 洪水層：4cm、Hr-FA 洪水層：7cmである。Hr-FA 洪水層下水田では畦畔が確認された。下図に示したように1・2工区で確認された南北畦畔の延長部分にあたると考えられる。



第48図 3工区 Hr-FA 洪水層下水田推定図

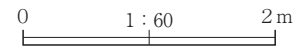
3工区土層断面



3工区土層断面 SPA

- III 褐灰色～灰黄褐色土 (10YR6/1～6/2) As-A 軽石混土層。締まり有り、粘性弱い。
- V 黒褐色土 (10YR3/2) As-B 軽石混土層。締まり有り、粘性弱い。
- VI 黒褐色土～黄灰色土 (2.5Y3/1～4/1) As-B 軽石1次堆積層。締まり有り、粘性弱い。
- VII 黒褐色土 (10YR3/2) As-B 軽石下水田耕作土層。締まり有り、粘性強い。
- VIII 褐灰色土 (10YR6/1) 褐灰色粘質土層。締まり有り、粘性有り。
- IX 明黄褐色土 (10YR7/6) Hr-FP 洪水層。締まり有り、粘性有り。
- X 褐灰色土 (10YR4/1) Hr-FP 水田耕作土層。締まり有り、粘性強い。
- XI 灰黄褐色土 (10YR4/2) Hr-FA 洪水層。締まり有り、粘性有り。
- XII 黒褐色土 (10YR3/1) Hr-FA 水田耕作土層。As-C 軽石混入黒褐色粘質土主体。
- XIII 黒褐色土 (10YR3/2) 黒褐色粘質土層。部分的に鉄沈着がみられる。締まり強い、粘性強い。
- XIV a 黒褐色土 (10YR3/1) 黒褐色粘質土層。白色粘質土を少量含む。締まり強い、粘性強い。
- XIV b 黒褐色土 (10YR3/1) 黒褐色粘質土層。締まり強い、粘性強い。
- XIV c 黒褐色土 (10YR3/1) 黒褐色粘質土層。細粒砂と白色軽石を少量含む。締まり強い、粘性強い。
- XV 灰褐色土 (10YR) 灰褐色粘質土層。締まり強い、粘性強い。
- XVI 黒褐色土 (10YR3/1) 黒褐色粘質土層。細粒砂を多量含む。締まり強い、粘性やや強い。

- : As-B 軽石1次堆積層
- ▨ : Hr-FP 洪水層
- ▩ : Hr-FA 洪水層

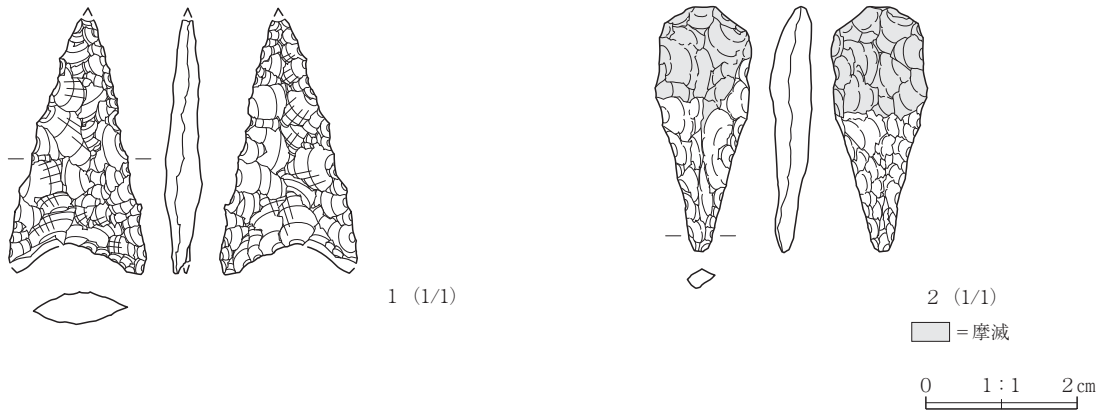


第 49 図 3 工区土層断面図

6 その他

遺構外出土遺物 (第 50 図、第 6 表、PL.28)

遺構外



第 50 図 遺構外出土遺物

第6表 出土遺物観察表

第3面

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	水田面上	土師器 坏	[10.9]	(3.0)	丸底	黒雲母、長石、 赤色粒、輝石	良好	にぶい黄 橙色	外面：口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ	口縁～体部下位片

第1面

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	水田面上	灰釉陶器 皿	-	(2.0)	[8.7]	粘土質、黒色粒	堅緻	灰白色	外面：ロクロナデ、底部貼付け高台、体部灰釉施軸 内面：ロクロナデ、重ね焼き痕残存、体部灰釉施軸	体部下位～底部片
2	Ⅶ層	須恵器 塊	[13.8]	(1.9)	-	黒雲母、石英、 茶色粒、輝石	酸化焰	灰白色	内外面：ロクロナデ	口縁～体部中位片
3	Ⅵ層	須恵器 塊	-	(2.8)	[6.2]	黒雲母、石英、 灰・茶色粒	還元焰 やや軟質	灰黄色	外面：ロクロナデ、底部回転糸切り後高台貼付け 内面：ロクロナデ	体部下位～底部片
4	Ⅶ層	須恵器 坏	-	(2.5)	[8.0]	白・黒・灰色細粒	酸化焰	灰白色	外面：ロクロナデ、底部回転糸切り 内面：ロクロナデ	体部中位～底部片
5	Ⅶ層	須恵器 坏	-	(2.2)	(6.1)	～3mm大の石英、 黒・茶色細粒、輝石	酸化焰	灰色	外面：ロクロナデ、底部回転糸切り 内面：ロクロナデ	体部中位～底部片

遺構外

No	出土位置	種別、器種	長さ	厚さ	幅	石材	重さ	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	Hr-FA 洪水層下 水田面	石器 石鏃	(3.3)	0.55	1.8	黒曜石	2.0	凹基無蓋鏃 連続する丁寧な整形剥離及び微細な調整剥離を施し薄型で整った形状を作出している。左右側縁は鋸歯状を呈し、凹基部はアーチ状に丁寧に作出している。	先端部及び左脚先端部欠損
2	Ⅶ層	石器 石鏃	3.2	0.55	1.25	安山岩	1.8	表・裏面共に左右側縁から丁寧な整形剥離を施し鏃先端部に向かい狭小する整った形状を作出している。上半部の基部は表・裏面共に握手による磨耗が認められ、石器は全体に風化が著しい。	完形 表面の風化が顕著

第6章 まとめ

今回の調査で古墳時代の水田2面（Hr-FA 洪水層下水田、Hr-FP 洪水層下水田）と平安時代の水田（As-B 軽石下水田）1面、合計3面の水田が確認されたが、良好とは言えない遺存状態であった。水田の検出事例が多いこの萩原・沖中遺跡群の中でもやや特殊な調査結果となった。ここでは今回の調査成果を基に周辺遺跡の調査事例と照らし合わせて各調査面について概観してみたい。

1 第4面

今回の調査では第4面において遺構を確認することはできなかったが、周辺遺跡では古墳時代前期に帰属する遺構が少数ではあるが検出されている。西側に隣接する萩原・沖中遺跡9では浅い弧状の溝と土橋状に残された未掘部からなる周溝状遺構が1基確認されている。西横手遺跡群や萩原・沖中遺跡8でも同様な形状の周溝状遺構（周溝墓含む）が確認されている。西横手遺跡群では調査区壁際であるため全体像の把握ができていないが隅丸あるいは円形の周溝墓と想定されている。周溝内にはマウンドを持ち、出土遺物はS字口縁台付甕・単口縁台付甕・高坏・壺等が出土している。萩原・沖中遺跡8では周溝状遺構として5基検出されており、出土遺物はS字口縁台付甕を中心とした古墳時代前期の遺物が出土している。

周辺の遺跡では古墳時代前期の集落は散在的に分布していることから、本遺跡は集落間の空白地帯に該当すると考えられる。

2 Hr-FA 洪水層下水田

5世紀末から6世紀初頭の榛名山の噴火に起因するHr-FA洪水層に被覆された水田は調査区の東側や南側の一部でのみ検出された。上層の洪水層に影響を受けたことにより畦畔が削平されたと考えられるが、畦畔の遺存が悪い状態は西側に隣接する萩原・沖中遺跡9の低台地部（調査区北西部）でもみられる。このような状況から、本遺跡周辺が洪水の大きな影響を受けた場所であったことが考えられる。

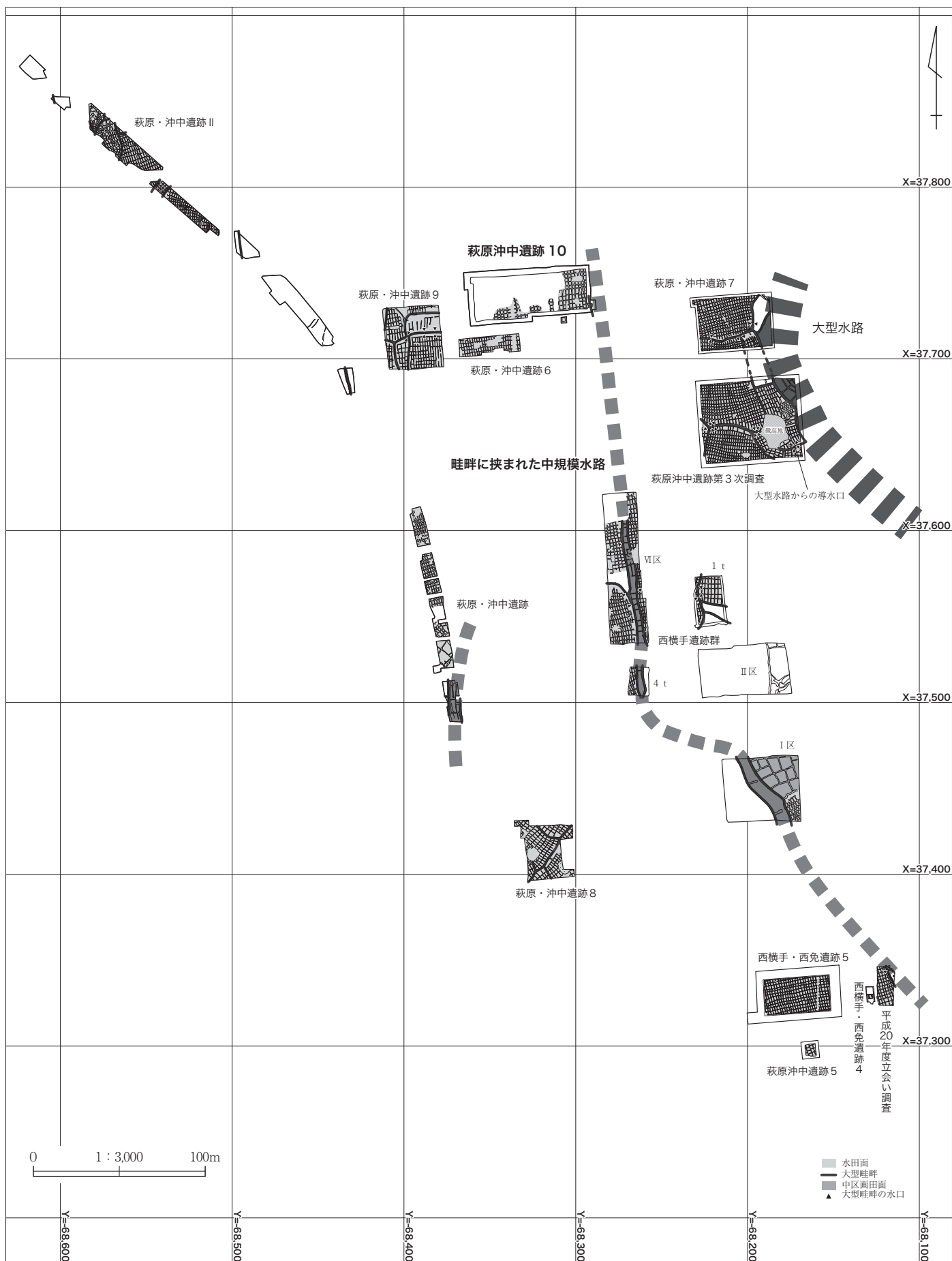
西側に隣接する萩原・沖中遺跡9では導水路や大畦畔の水口が検出されており各水田面への配水方向が想定されている⁽¹⁾。導水路によって北側から流入した水は大畦畔で区画された各水田へと配水され、東あるいは南の大畦畔の水口を通り、下流域の水田へ配水されていたと考えられる。本遺跡では全体的に遺存状態が不良であるため導水路や水口が存在していたかは不明であるが、遺跡全体の傾斜方向から西から東、北から東への配水方向であったと想定される。上流（北側）には導水路的なものが存在し、そこから配水していた可能性が考えられる。

西横手遺跡群VI区では南北に走向する「畦畔に挟まれた中規模水路」が確認されている。この溝を真っ直ぐ北方向に延長させると本遺跡の東際を走向する。本遺跡で確認された大畦畔がこの溝の西側畦畔部分にあたるのではないかと考えられる（第51図）。本遺跡水田に供給された水は最終的にこの溝へ配水されていたと推測される。

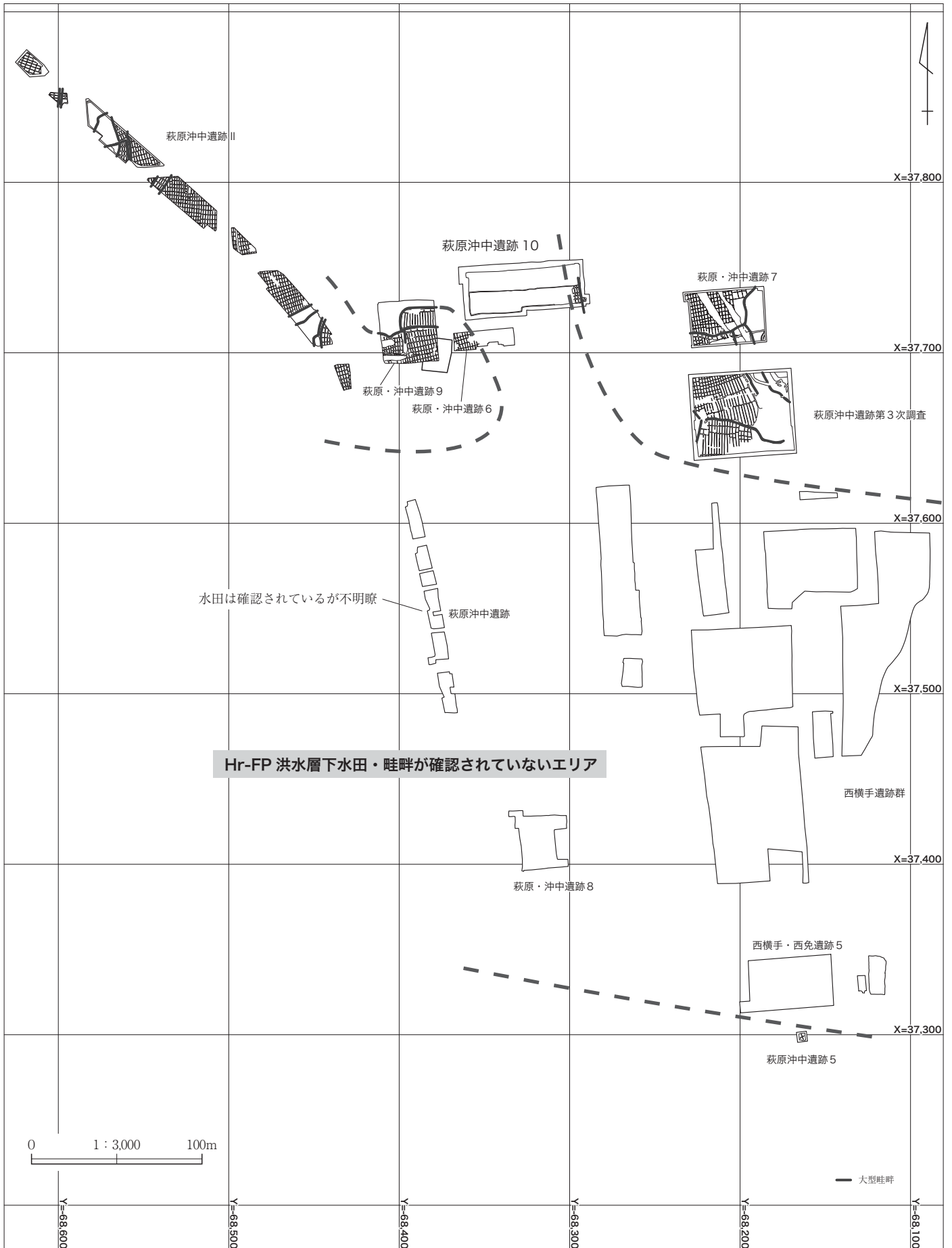
3 Hr-FP 洪水層下水田

6世紀中葉の榛名山の噴火に起因するHr-FP洪水層に被覆された水田は調査区東部のみで確認された。調査区西側～中央部ではHr-FP洪水層の堆積が僅かに確認できるが、水田面は洪水層により削平され消失していると考えられる。

萩原地域においてはHr-FP洪水層下水田の検出遺跡は限られている（第52図）。検出されている遺跡はX = 37,600より北側に位置する遺跡と南に位置する萩原沖中遺跡5である。萩原沖中遺跡では水田面は確認



第 51 図 本遺跡周辺の Hr-FA 洪水層下水田 (高崎市教育委員会 2013・2015 を加筆・修正)



第52図 本遺跡周辺の Hr-FP 洪水層下水田

されてはいるものの畦畔の検出には至っていない。本遺跡の南側に位置する萩原・沖中遺跡6では調査区の西側のみ水田・畦畔が確認されている。本遺跡西側に隣接する萩原・沖中遺跡9では低地部においては小区画水田の畦畔が確認されたが、北～北西側の低台地部では洪水層の影響でHr-FP洪水層下水田の耕作土も削平され、下層のHr-FA洪水層下水田面が露出している状態であった。本遺跡から東側に目を移すと萩原・沖中遺跡第3次調査と萩原・沖中遺跡7では小区画水田と部分的に畦畔が確認できない水田が確認されている。Hr-FP洪水下水田が確認されていないエリアの遺跡ではHr-FP洪水の堆積層が確認できない、あるいは確認できたとしても堆積層が薄い状態である。堆積層・水田が確認されている遺跡が周囲にあることから、元々水田は存在していた可能性が高い。その後、洪水の影響を受け水田面と堆積層が削平され消失してしまったと推測される。本遺跡と萩原・沖中遺跡6の間で水田が確認されていない。Hr-FP洪水層が薄いことから同様に洪水層の影響を強く受けた場所であったことがわかる。

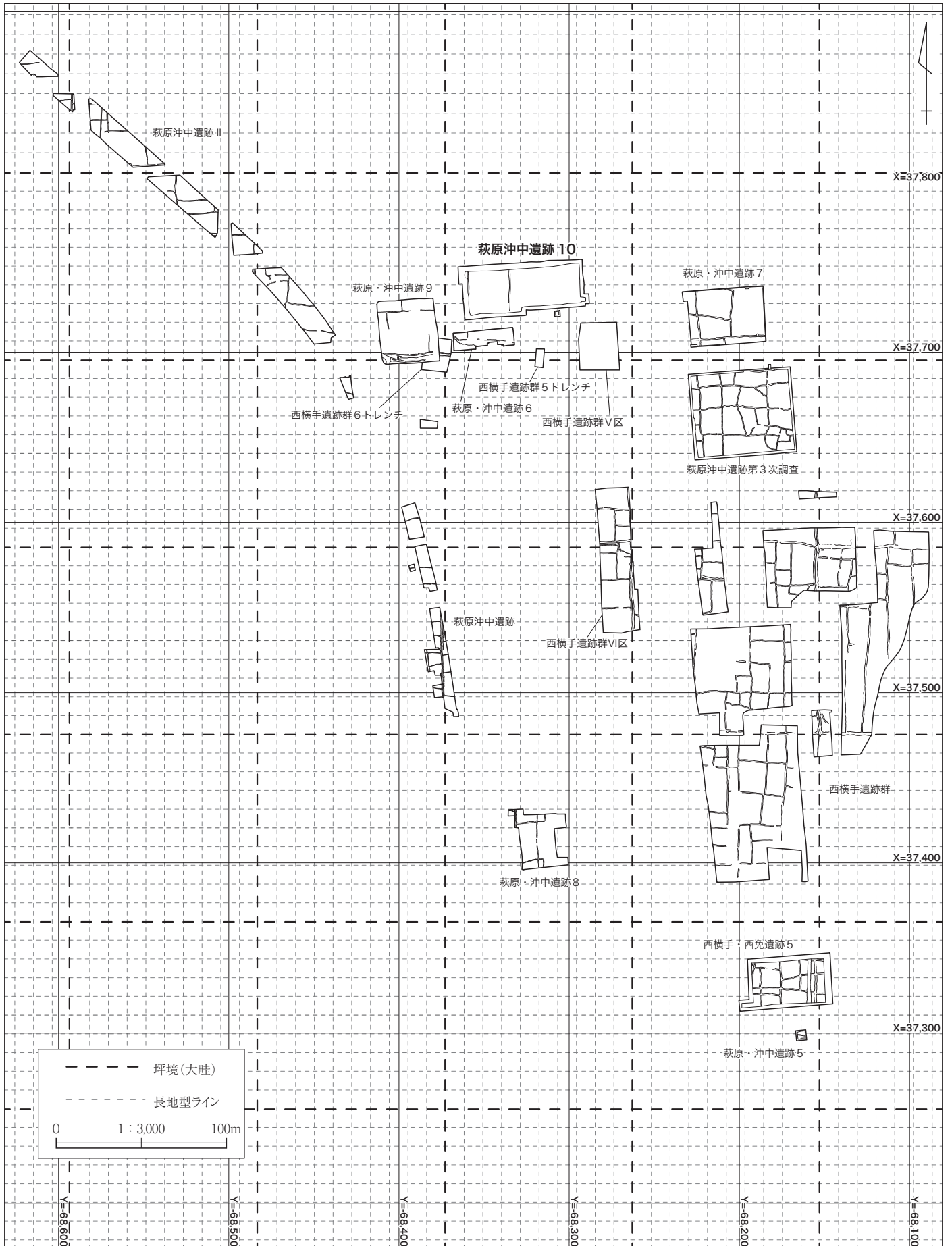
4 As-B 軽石下水田

嘉承三年、天仁元年（1108）、浅間山から降下したAs-B軽石に覆われた水田が検出された。As-B軽石の堆積層は調査区全域で確認されたものの、水田を区画する畦畔は南北方向の2条のみであった。本遺跡周辺はAs-B軽石下水田の確認事例が多いことから「条里型水田」の検討が進んでいる地域である。

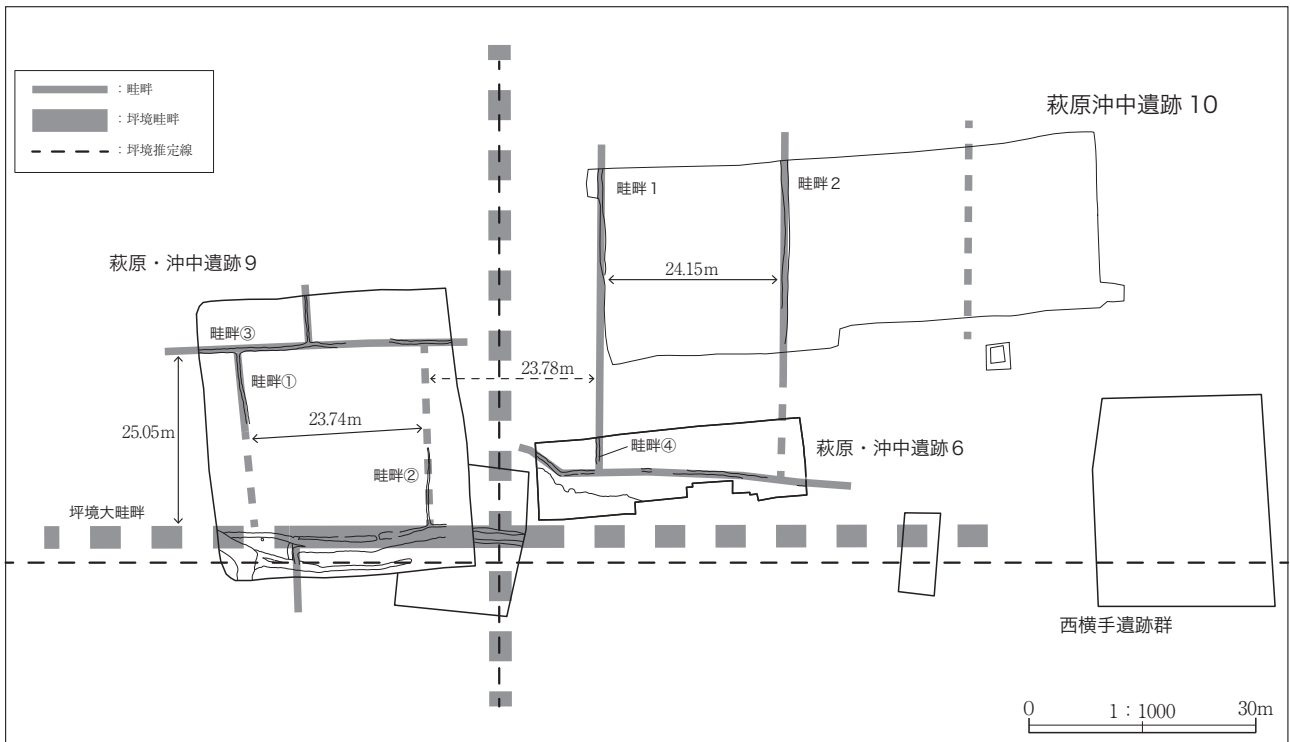
(1) 水田区画

坪境については西横手遺跡群や萩原沖中遺跡等で検出された南北・東西畦畔から一辺108～110m幅とする1町方格地割が想定されており、これを基に本遺跡周辺の条里型地割を示したものが第53図である。この図によれば本遺跡で検出された南北畦畔2条は坪内を区画していた畦畔であることになる。周辺遺跡の坪内の区画は長地型・半折型や両者に属さない区画が混在している。その状況から「(中略)制度としてではなく、耕作する際の単位として継承された可能性がある⁽²⁾」ことが指摘されている。西横手遺跡群や萩原・沖中遺跡第3次調査、西横手・西免遺跡5では不連続に設定された坪区画内の畦畔が多くみられる。本遺跡では2条のみの畦畔であるため長地型・半折型どちらと判別するには困難である。

本遺跡の2条の南北畦畔と隣接遺跡の畦畔との関係性について考察してみたい。本遺跡畦畔1は位置関係から萩原・沖中遺跡6で検出されている南北畦畔（第54図畦畔④）の北側延長部であると考えられる。本遺跡畦畔2についても南側延長部にあたる萩原・沖中遺跡6で検出できるはずであるが、想定される場所がカクランの場所にあたるため消失している。萩原・沖中遺跡9で確認された南北畦畔で区画された水田は畦畔間東西（同図畦畔①～②）23.73m、南北（同図坪境大畦畔～畦畔③）25.66m。本遺跡畦畔1・2の畦畔間（同図畦畔1～2）東西24.33mを測る。この周辺では約25mを一つの単位として水田区画を設定していた可能性が考えられる。因みに萩原・沖中遺跡9の南北畦畔から本遺跡畦畔1の畦畔間（同図畦畔②～1）は東西23.78mと近似値ではあるが、本遺跡と萩原・沖中遺跡9の間には坪境畦畔が南北に走向することが想定されるため参考値としたい。萩原・沖中遺跡9の畦畔③は東側延長部が本遺跡に現れるはずであるが、検出されていない状況から、坪境畦畔で止まっているものと思われる。この約25m間隔で南北畦畔が設定されているとすると、本遺跡の東側にもう1条畦畔があったと想定されるが検出には至っていない。周辺の遺跡に目を移すと、本遺跡の南東方向にあたる西横手遺跡群V区・5トレンチの調査ではAs-B軽石の遺存状態は悪く畦畔も検出されていない水田空白地となっている。本遺跡の東側も含めてこの一帯が「休耕田」であった可能性も考えられる。



第53図 本遺跡周辺のAs-B軽石下水田と坪内区画(高崎市教育委員会2013・2015を加筆・修正)



第 54 図 萩原沖中遺跡 10 周辺の畦畔想定図

(2) 取配水

取配水に関連する遺構は今回の調査では検出されなかったが、水田面の標高から推測するに北西方向から取り入れて、南東方向へ配水していたと考えられる。隣接する萩原・沖中遺跡 9 や西横手遺跡群 (II) 6 トレンチでは水路 (溝) が検出されており、東西方向の坪境畦畔に沿うように走向している。この溝が本遺跡の水田配水に関わっていた可能性は高い。最終的には西横手遺跡群 VI 区で確認されている南北方向の坪境畦畔に沿って走向する水路に配水されていたと考えられる。

(3) 耕作具痕

調査区南西隅で集中して確認された半月状の遺構は As-B 軽石降下後に鋤等の耕作具で差し込まれた痕跡である。本遺跡周辺で耕作具痕が確認されている遺跡は、萩原・沖中遺跡、萩原・沖中遺跡 3、萩原・沖中遺跡 6、西横手・西免遺跡 5 の 4 遺跡である。本遺跡を含めた 5 遺跡の内、西横手・西免遺跡 5 を除いた 4 遺跡では調査区全体域に分布するのではなく、一か所に集中して分布し、西横手・西免遺跡 5 では調査区全域で確認されている。全遺跡共通して痕跡同士は切り合っていることが少ないため 1 回の耕作耕作行動の所産と考えられる。As-B 軽石降下後、当時の人々がどのように耕作を再開していったのか。このような痕跡がその行動を知る手がかりになると思われる。

註釈

1. 佐野良平 2022 「第 7 章 まとめ」 p63 (高崎市教委 2022)
2. 前田和昭 2013 「第 9 章 調査の成果と課題」 p163 (高崎市教委 2013)

参考文献

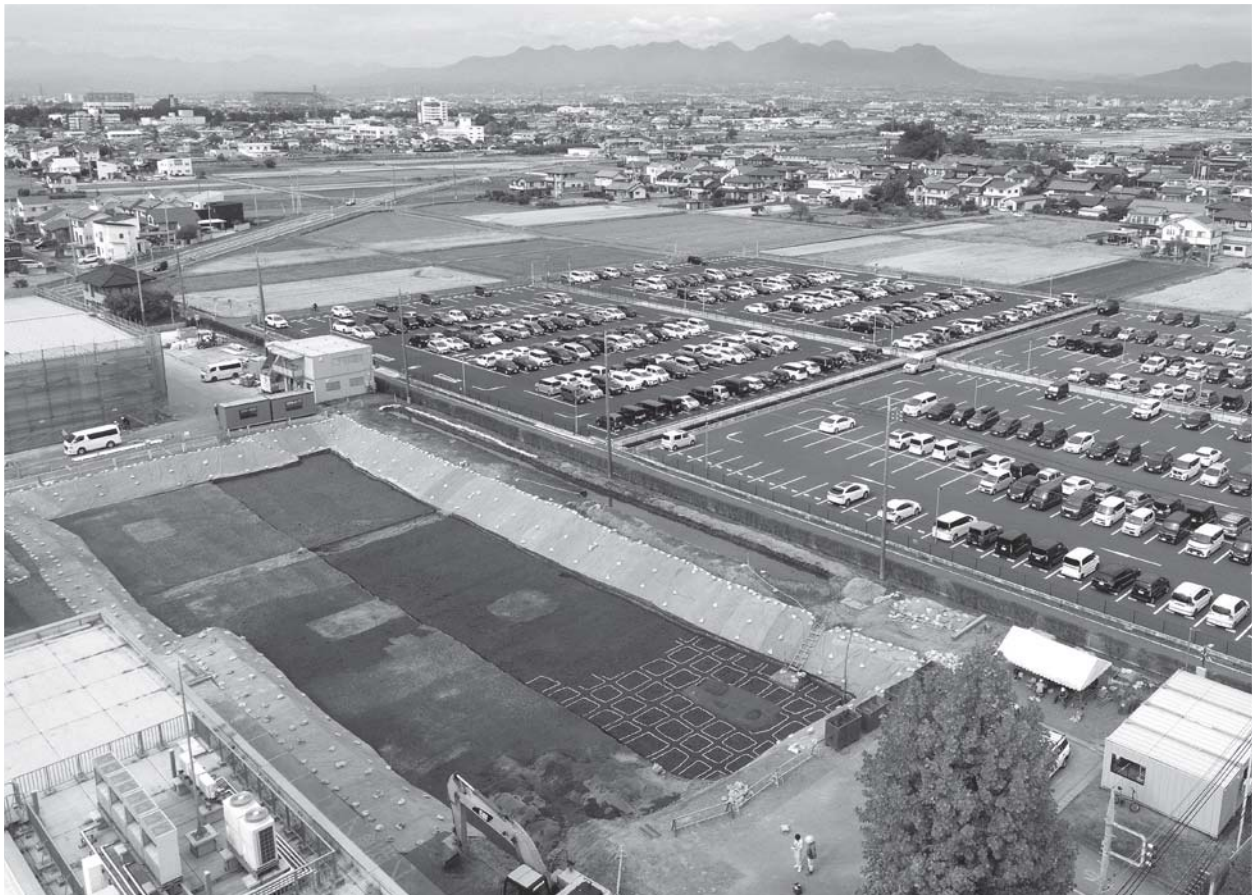
論文等

- 群馬県史編さん委員会 1981 『群馬県史』資料編3
- 群馬県教育委員会 1988 『群馬県の中世城館跡』
- 高崎市市史編さん委員会 1996 『新編 高崎市史』資料編3 中世Ⅰ
- 高崎市市史編さん委員会 1998 『新編 高崎市史』資料編1 原始古代Ⅰ
- 高崎市市史編さん委員会 1999 『新編 高崎市史』資料編2 原始古代Ⅱ
- 高崎市市史編さん委員会 2000 『新編 高崎市史』通史編2
- 高崎市市史編さん委員会 2002 『新編高崎市史』資料編8
- 高崎市史編さん委員会 2003 『新編 高崎市史』通史編1
- かみつけの里博物館第12回特別展 2004 『1108 - 浅間山噴火 - 中世への胎動』 かみつけの里博物館
- かみつけの里博物館第14回特別展 2006 『はるな30年物語 - 古墳時代に榛名山が大噴火した。災害と向き合うヒト、そして復興へ。』
かみつけの里博物館

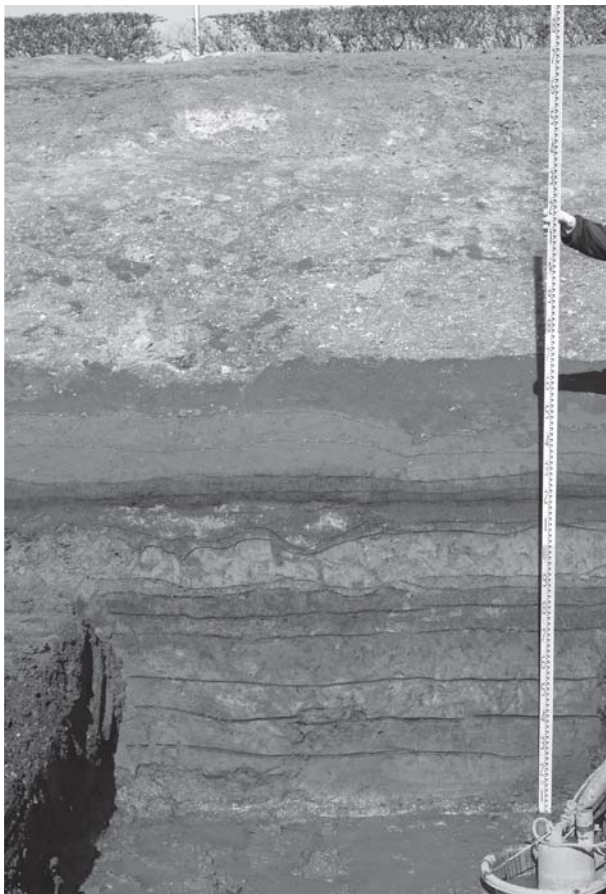
発掘調査報告書

- 群馬県教育委員会文化財保護課 1975 『上越新幹線地域埋蔵文化財発掘調査概報Ⅰ』
- 群馬県住宅供給公社 1979 『下新田遺跡』
- 高崎市教育委員会 1988 『島野村東遺跡』
- 高崎市教育委員会 1989 『西横手遺跡群(Ⅰ)』
- 高崎市教育委員会 1990 『西横手遺跡群(Ⅱ)』
- 高崎市教育委員会 1992 『高崎市内遺跡埋蔵文化財緊急発掘調査報告書』
- 県央処理区萩原遺跡調査会 1999 『萩原上・下五丁田Ⅰ遺跡』
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1999 『宿横手三波川遺跡』
- 高崎市教育委員会 2000 『高崎市内遺跡埋蔵文化財緊急発掘調査報告書14』
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2000 『甘楽条里遺跡(大山前地区)・福島椿森遺跡』
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2001 『宿横手三波川遺跡』
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2001 『西横手遺跡群』
- 県央処理区萩原遺跡調査会 2001 『萩原上五丁田Ⅱ遺跡』
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002 『宿横手三波遺跡・西横手遺跡群』
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002 『横手南川端遺跡・横手湯田遺跡』
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002 『上滝榎町北遺跡』
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002 『上滝榎町北遺跡・上滝Ⅱ遺跡』
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002 『西田遺跡・村中遺跡』
- 高崎市教育委員会 2003 『萩原八幡西・上五丁田Ⅲ・下五丁田Ⅱ遺跡』
- 高崎市教育委員会 2005 『萩原沖中遺跡』
- 高崎市教育委員会 2007 『萩原沖中Ⅱ遺跡』
- 玉村町教育委員会 2007 『砂町遺跡(第1～3次調査)・尾柄町Ⅲ遺跡・中之坊遺跡』
- 高崎市教育委員会 2009 『萩原沖中遺跡第3次調査』
- 高崎市教育委員会 2009 『萩原沖中遺跡5』
- 高崎市教育委員会 2009 『萩原・沖中遺跡6』
- 前橋市教育委員会 2010 『南部拠点地区遺跡群No.4』
- 高崎市教育委員会 2013 『萩原・沖中遺跡7 西横手・西免遺跡4 西横手・西免遺跡5』
- 前橋市教育委員会 2014 『南部拠点地区遺跡群No.10』
- 前橋市教育委員会 2014 『南部拠点地区遺跡群No.11』
- 高崎市教育委員会 2015 『萩原・沖中遺跡8』
- 高崎市教育委員会 2022 『萩原・沖中遺跡9』
- 前橋市教育委員会 2022 『南部拠点地区遺跡群No.12』

写 真 图 版



萩原沖中遺跡10全景（南東から）



基本土層（調査区北西壁、南から）



基本土層（調査区東壁、西から）

PL.2



第4面全景（東から）



第4面全景（西から）



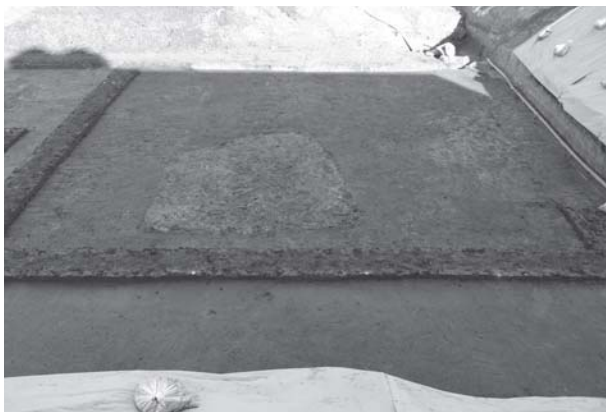
第4面全景（南東から）



第4面全景（南東から）



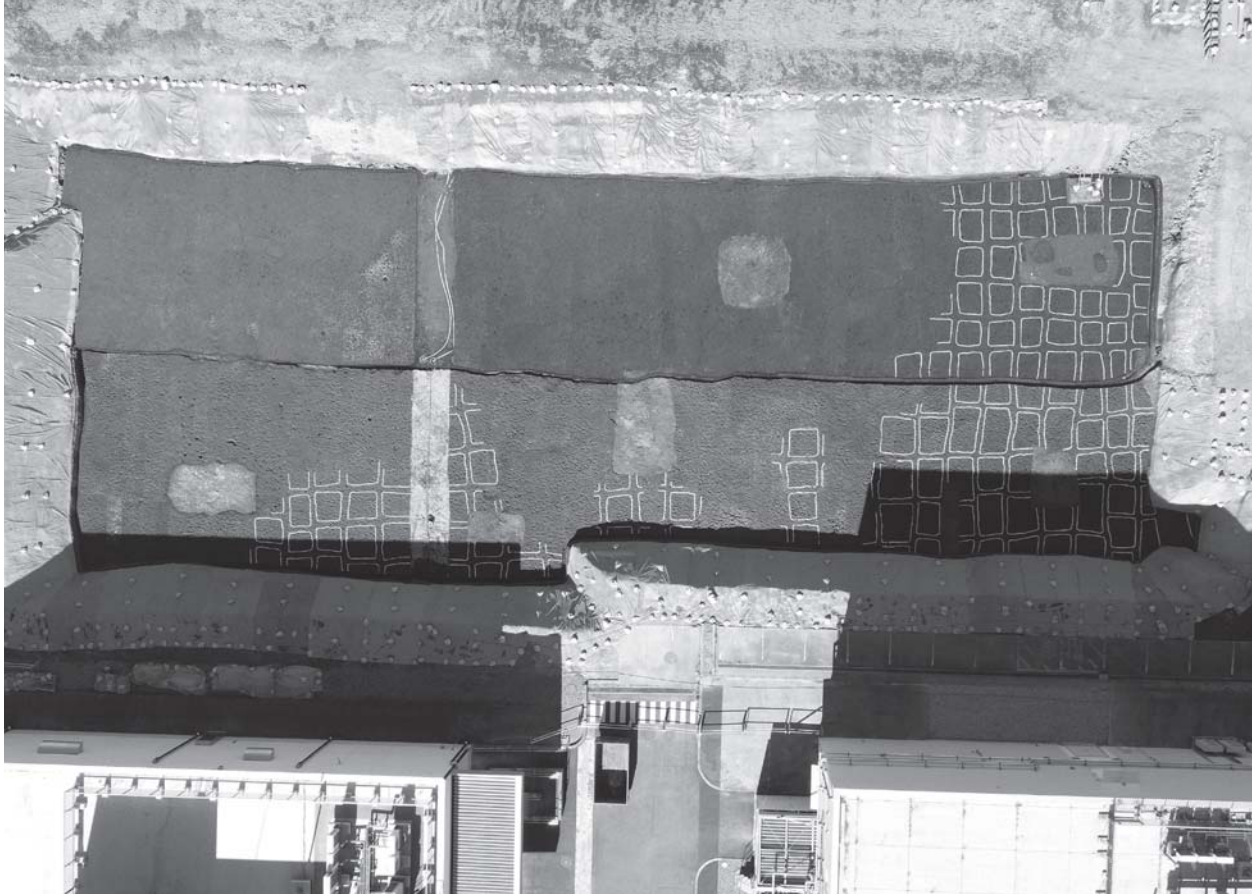
第4面全景（南東から）



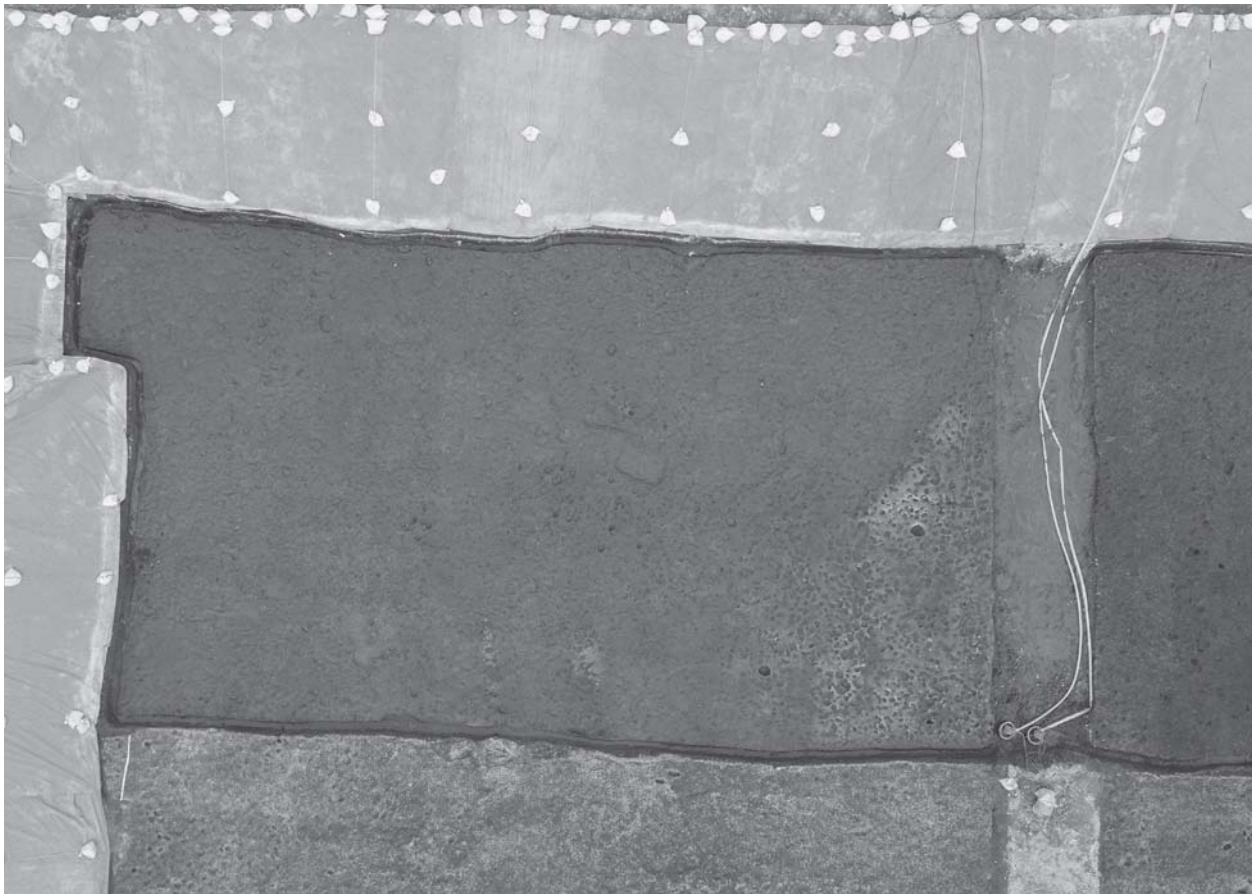
第4面全景（南から）



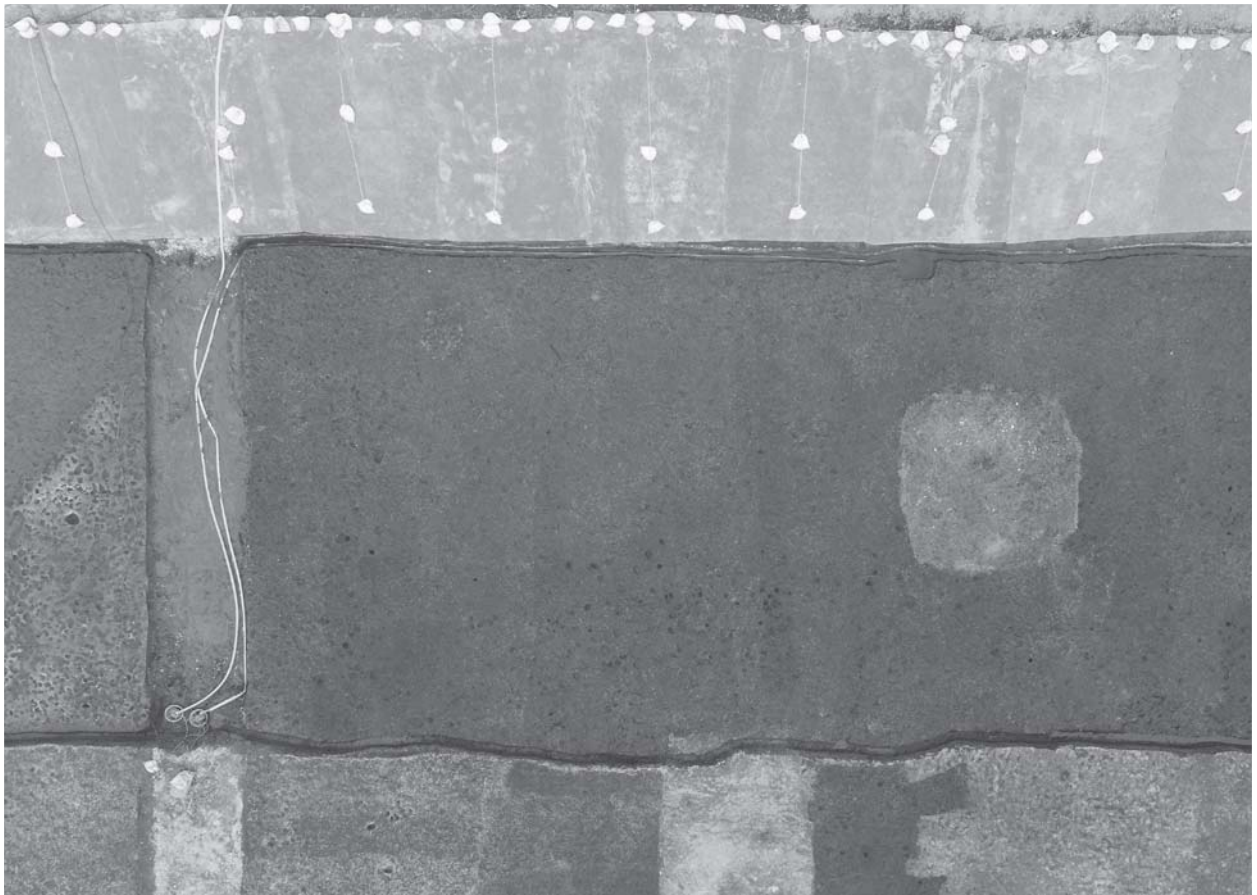
第4面全景（南西から）



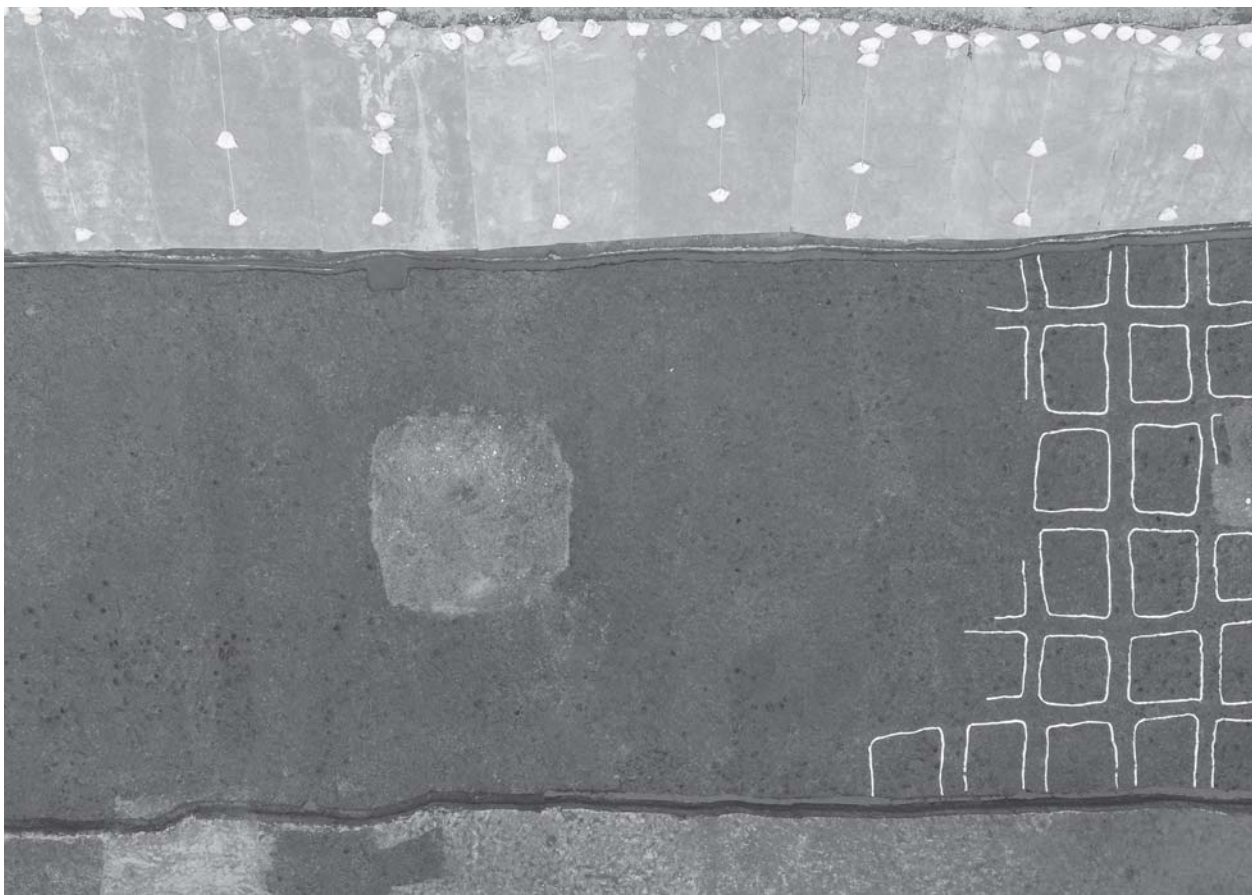
Hr-FA 洪水層下水田全景（合成、上が北）



Hr-FA 洪水層下水田北側全景（上が北）



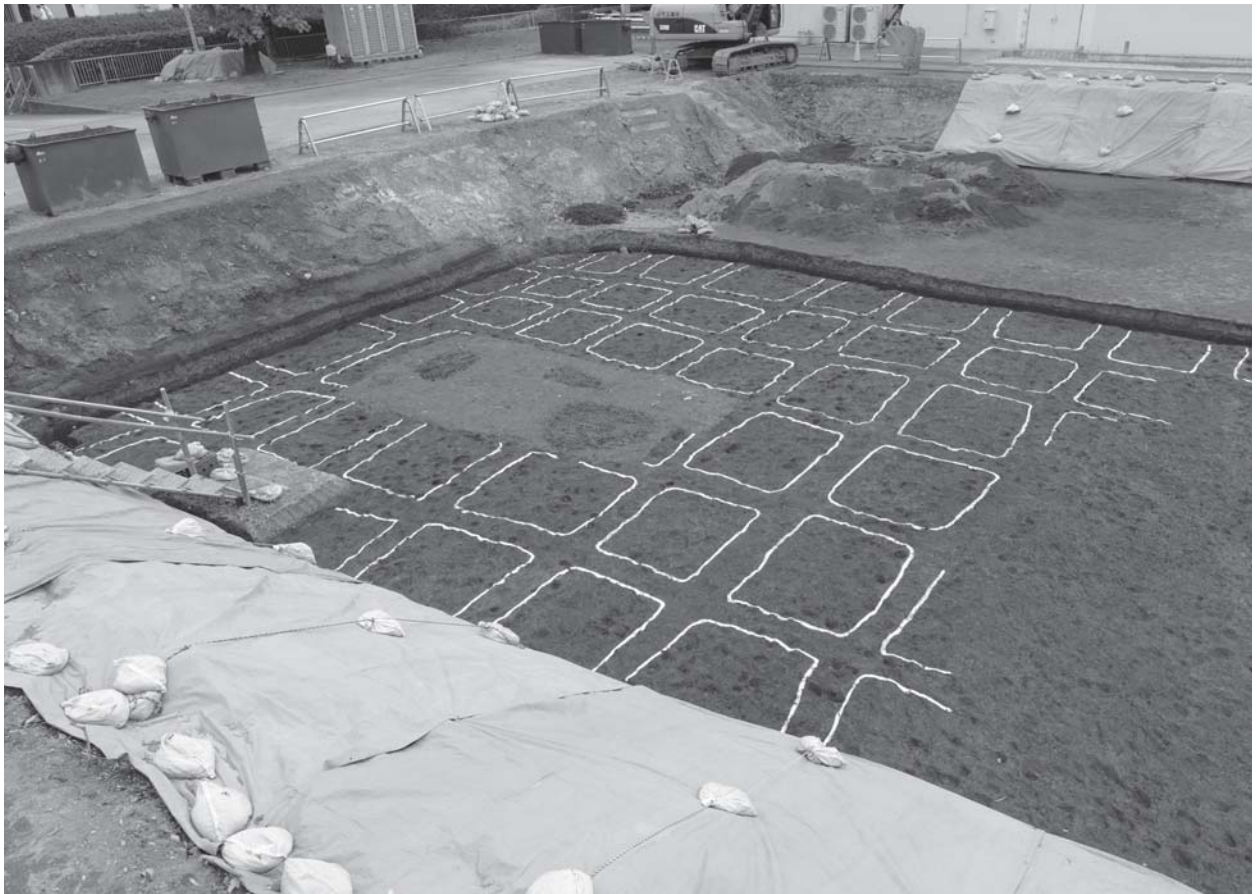
Hr-FA 洪水層下水田北側全景（上が北）



Hr-FA 洪水層下水田北側全景（上が北）



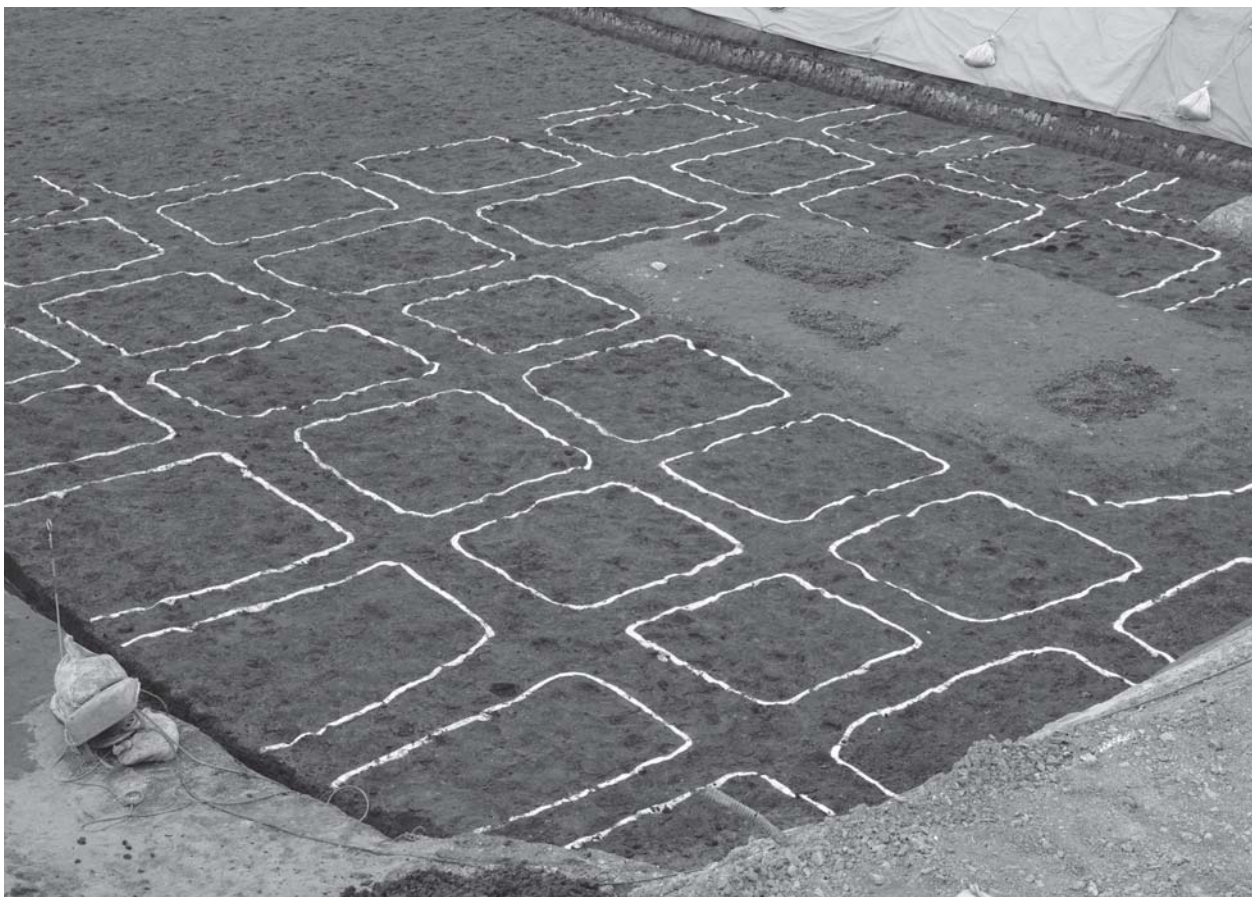
Hr-FA 洪水層下水田北側全景（上が北）



Hr-FA 洪水層下水田北側全景（北から）



Hr-FA 洪水層下水田北側全景（東から）



Hr-FA 洪水層下水田北側全景（南西から）



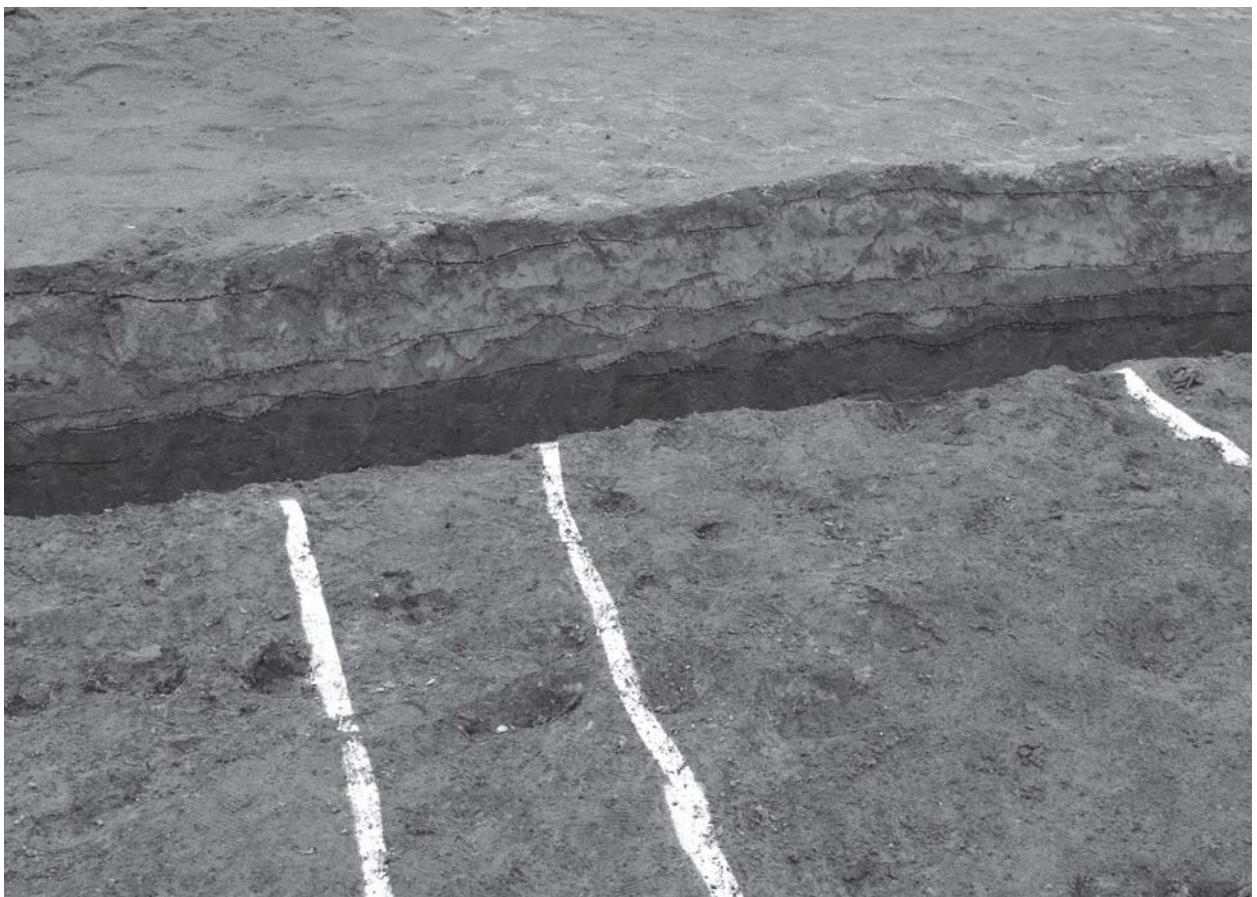
Hr-FA 洪水層下水田北側近景（東から）



Hr-FA 洪水層下水田北側近景（北西から）



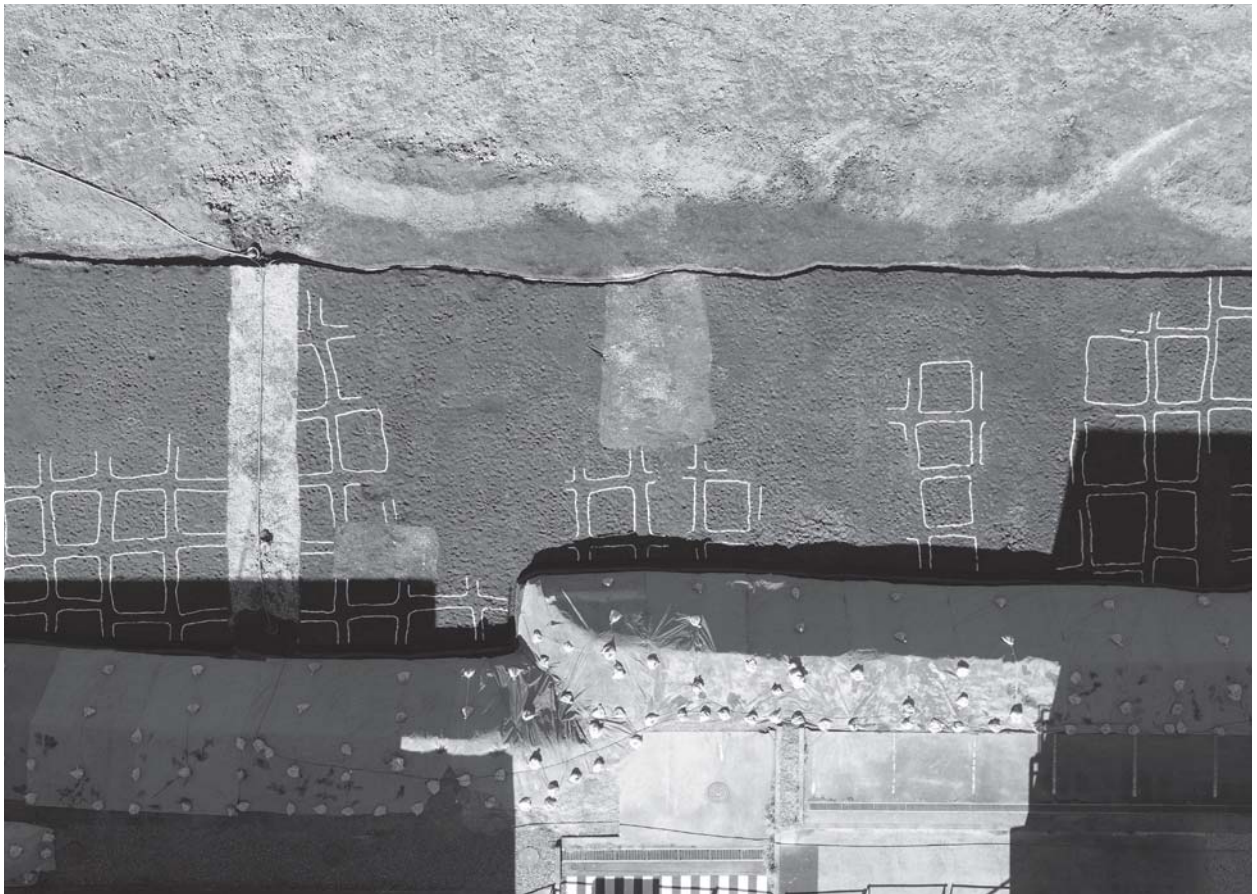
Hr-FA洪水層下水田（手前）とAs-B軽石水田面（奥）（南から）



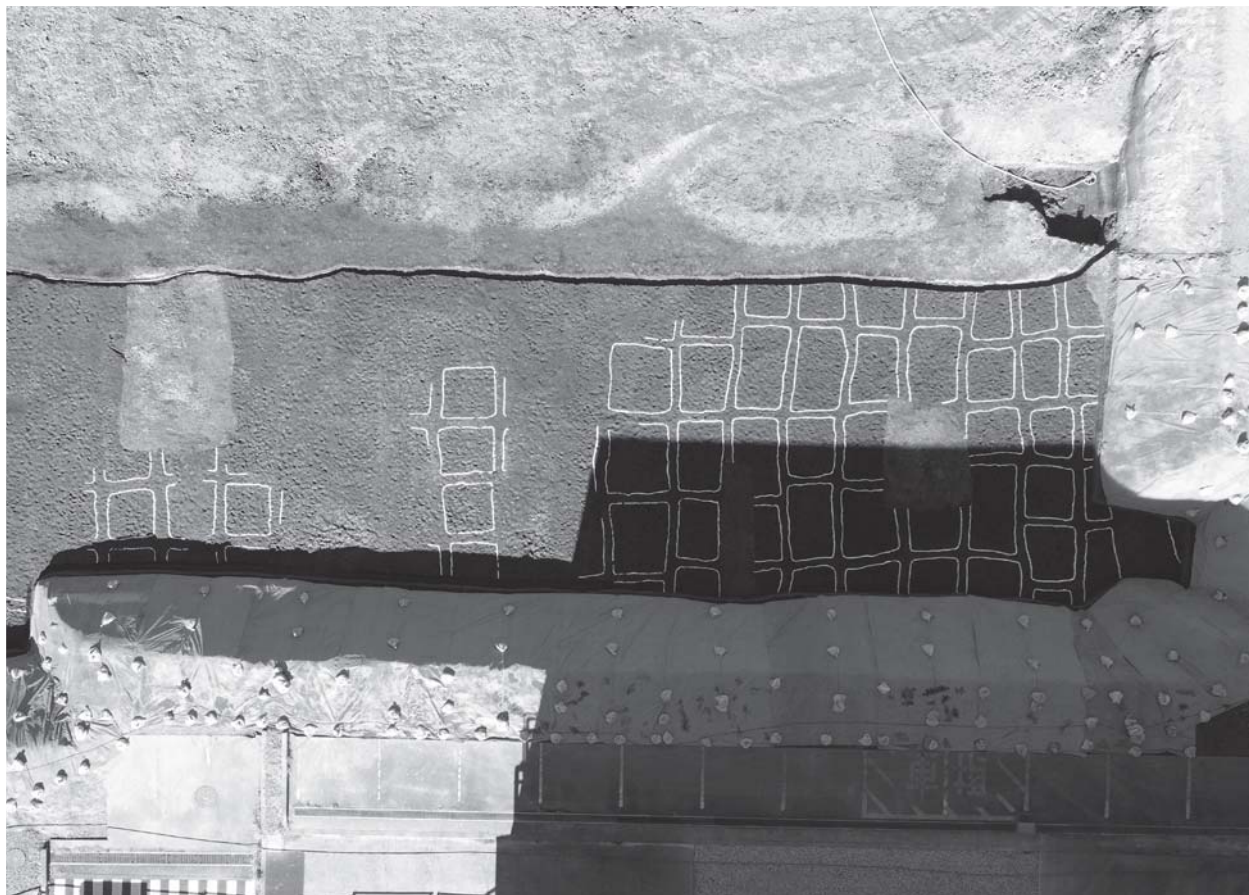
Hr-FA洪水層下水田畦畔土層状況（北から）



Hr-FA 洪水層下水田南側全景（上が北）



Hr-FA 洪水層下水田南側全景（上が北）



Hr-FA洪水層下水田南側全景（上が北）



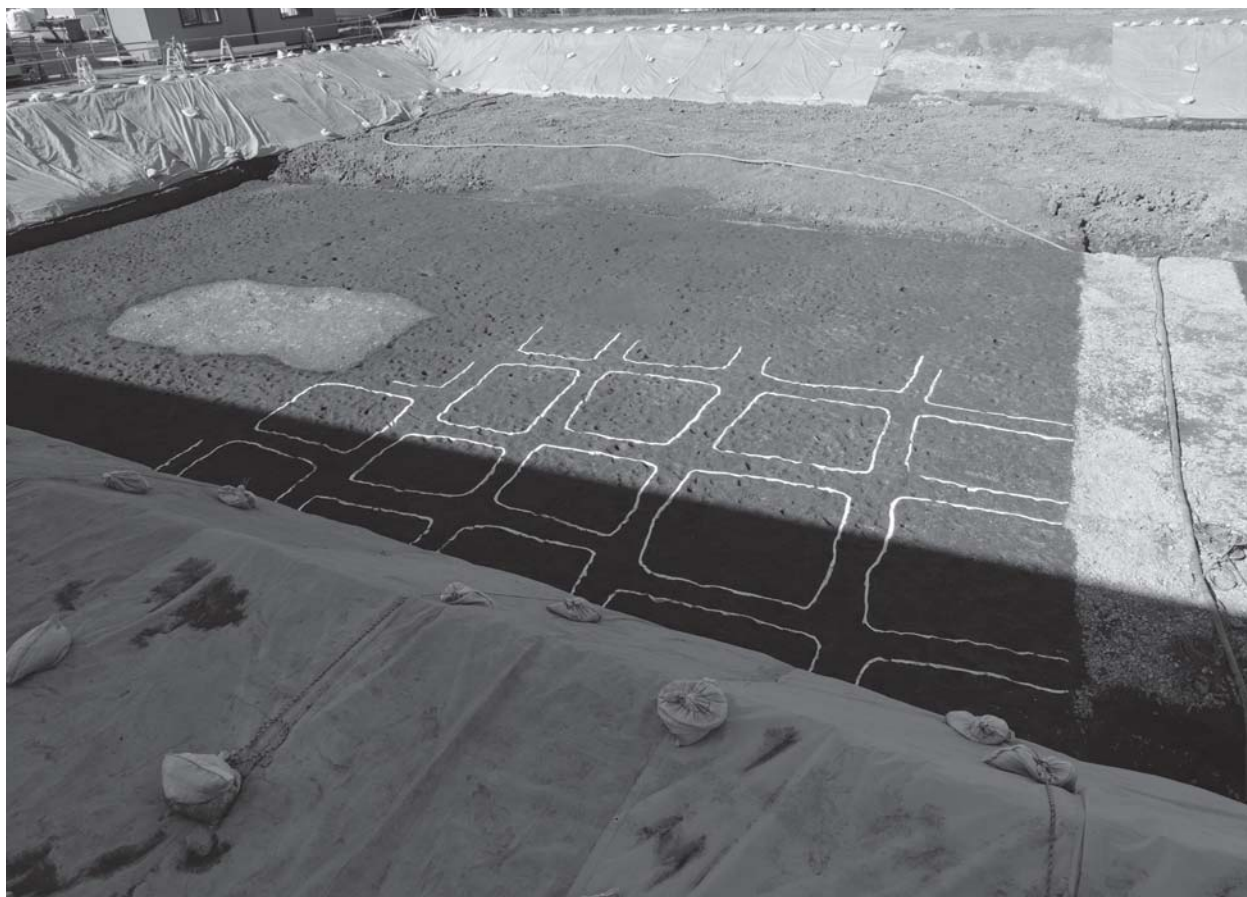
Hr-FA洪水層下水田南側全景（北東から）



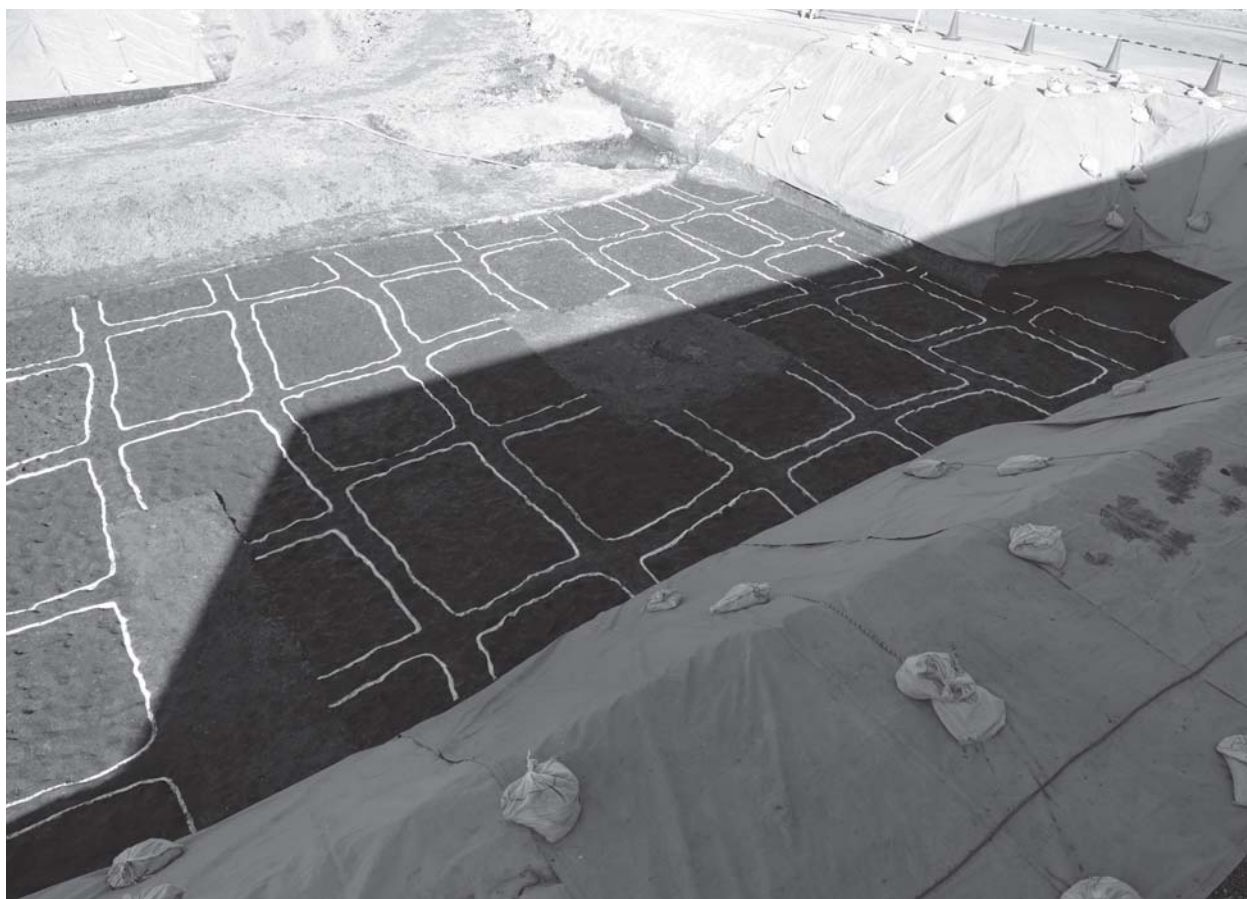
Hr-FA 洪水層下水田南側全景（南東から）



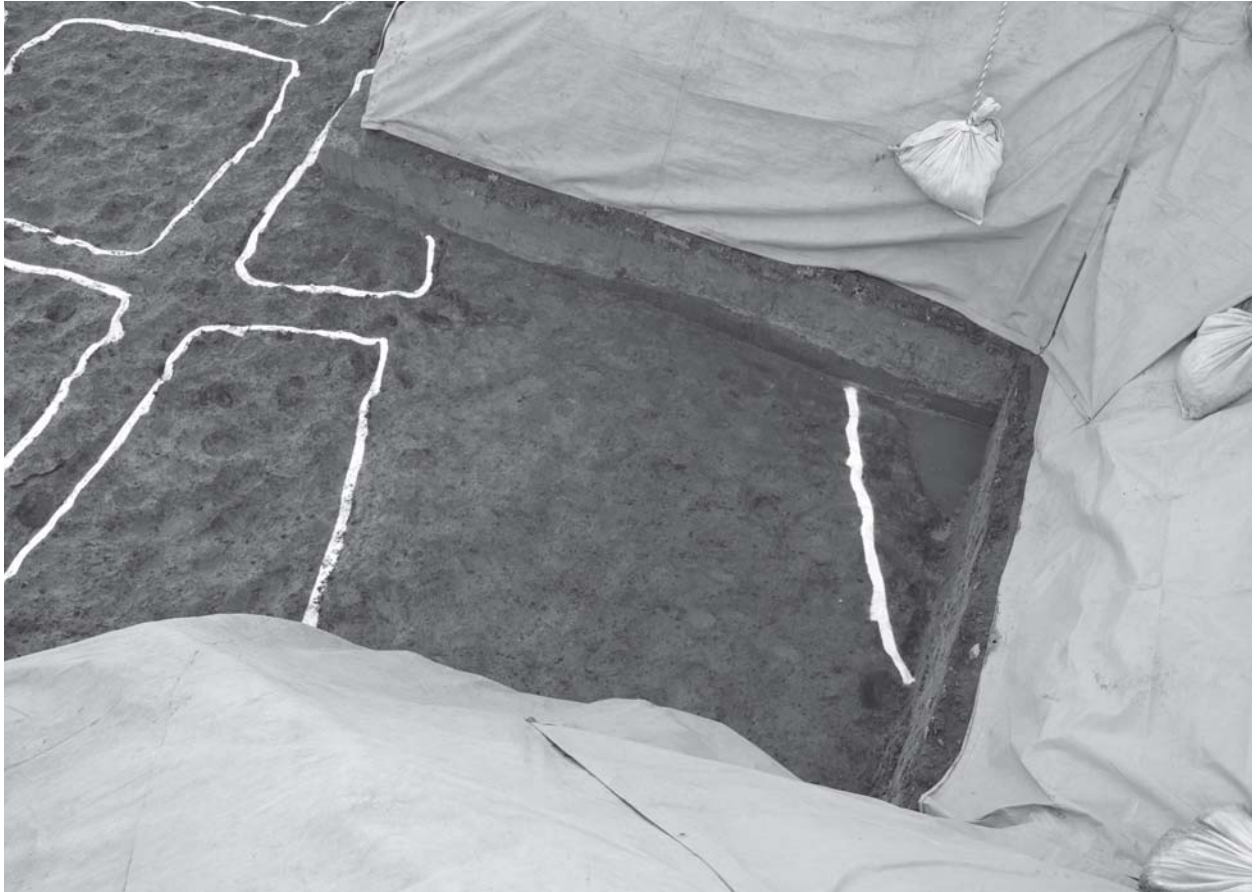
Hr-FA 洪水層下水田南側全景（南西から）



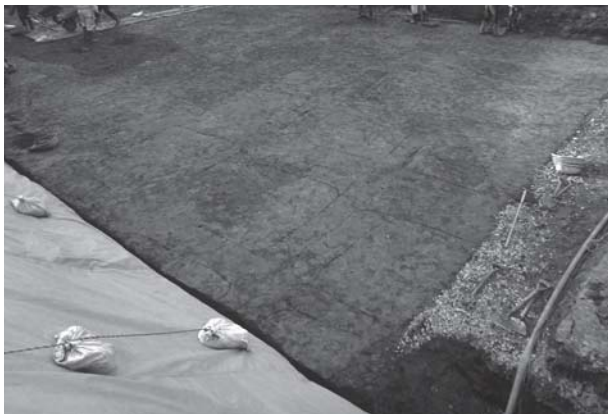
Hr-FA 洪水層下水田南側全景（南から）



Hr-FA 洪水層下水田南側全景（南から）



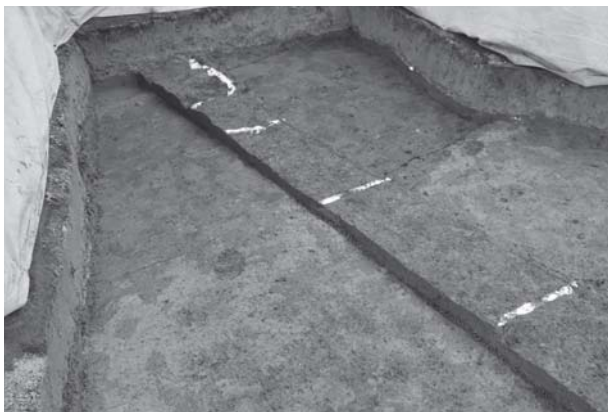
Hr-FA 洪水層下水田大畦畔全景 (南から)



Hr-FA 洪水層下水田検出状況 (南東から)



Hr-FA 洪水層下水田検出状況 (南西から)



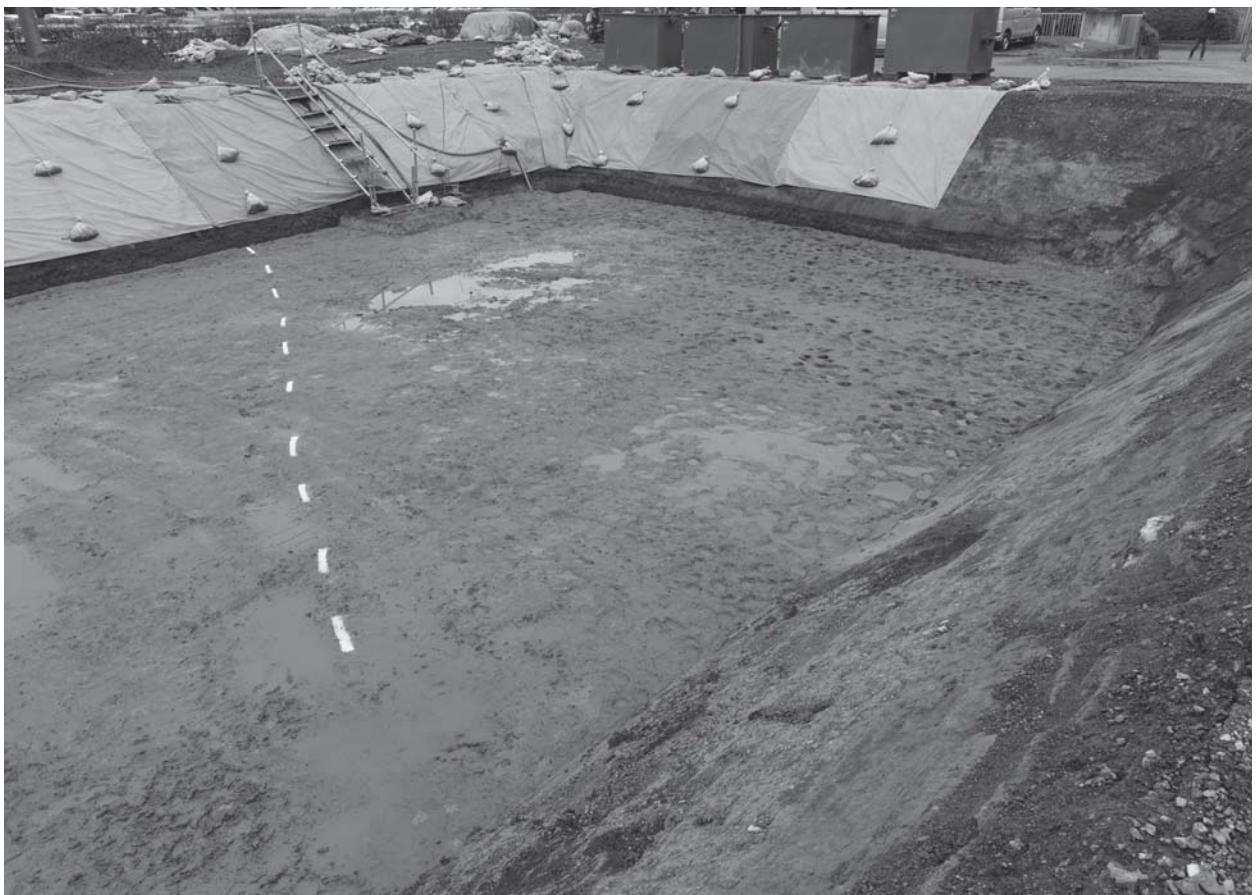
Hr-FA 洪水層下水田大畦畔検出状況 (北西から)



Hr-FA 洪水層下水田検出状況
(ベルト上はHr-FP洪水層水田面、北から)



Hr-FP洪水層検出状況（南西から）



Hr-FP洪水層下水田北側全景（南西から）



Hr-FP洪水層下水田南側全景（南西から）



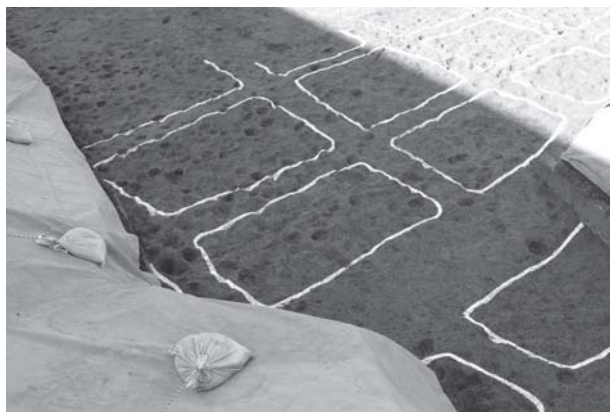
Hr-FP洪水層下水田南側全景（南から）



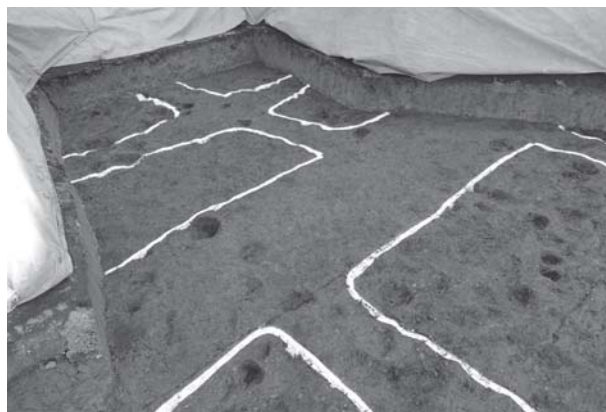
Hr-FP 洪水層下水田全景（北から）



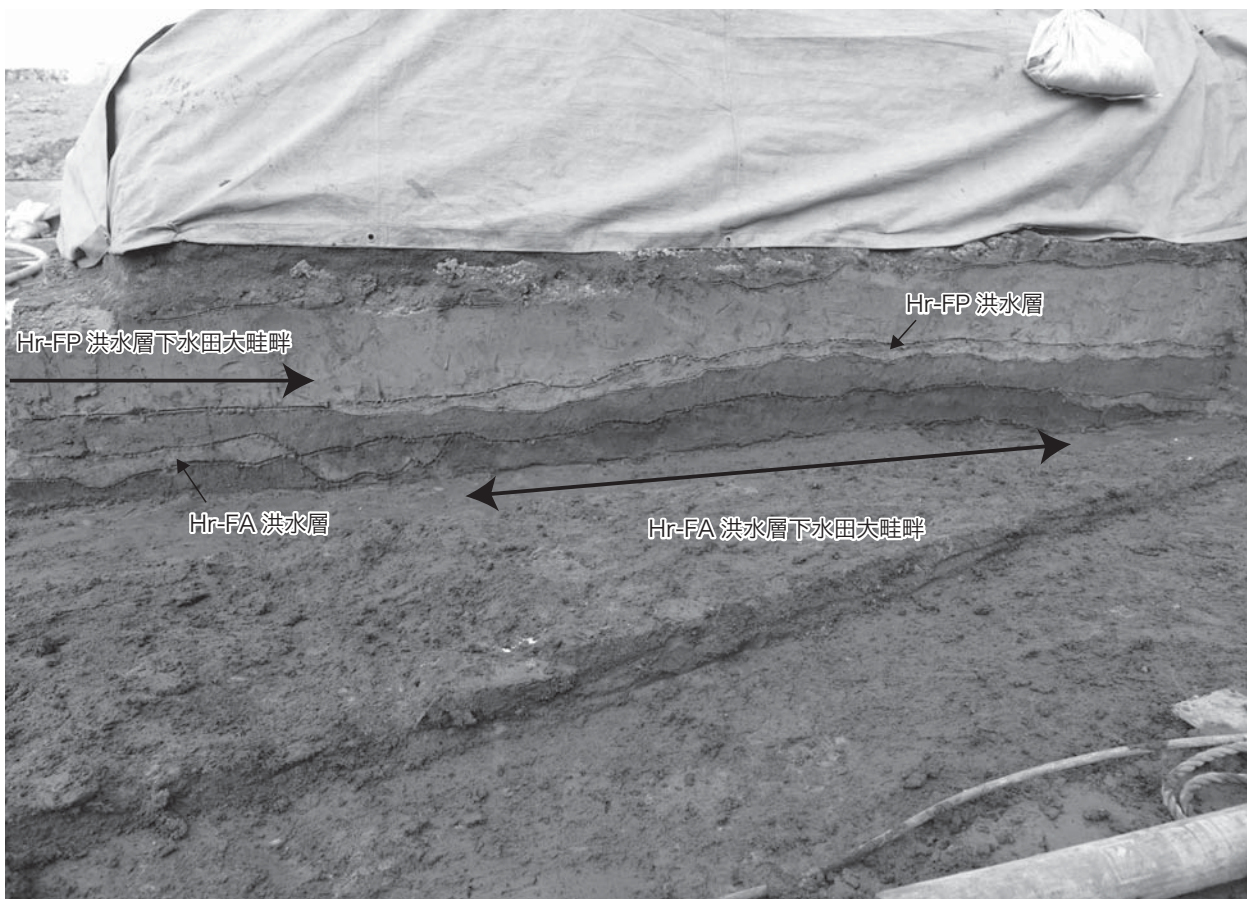
Hr-FP 洪水層下水田全景（西から）



Hr-FP 洪水層下水田全景（南東から）



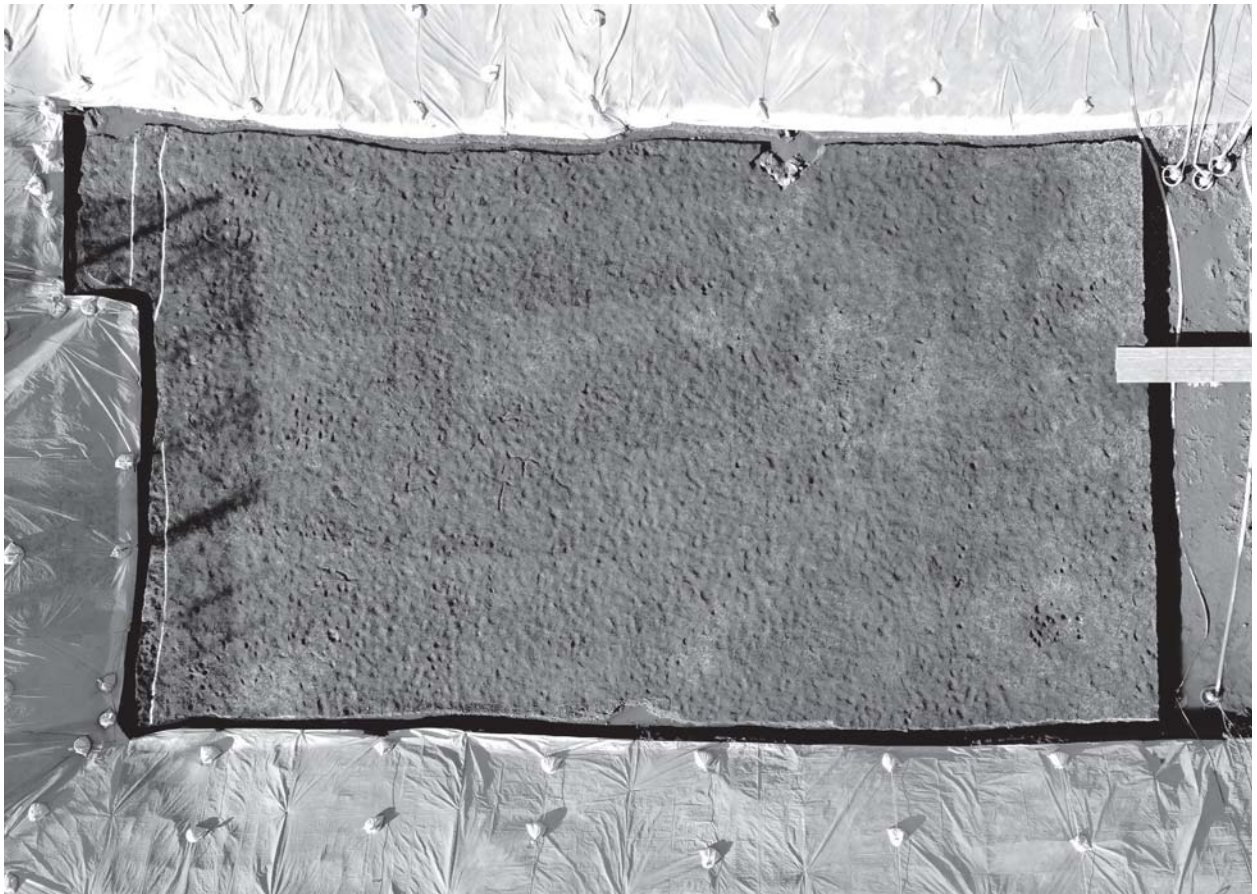
Hr-FP 洪水層下水田大畦畔全景（北西から）



Hr-FP・Hr-FA 洪水層下水田大畦畔断面写真（南から）



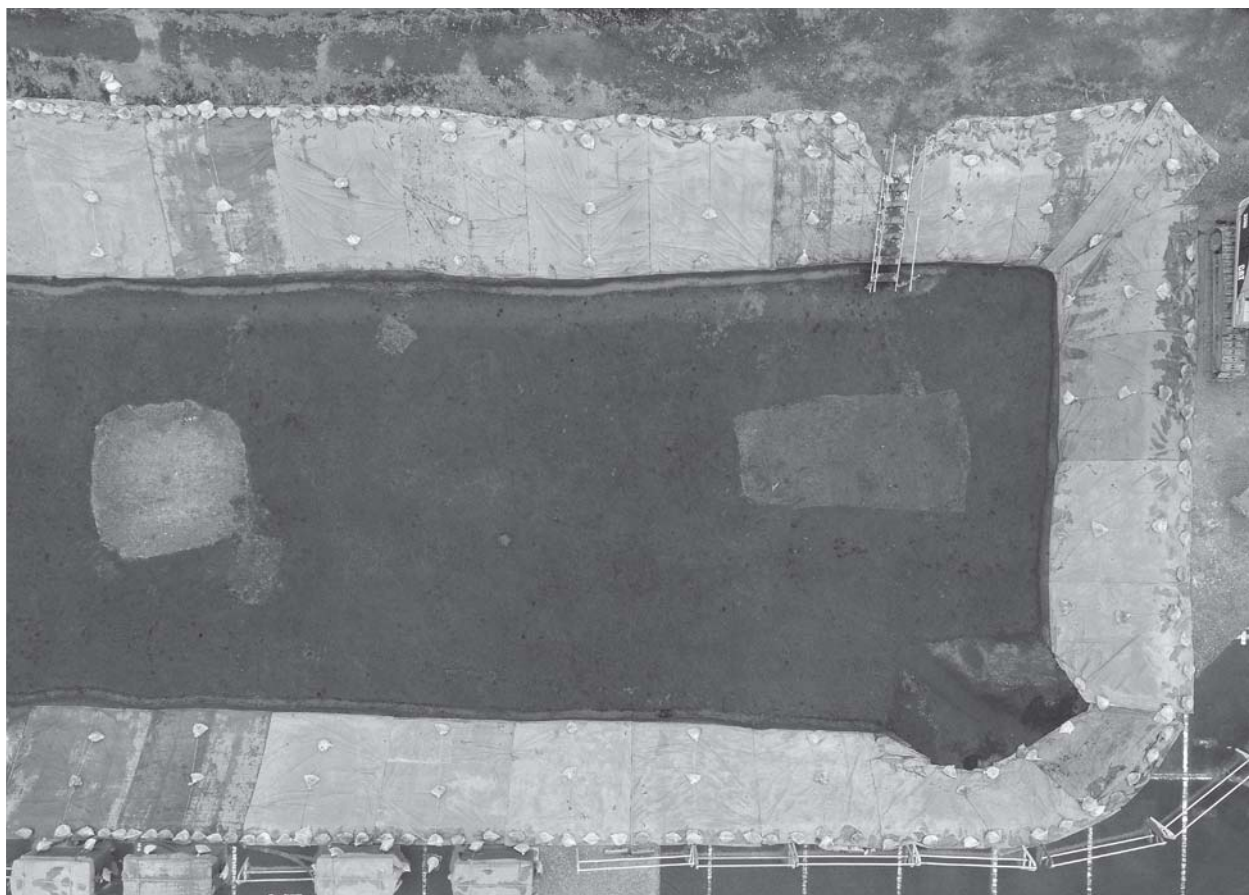
As-B軽石下水田全景（合成、上が北）



As-B軽石下水田北側全景（上が北）



As-B軽石下水田北側全景（上が北）



As-B軽石下水田北側全景（上が北）



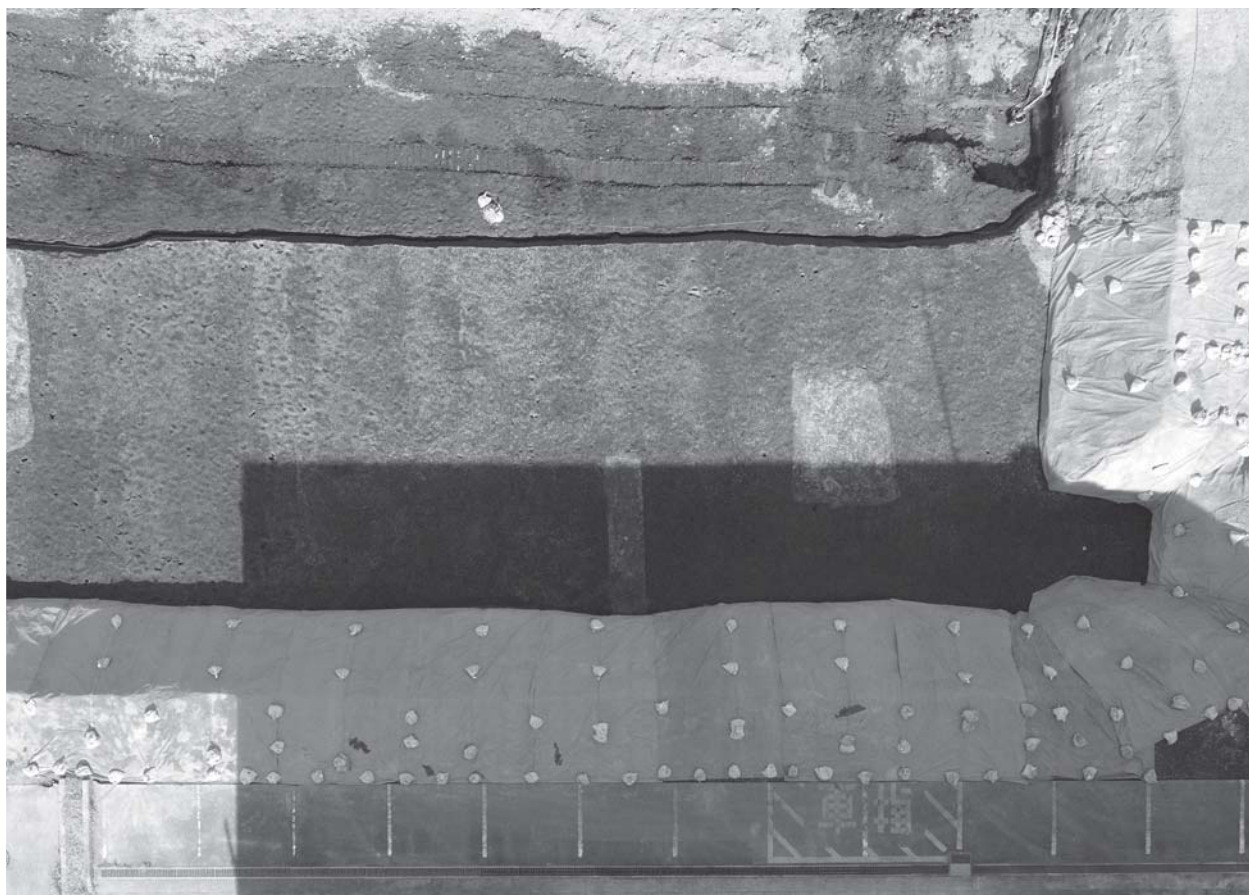
As-B軽石下水田北側全景（東から）



As-B軽石下水田南側全景（上が北）



As-B軽石下水田南側全景（上が北）



As-B軽石下水田南側全景（上が北）



As-B軽石下水田南側東部全景（北東から）



As-B軽石下水田北側西部全景（南西から）



As-B軽石下水田北側東部全景（南東から）



As-B軽石下水田南側西部全景（南東から）



As-B 軽石下水田耕作具痕全景（北東から）



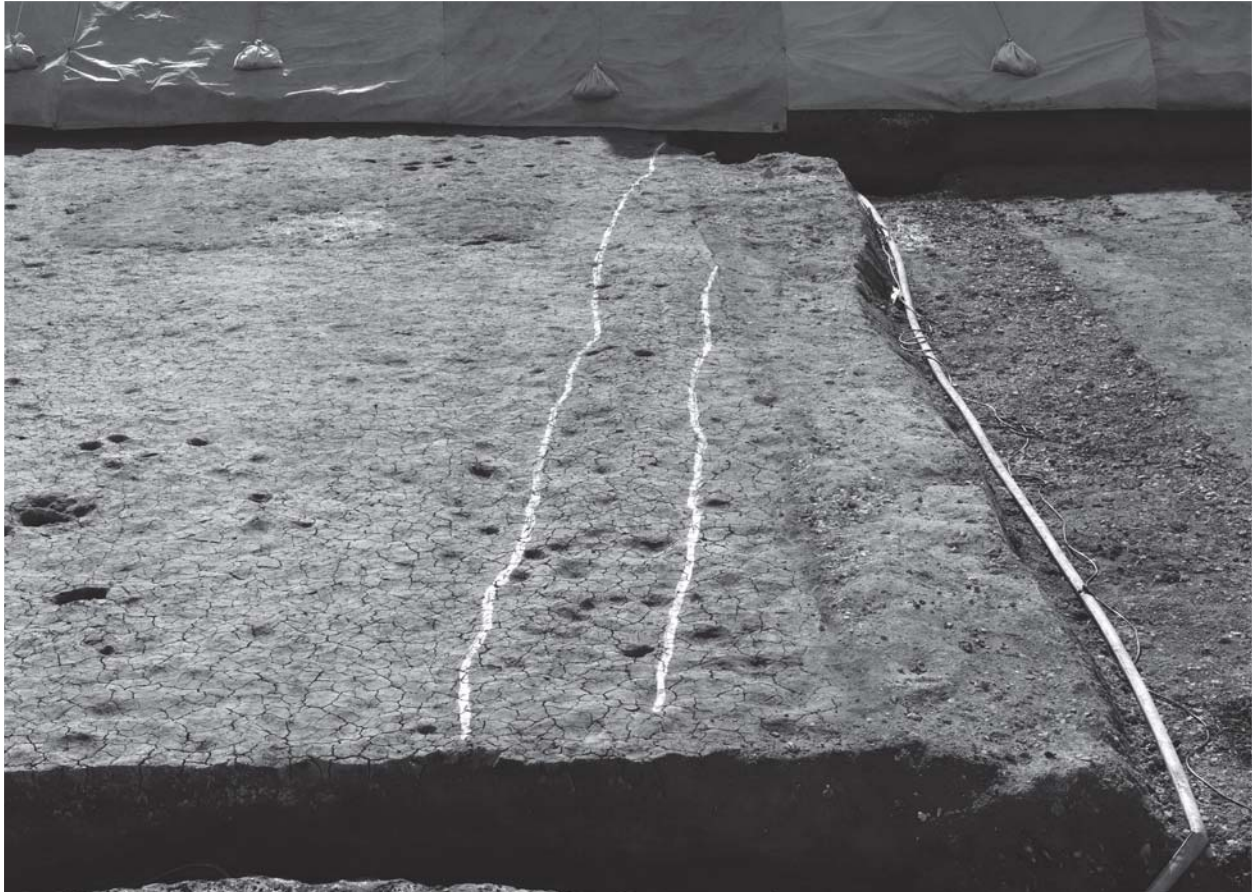
As-B 軽石下水田北側足跡全景（東から）



As-B軽石下水田畦畔1全景（北から）



As-B軽石下水田畦畔1全景（南から）



As-B 軽石下水田畦畔 2 全景 (北から)



As-B 軽石下水田畦畔 1 全景 (南東から)



As-B 軽石下水田畦畔 2 全景 (北西から)



As-B 軽石下水田畦畔 1 断面 (南から)



As-B 軽石下水田畦畔 2 断面 (南から)



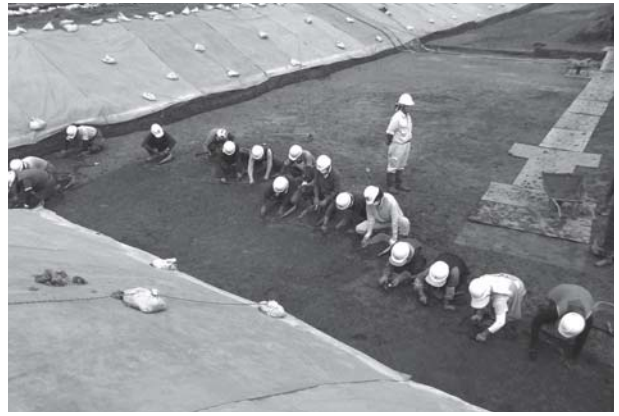
3工区トレンチ (北から)



3工区トレンチ土層断面 (北から)



遺構確認作業風景（西から）



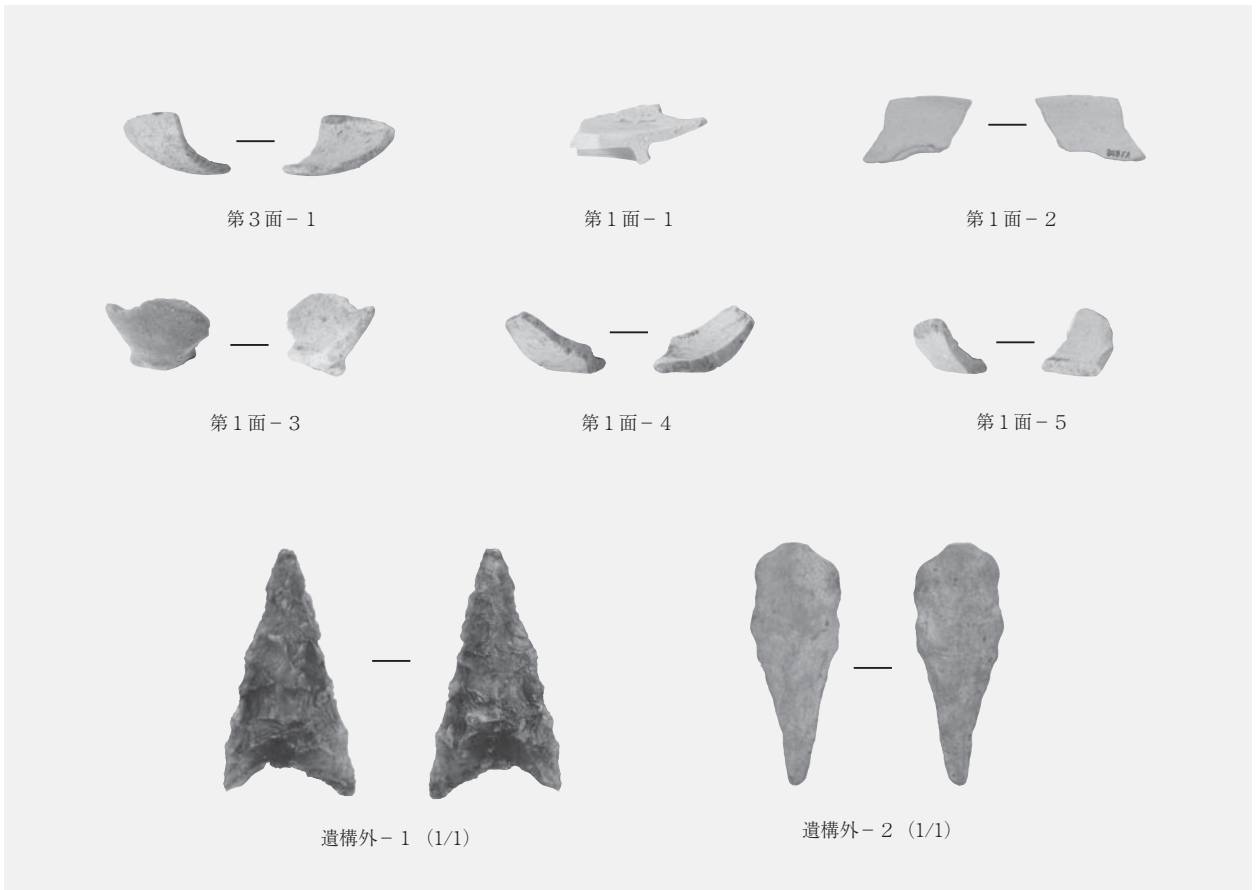
Hr-FA洪水層下水田調査風景（西から）



Hr-FA洪水層下水田調査風景（南西から）



遺構確認作業風景（東から）



報告書抄録

カタカナ	ハギワラオキナカイセキ10
書名	萩原沖中遺跡10
副書名	協和キリン高崎工場 HB 7 建設に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	-
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第482集
編著者名	佐野良平
編集機関	技研コンサル株式会社
編集機関所在地	〒371-0033 群馬県前橋市国領町2-21-12
発行機関	高崎市教育委員会
発行機関所在地	〒370-8501 群馬県高崎市高松町35-1
発行年月日	2023年3月31日

フリガナ	フリガナ	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
萩原沖中遺跡10	高崎市萩原町100番地1	102020	848	36°20' 16	139°04' 20	20220715 } 20221130	2,770㎡	工場建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
萩原沖中遺跡10	生産	古墳時代	Hr-FA 洪水層下水田	土師器	5世紀末～6世紀初頭の榛名山噴火を起因とする洪水堆積物に覆われた水田跡。
			Hr-FP 洪水層下水田		6世紀中頃の榛名山噴火を起因とする洪水堆積物に覆われた水田跡。
		平安時代	As-B 軽石下水田	土師器 須恵器	嘉承三年、天仁元年（1108）浅間山噴火によるAs-B軽石に覆われた条里型区画を伴う水田跡。

萩原沖中遺跡 10

-協和キリン高崎工場 HB 7 建設に伴う埋蔵文化財発掘調査-

2023年3月17日 印刷
2023年3月31日 発行

発行

高崎市教育委員会

〒371-8501 群馬県高崎市高松町35-1

編集

TEL 027-321-1292
技研コンサル株式会社

印刷

朝日印刷工業株式会社

